

長崎市経済成長戦略策定に係る市民アンケート調査

1. 調査目的

市民の就業状況、新しい生活様式の変化、消費対象・行動変化等を調査・分析し、新たな経済成長戦略に向けた基礎資料とする。

2. 調査概要

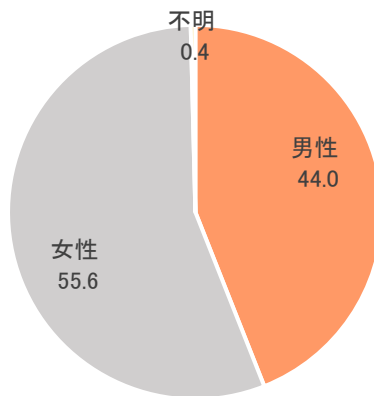
調査時期	令和3年5月
調査対象	長崎市在住の18歳から70歳までの男女2000人 (本調査では比較的若い世代の意見を多く取得することを目的に10代～50代に1800サンプル、60代以上に200サンプルを割り当てた)
調査方法	郵送による配布・回収
回収結果	745件(回収率37.3%)
調査内容	問1 性別 問2 年齢 問3 家族構成 問4 世帯報酬人数 問5 世帯年収 問6 職業・現在の状態 問7 業種、希望の業種 問8 職種、希望の職種 問9 勤め先の従業員数 問10 コロナ感染拡大後の労働環境や収入等の変化 問11 コロナ流行に際しての、勤め先の健康配慮 問12 コロナの影響による、業績への不安 問13 今後の自身の雇用の不安 問14 今後の自身の収入の不安 問15 勤め先への要望 問16 コロナ流行以降、仕事・キャリアに関わる新しい取り組み 問17 取り組みを行っている、行いたい目的 問18 コロナ流行に伴う「緊急事態宣言」を受けての働き方の変化

3. 調査結果

問 1: 性別

女性の回答者が男性に比べ多い

- 男性が 44.0%、女性が 55.6%と女性の回答が男性に比べ多い。

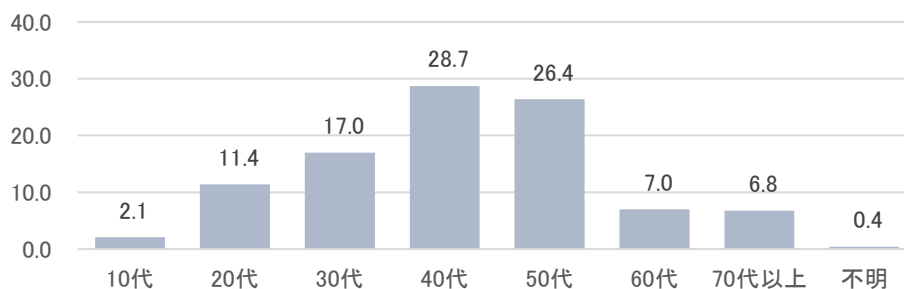


N=745

問 2: 年齢

40代が 28.7%で最多

- 本調査では特に働き盛りの世代の意見を重点的に把握するため、調査対象にウェイトをかけた結果、回答者は 40代が 28.7%で最も多く、50代が 26.4%が続いている。60代以上は 13.8%と実際の人口割合に比べ少なくなった。

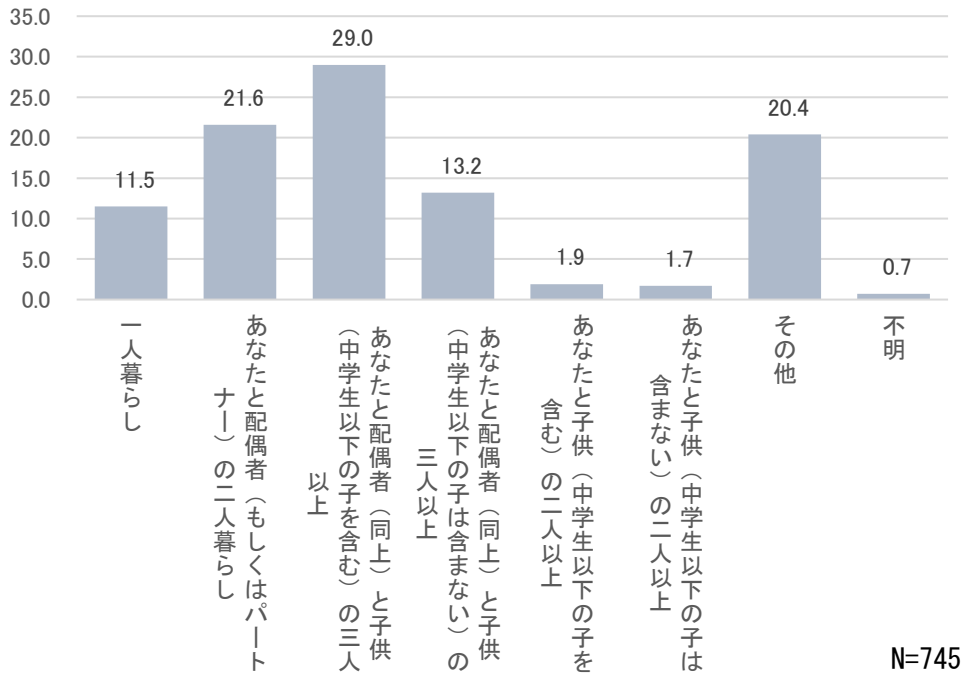


N=745

問 3: 家族構成

配偶者を含めた二人以上が全体 64%

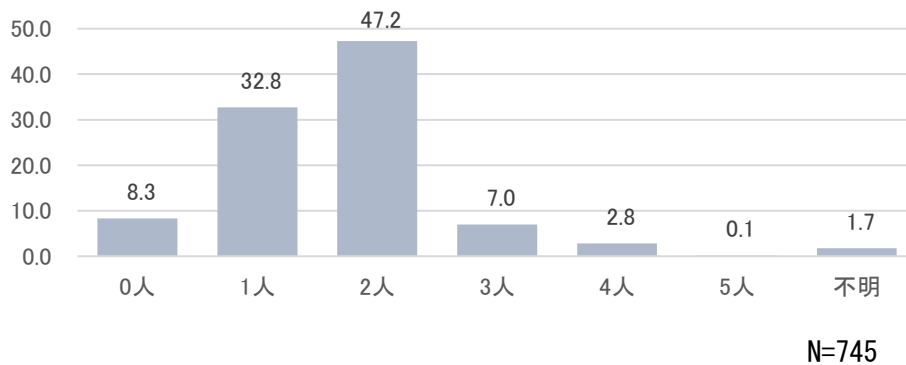
- 「回答者と配偶者の 3 人以上」が 29.0%で最も多く、「回答者と配偶者の二人暮らし」が 21.6%で続いている。



問 4 世帯報酬人数

1人が47.2%で最多

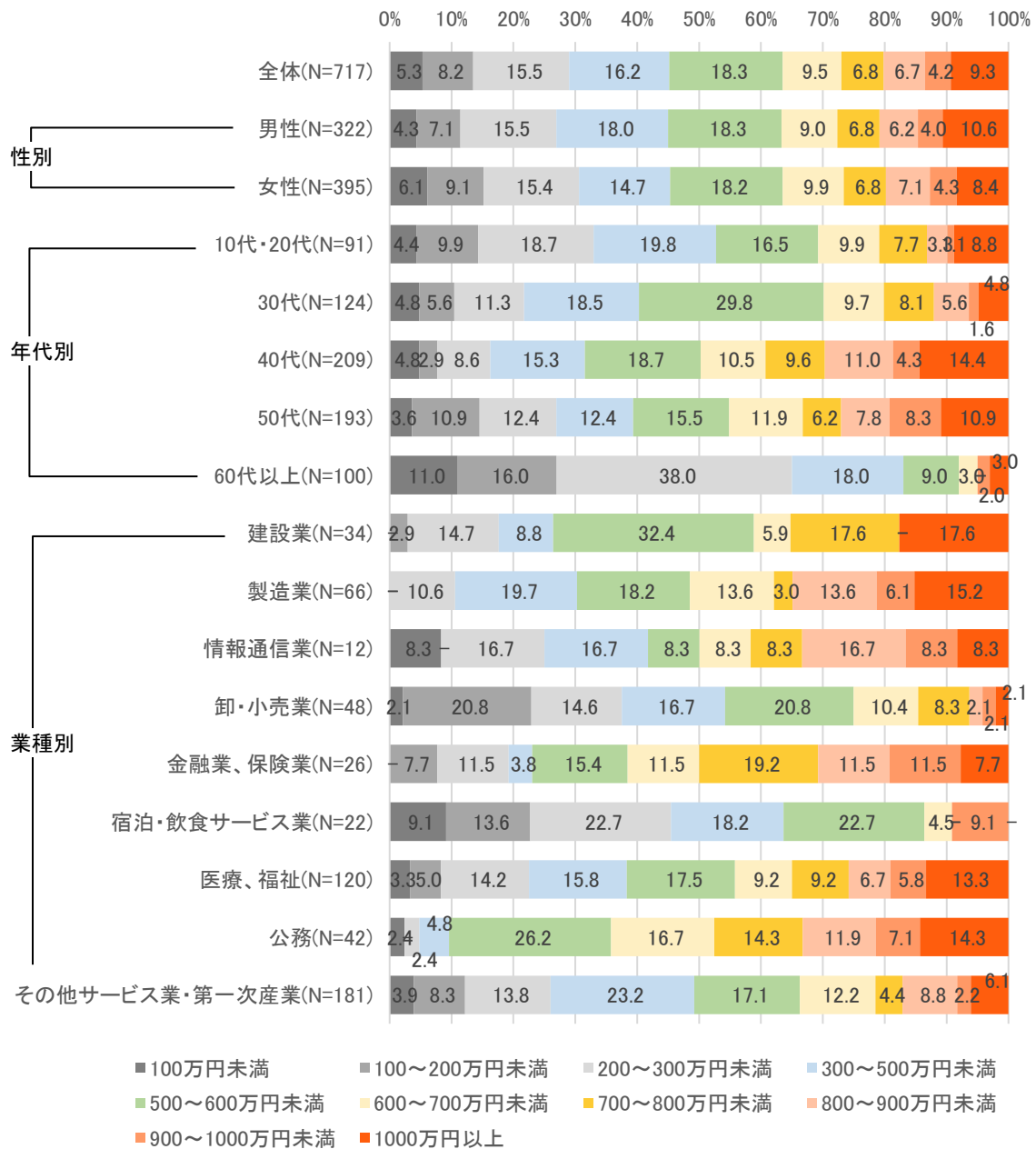
- 「2人」が47.2%で最も多く、「1人」が32.8%で続いている。



問 5:世帯年収

500～600万円世帯が最多。300万円未満が約3割

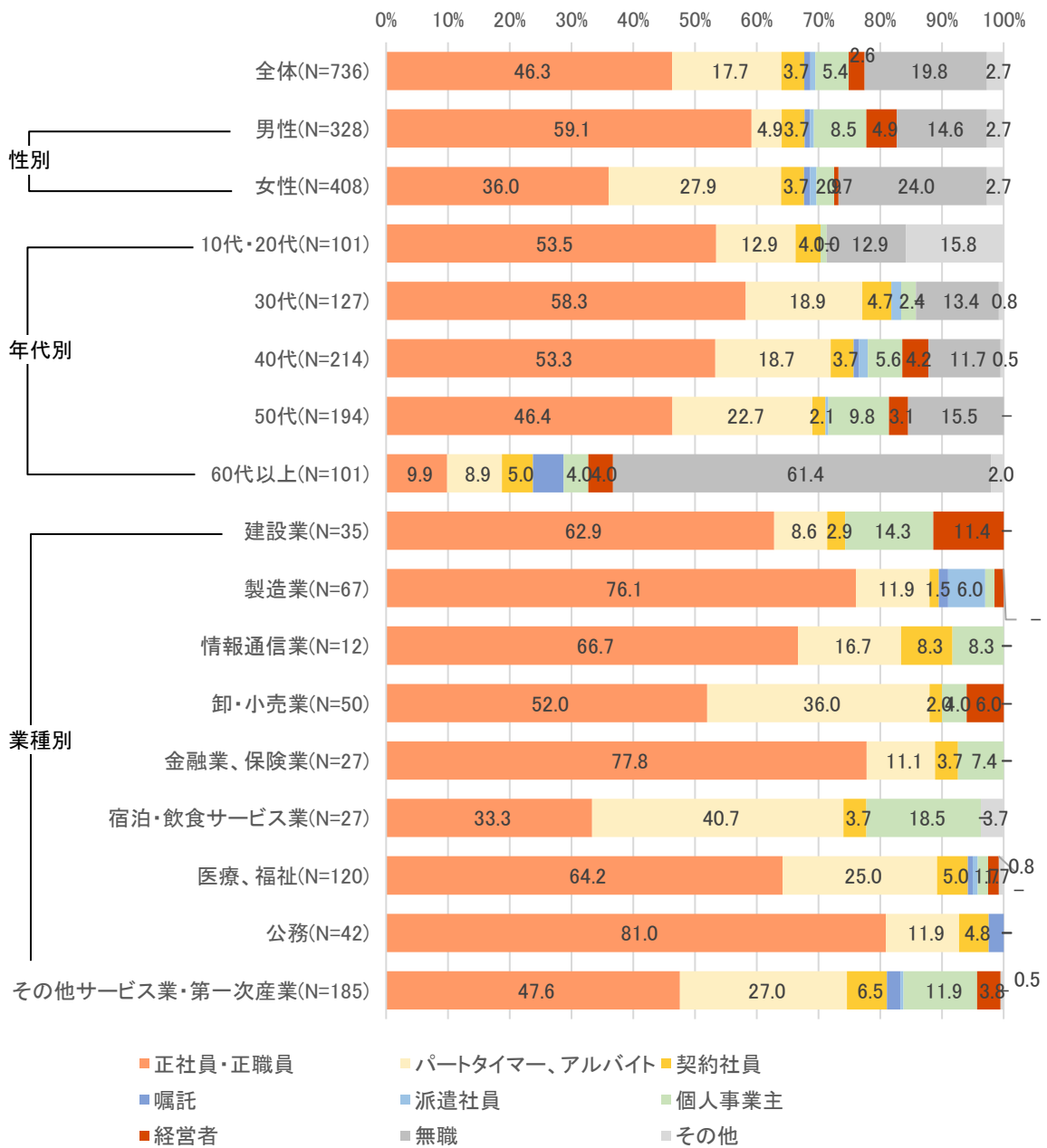
- ・ 世帯年収は「500～600万円」が18.3%で最も多く、「300～500万円」が16.2%で続いている。
- ・ 年代別では40代の世帯収入が最も高く、60代以上が最も少ない。
- ・ 職業別では500万円以上が最も多いのは「公務」(90.5%)で、「金融・保険業」、「建設業」、「製造業」が続いている。



問 6: 職業・現在の状態

正社員・正職員が 46.3% で最多。60 代以上は 6 割が無職

- ・ 「正社員・正職員」が 46.3% で最も多く、「無職」が 19.8% で続いている。
- ・ 年代別では「正社員・正職員」は 10 代～40 代で 50% を超える。
- ・ 業種別では「正社員・正職員」は公務員が 81.0% で最も多く、金融業・保険業が 77.8%、製造業が 76.1% で続いている。「パート・アルバイト」は宿泊・飲食サービス業で 40.7% と最も多い。

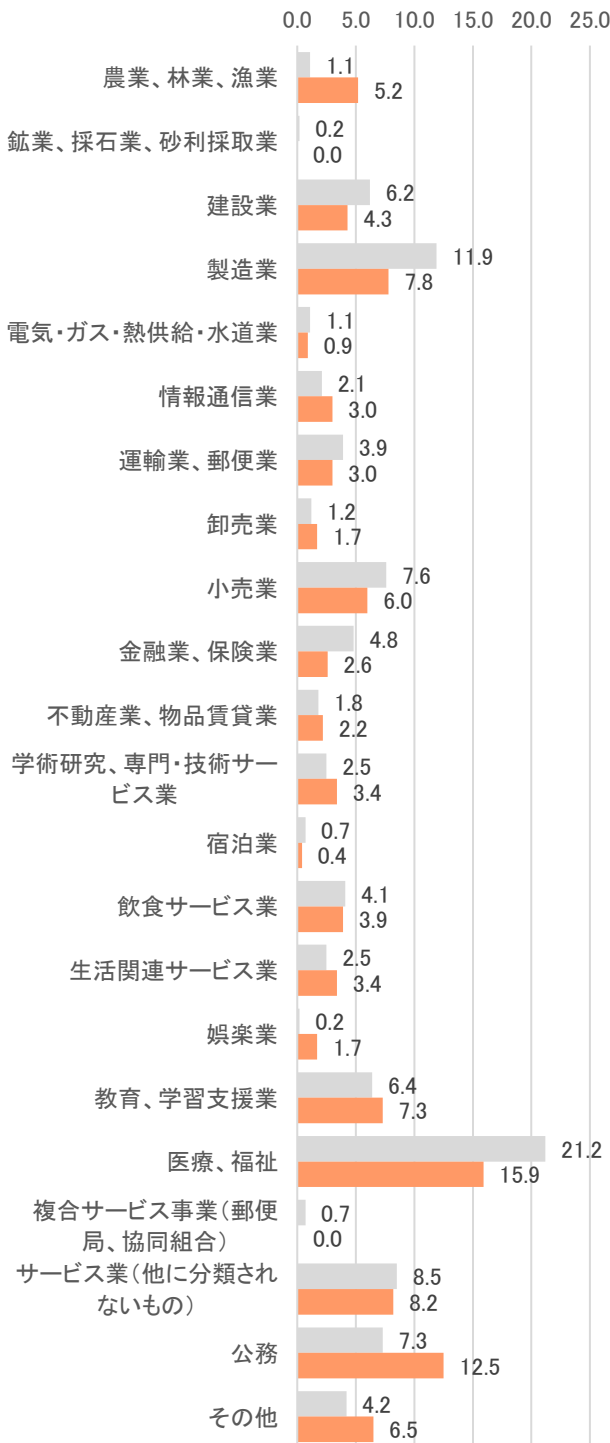


◎働いている方にお聞きします。

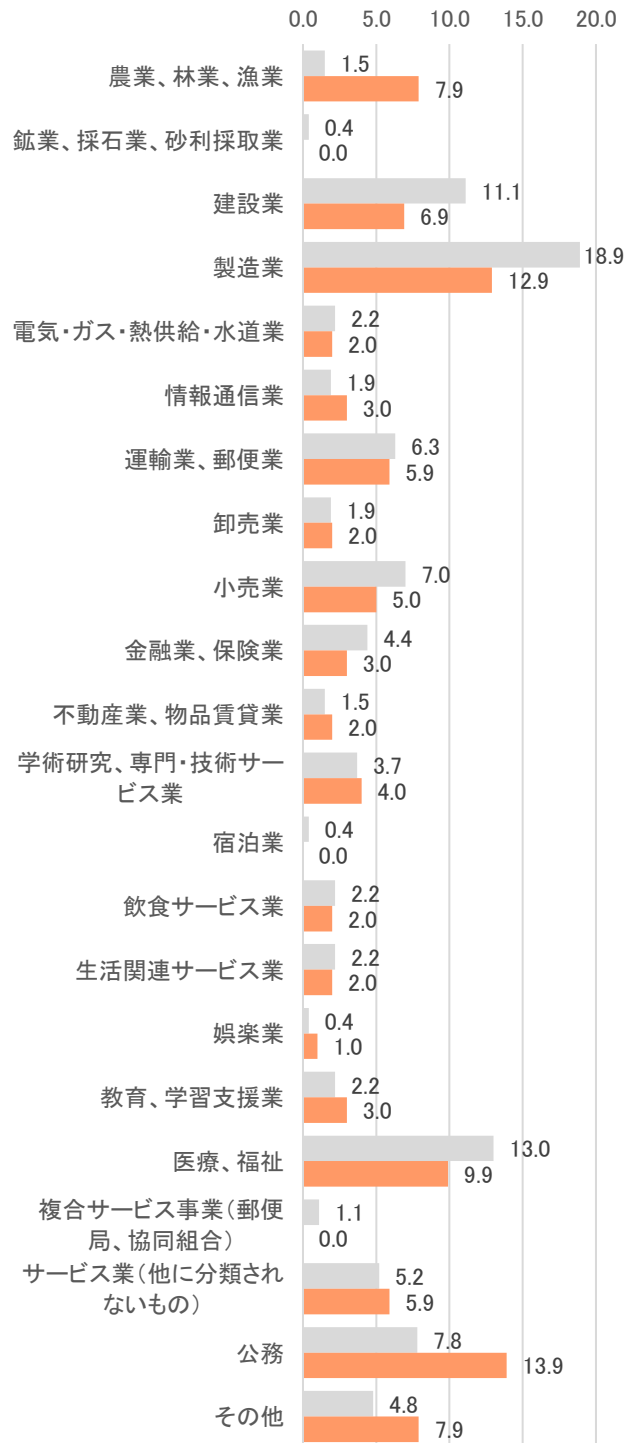
問7:現在の業種、理想の業種

製造業や医療・福祉などで理想と現実のギャップが大きい

〔全体〕



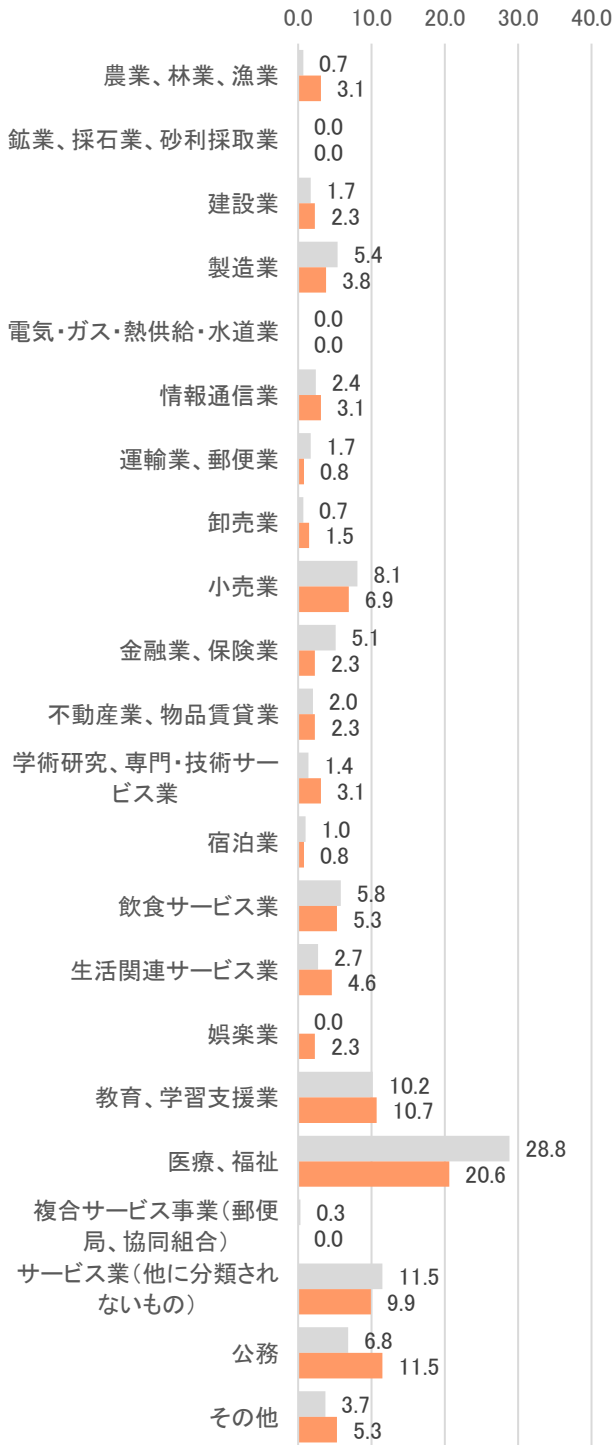
〔男性〕



■【現状】全体(N=565) ■【理想】全体(N=232)

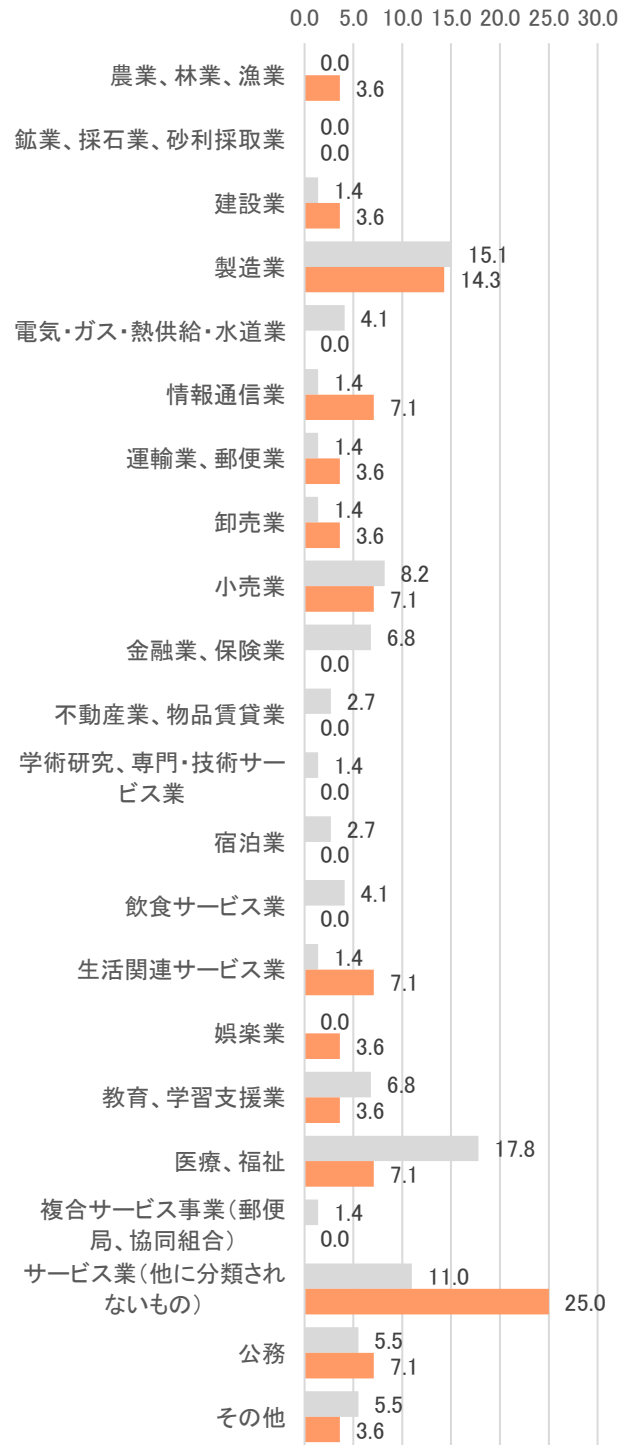
■【現状】男性(N=270) ■【理想】男性(N=101)

[女性]



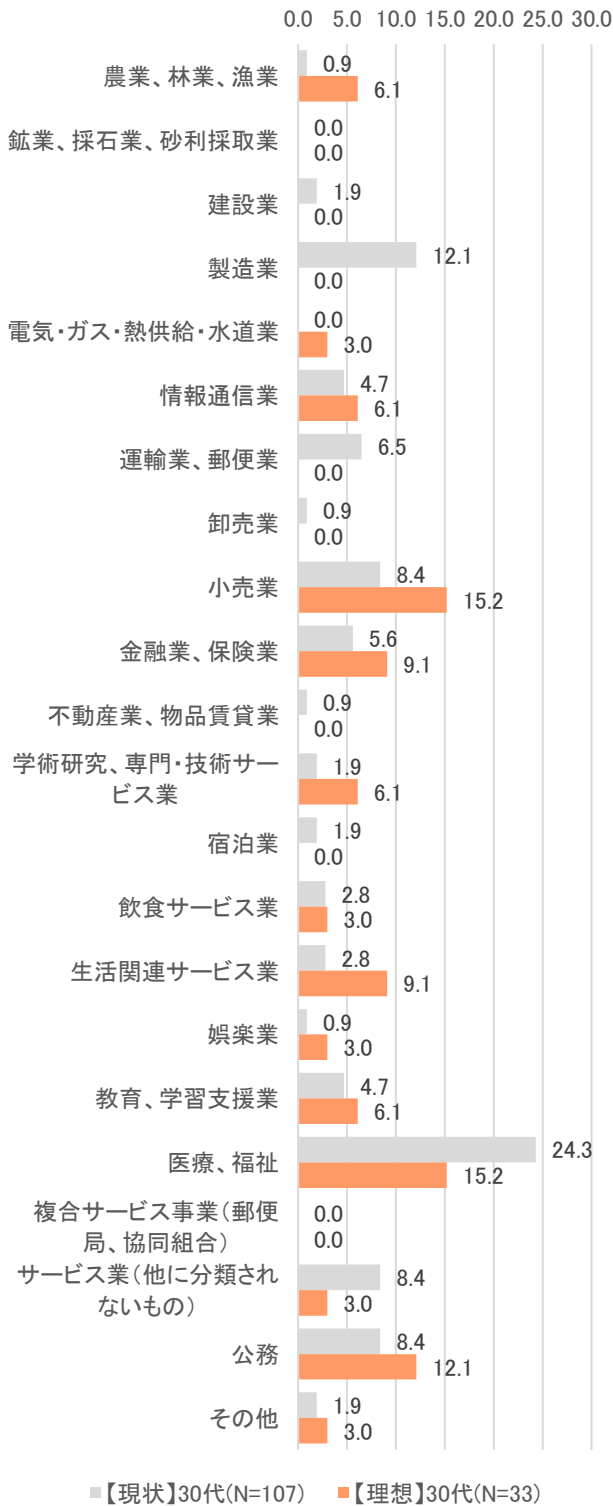
■【現状】女性(N=295) ■【理想】女性(N=131)

[10代・20代]

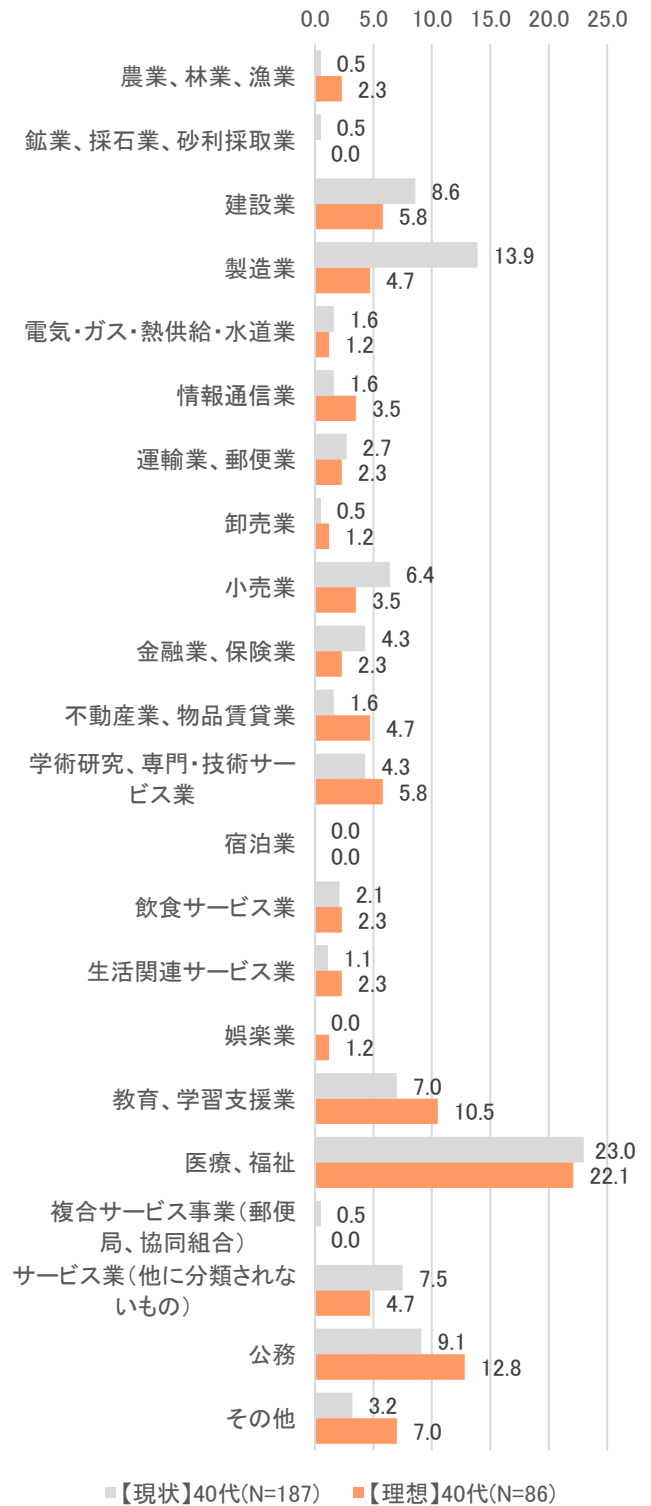


■【現状】10代・20代(N=73) ■【理想】10代・20代(N=28)

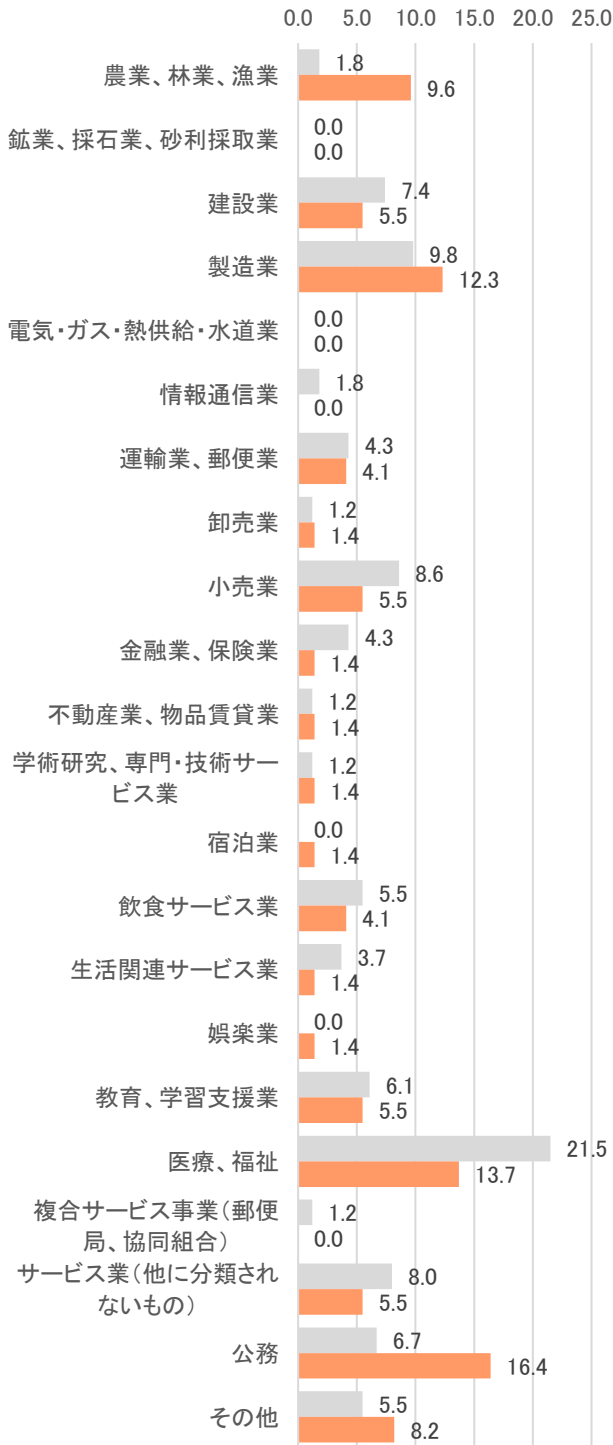
〔30代〕



〔40代〕

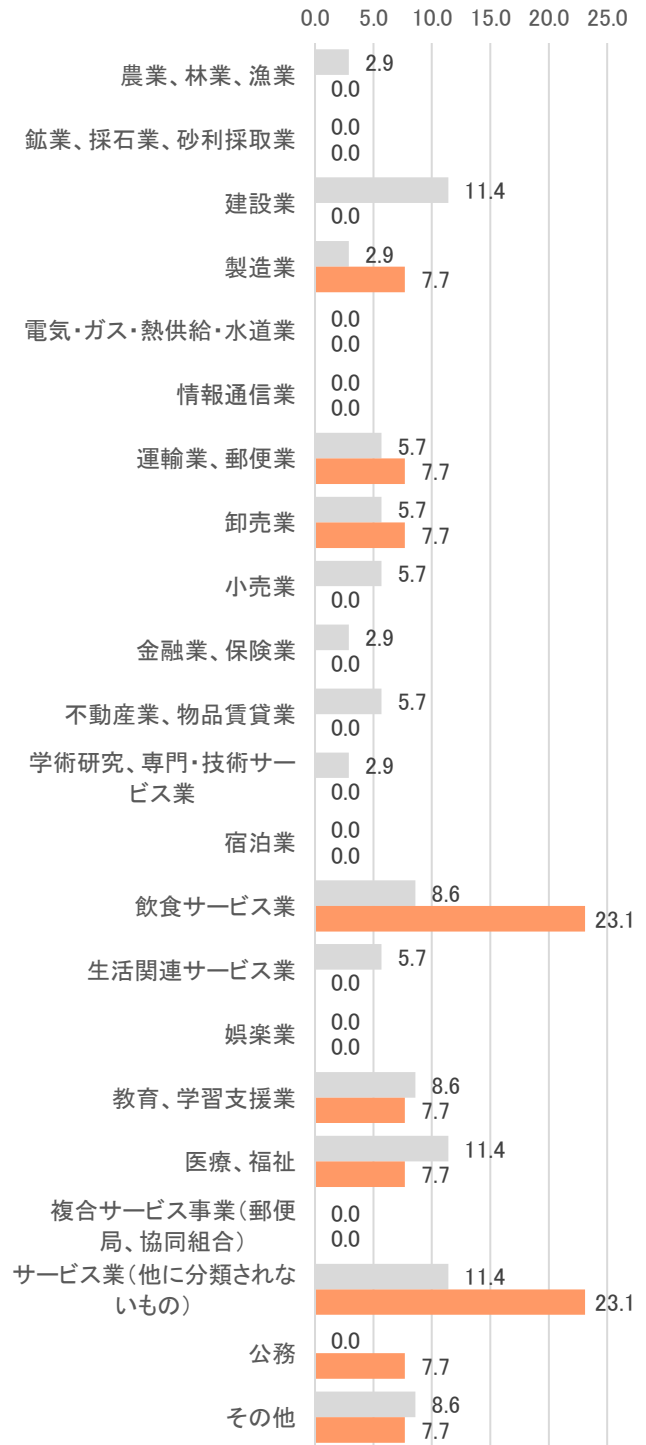


[50代]



■【現状】50代(N=163) ■【理想】50代(N=73)

[60代以上]



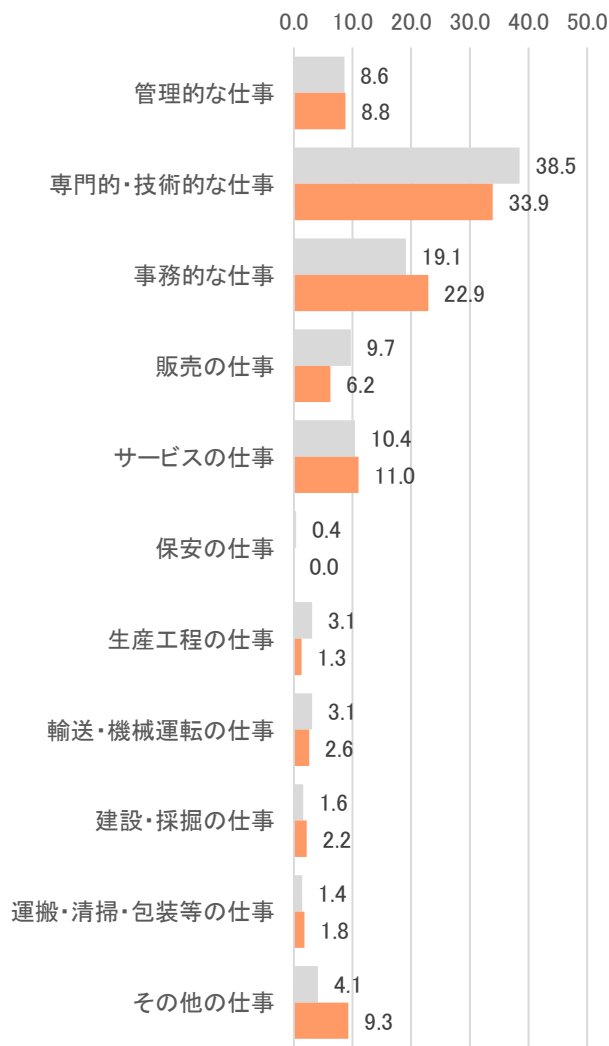
■【現状】60代以上(N=35) ■【理想】60代以上(N=13)

問 8:現在の職種、理想の職種

専門的・技術的な仕事や事務的な仕事でギャップが大きい

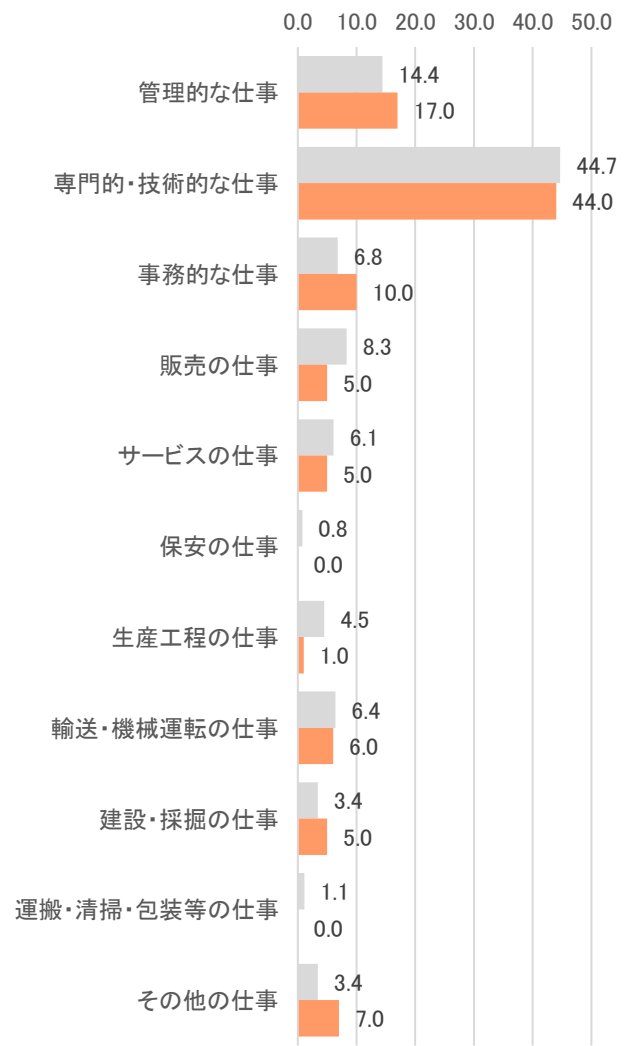
- 現在の職種と希望の職種の差異（ギャップ）をみたところ、全体・男女別では明確なギャップはみられなかったものの、年代別では「専門的・技術的な仕事」から別の職種への希望が多いことが窺える結果となった。また、30代、50代では「事務的な仕事」の希望、60代では「専門的・技術的な仕事」や「サービスの仕事」の希望が多くなっている。

〔全体〕



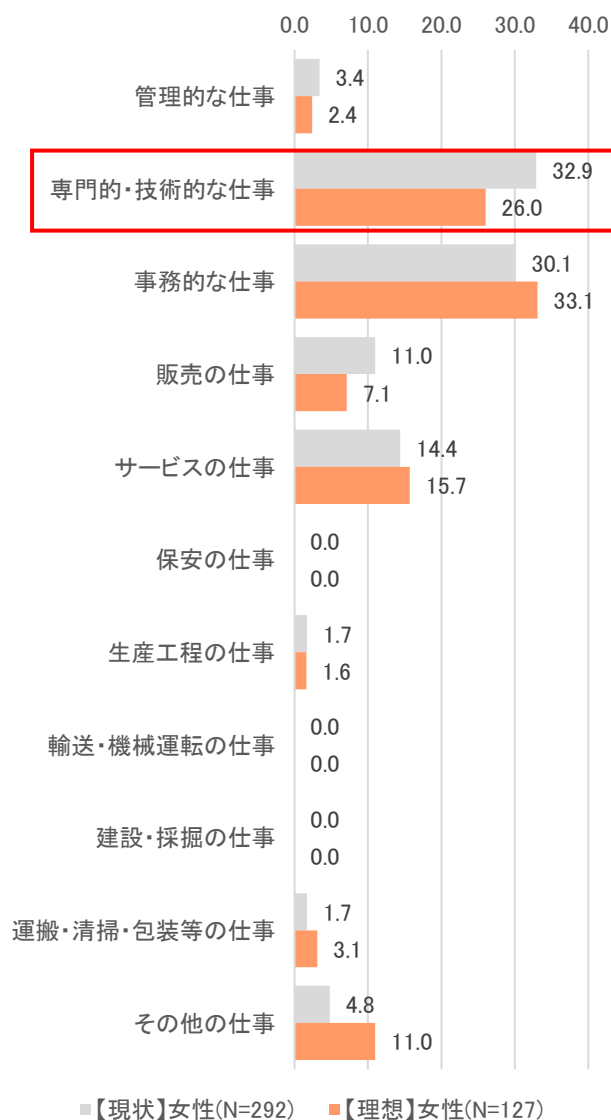
■【現状】全体(N=556) ■【理想】全体(N=227)

〔男性〕

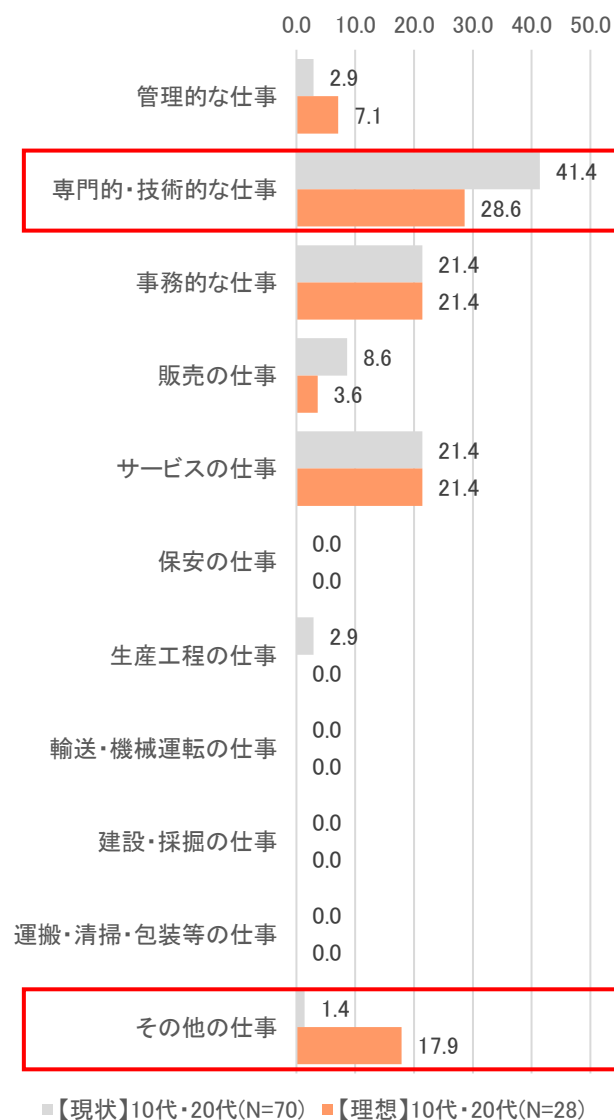


■【現状】男性(N=264) ■【理想】男性(N=100)

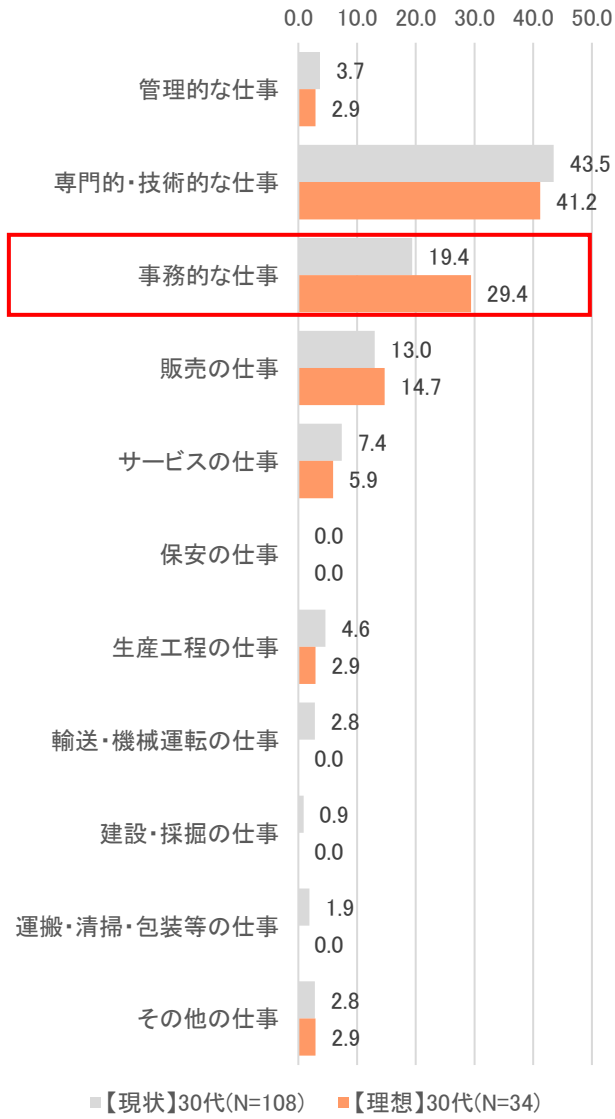
〔女性〕



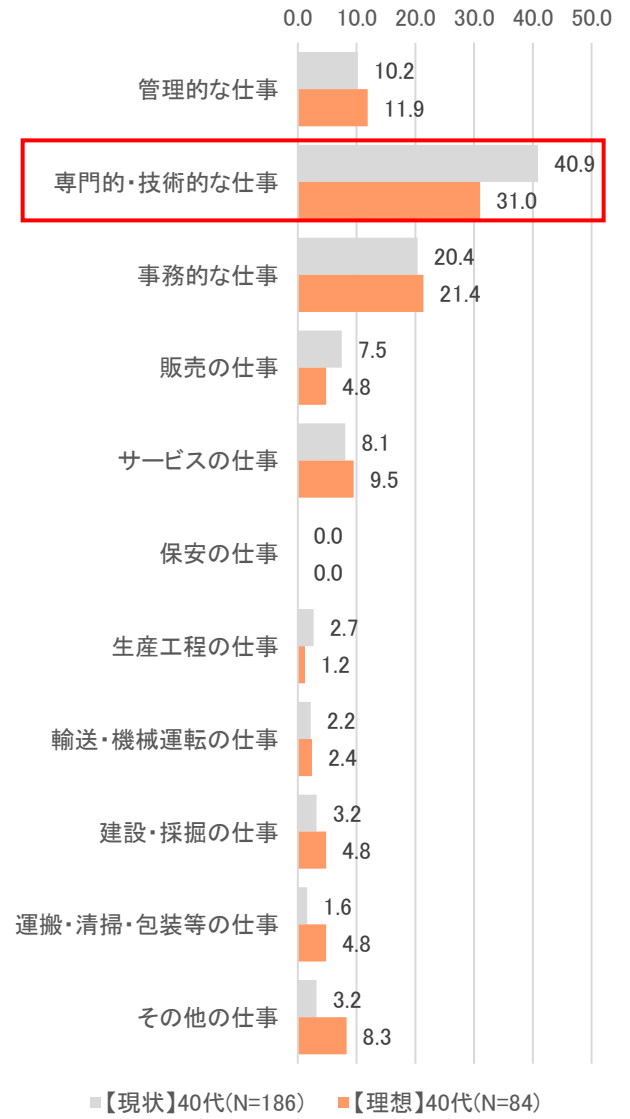
〔10代・20代〕



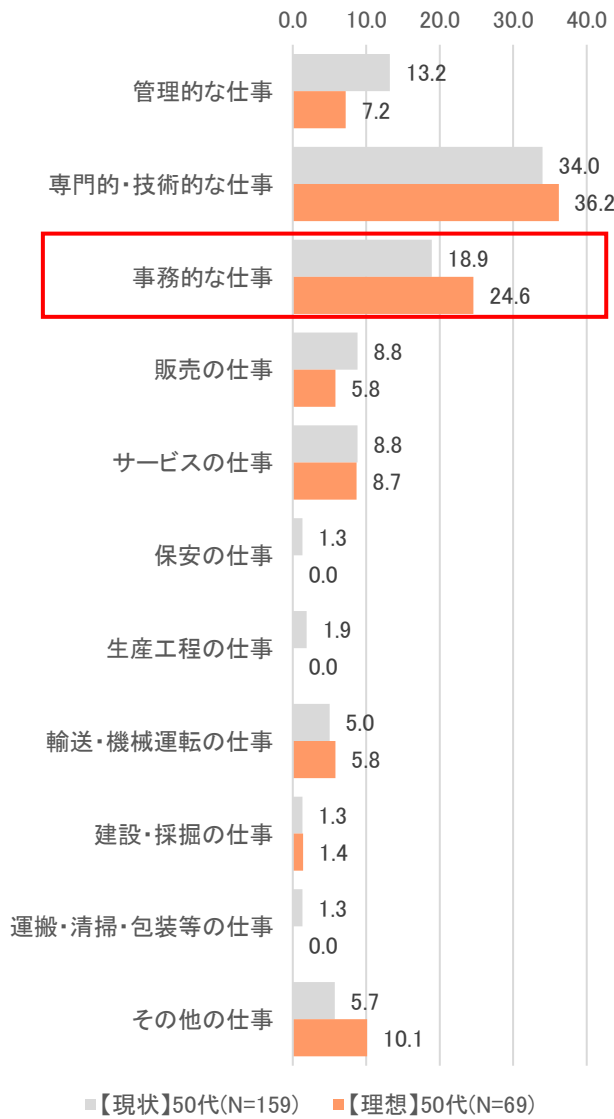
〔30代〕



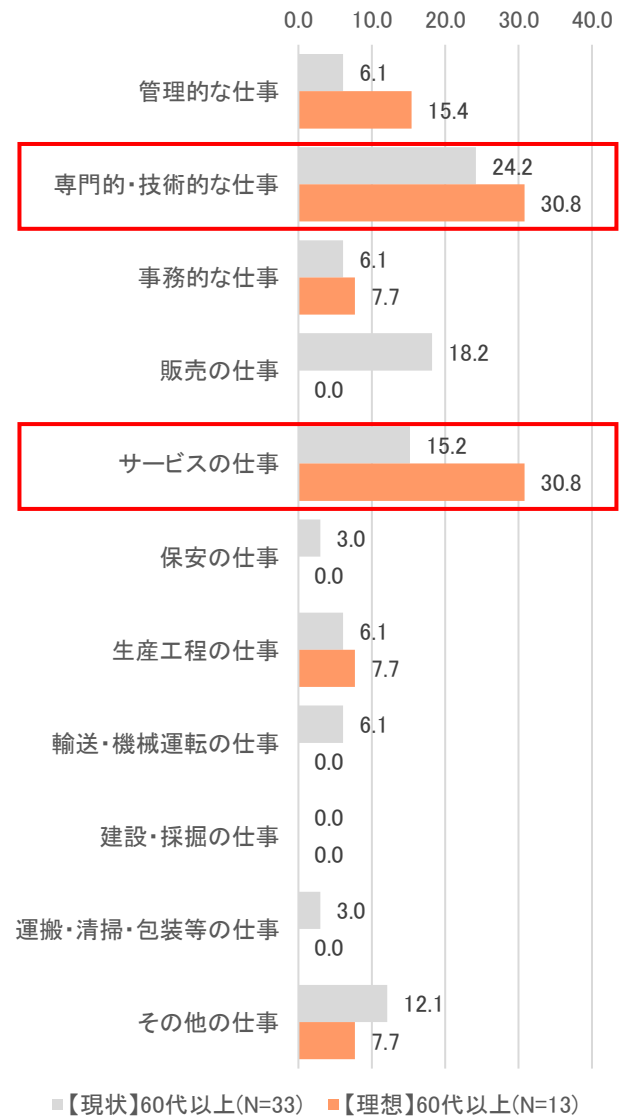
〔40代〕



[50代]



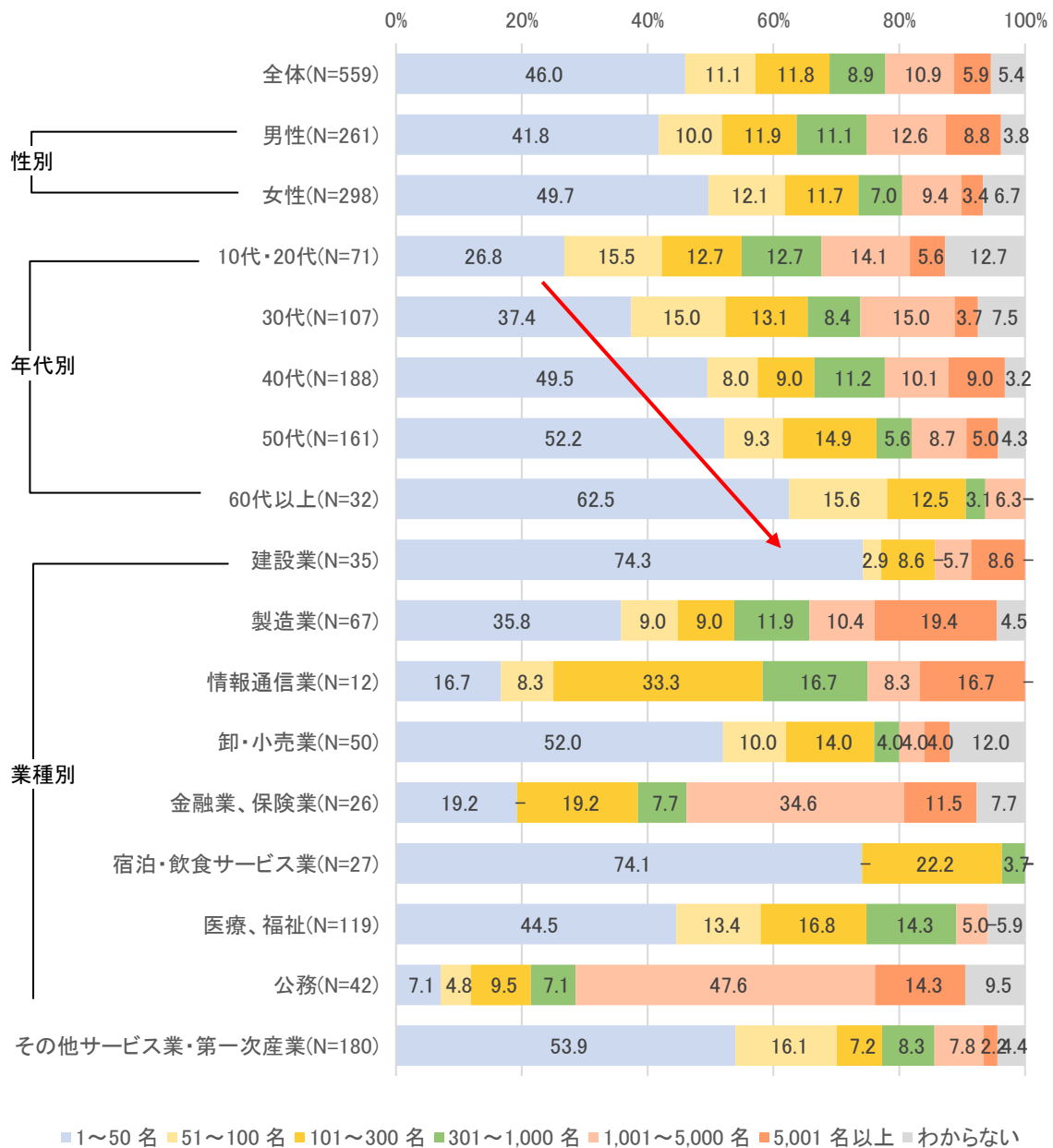
[60代以上]



問 9: 勤め先の従業員数

年代が高くなるにつれて小規模な事業所への勤務が多い

- 勤め先の従業員数は「1～50 人」が 46.0%で最も多い。男女別でみると男性に比べ女性の方が小規模な事業所への勤務が多い傾向が窺える。
- 年代別では高年代ほど小規模な事業所への勤務が多い。
- 業種別では、建設業と宿泊・飲食サービス業の7割以上が「1～50 人」の事業所である。

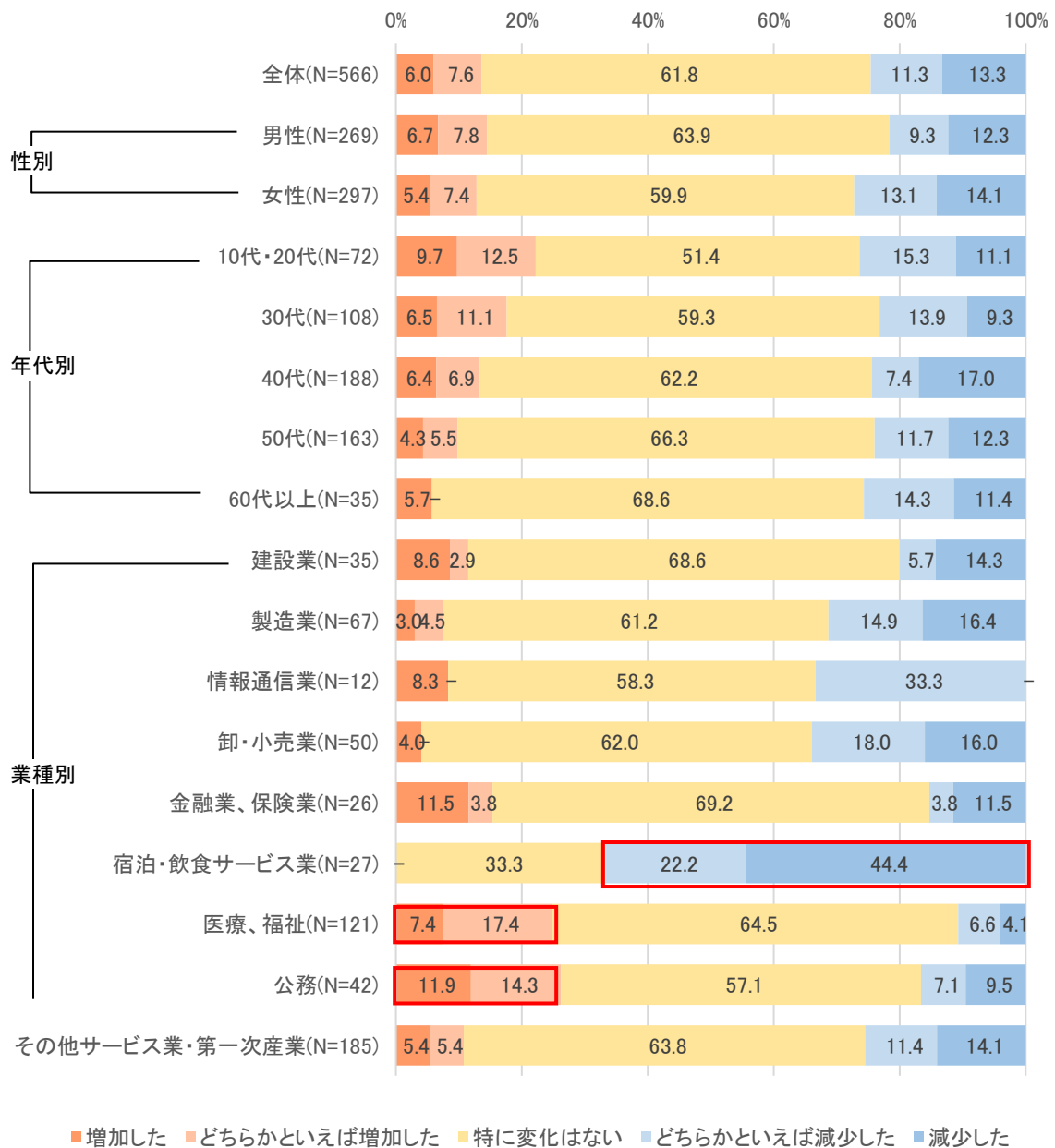


問 10:新型コロナウイルス感染拡大後の労働環境や収入等の変化

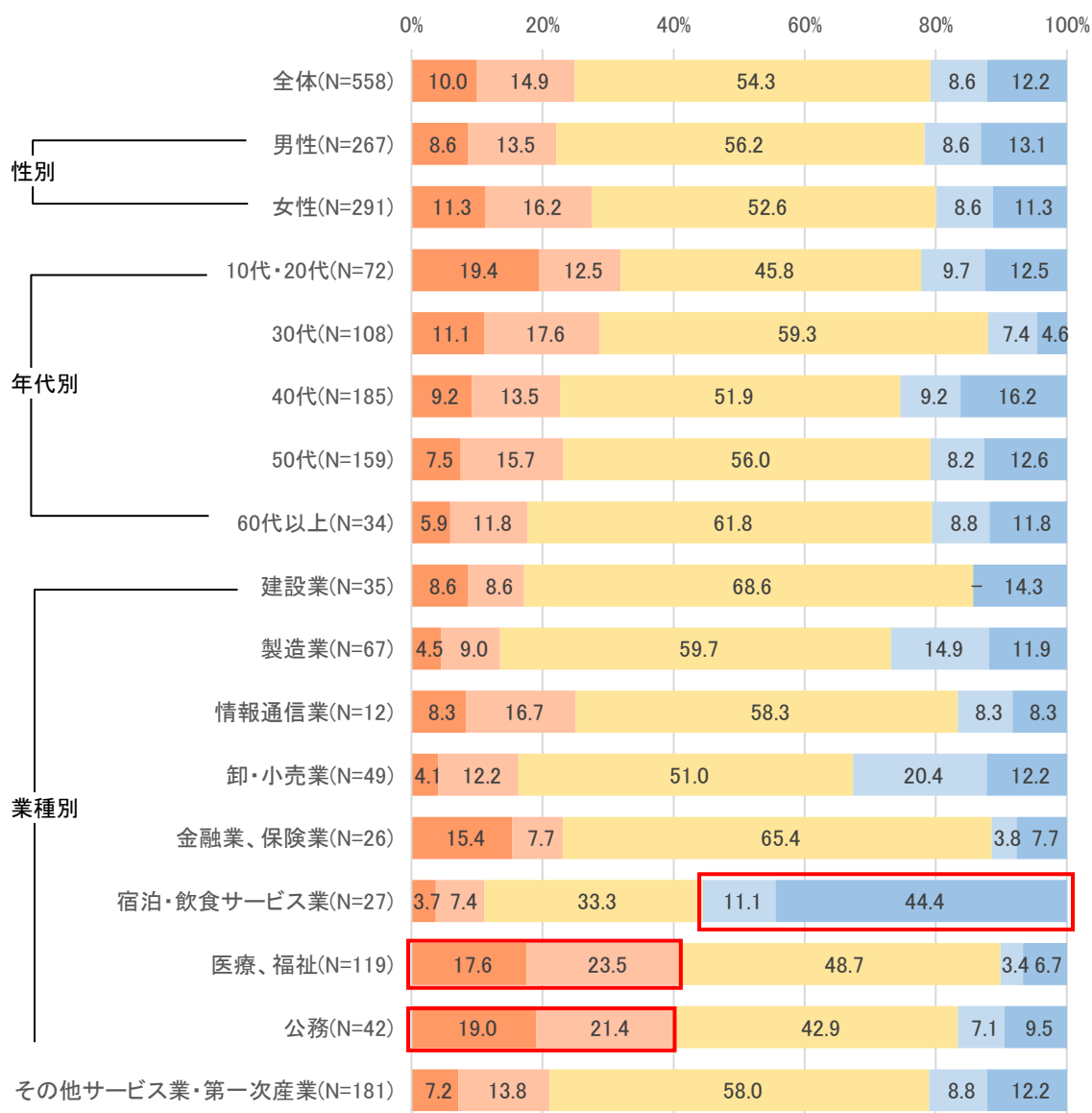
宿泊・飲食サービス業では労働時間、業務量、収入とも大きく減少

- ・ 全体的には「特に変化はない」が最も多いが、労働時間と世帯収入は「増加した」、「どちらかといえば増加した」に比べ、「減少した」、「どちらかと減少した」の割合が高い。
- ・ 業種別では特に宿泊・飲食サービス業の影響が大きく、世帯収入では59.2%が減少傾向を示している。

〔労働時間〕

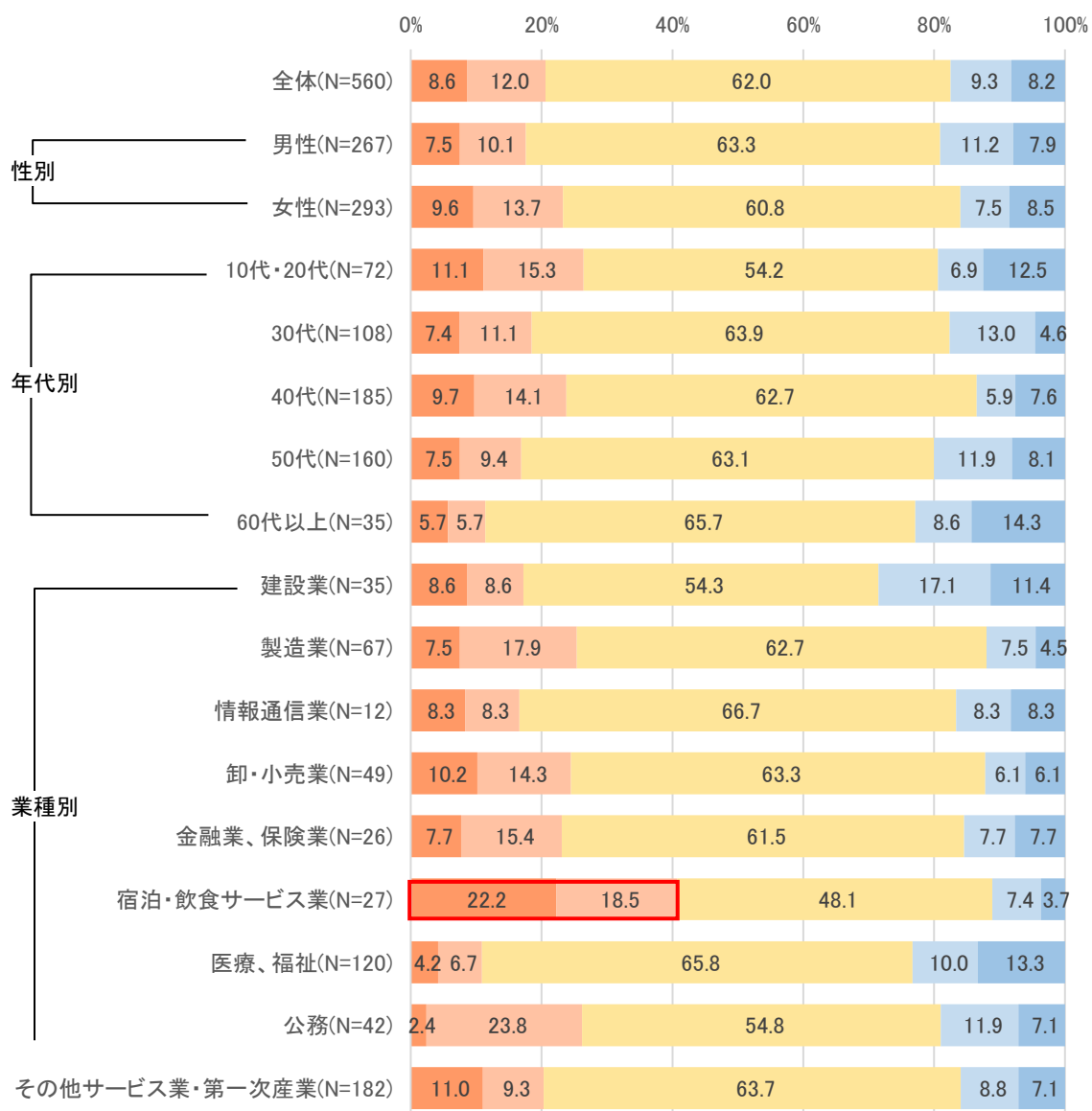


〔業務量〕



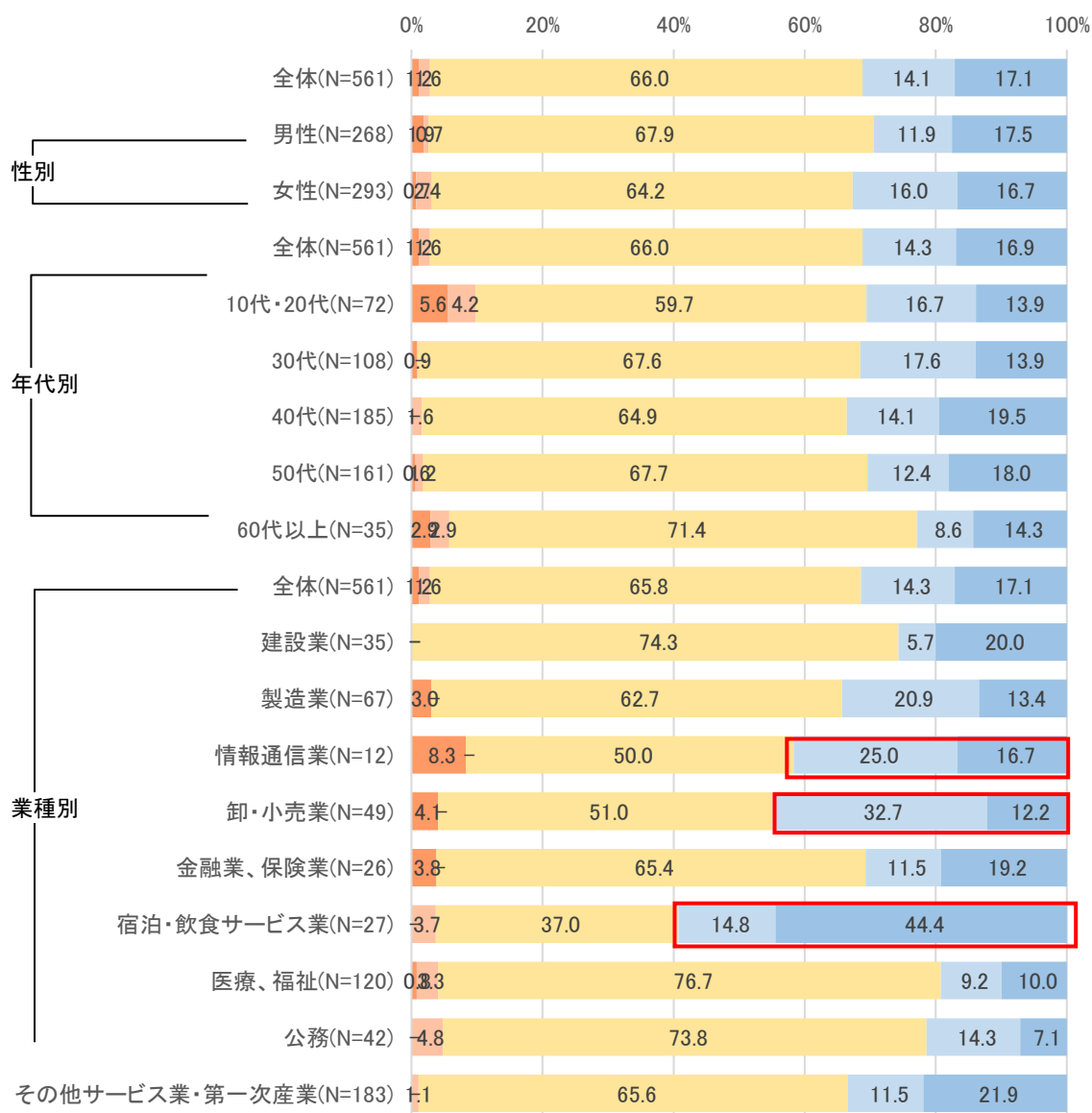
■増加した ■どちらかといえば増加した ■特に変化はない ■どちらかといえば減少した ■減少した

〔余暇所間〕



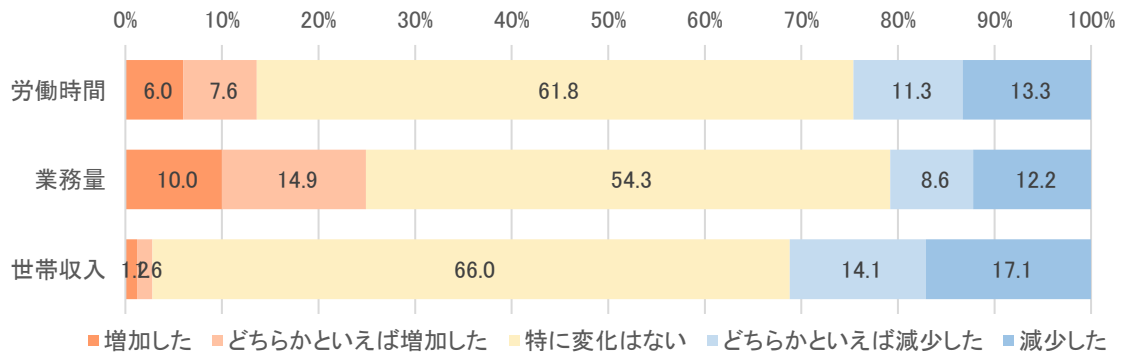
■増加した ■どちらかといえば増加した ■特に変化はない ■どちらかといえば減少した ■減少した

〔世帯収入〕

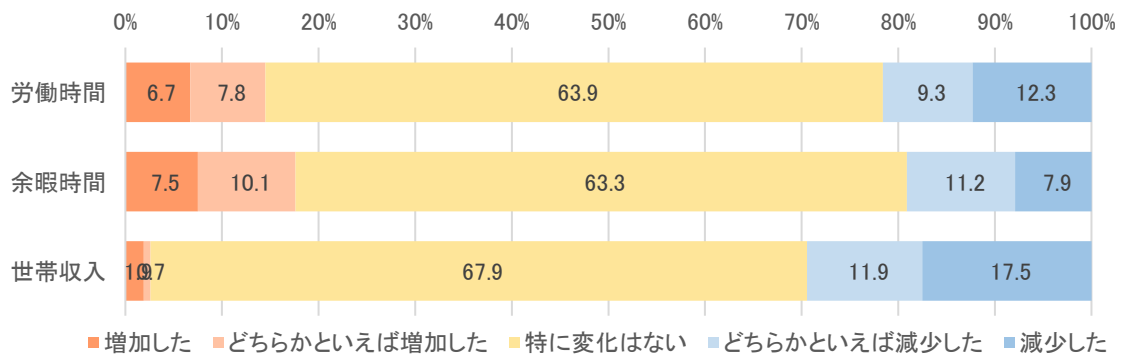


■増加した ■どちらかといえば増加した ■特に変化はない ■どちらかといえば減少した ■減少した

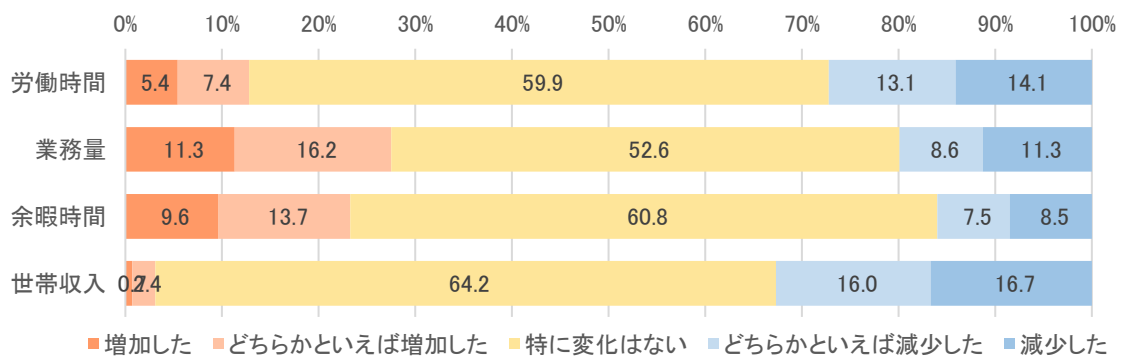
〔全体〕



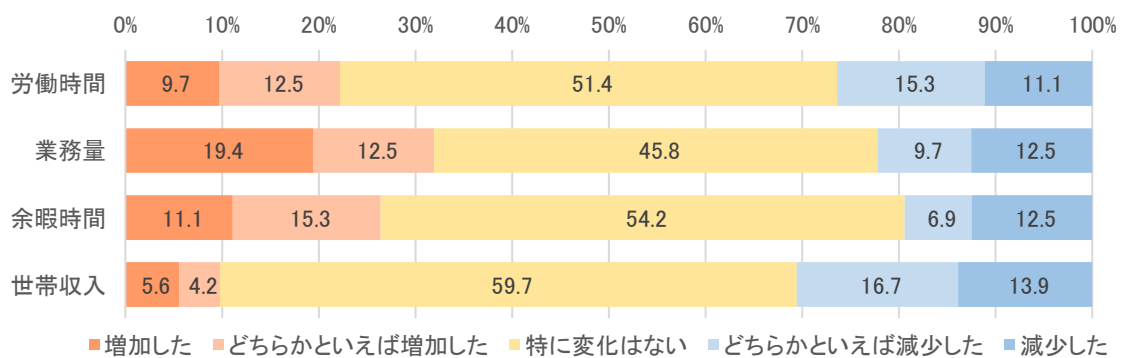
〔男性〕



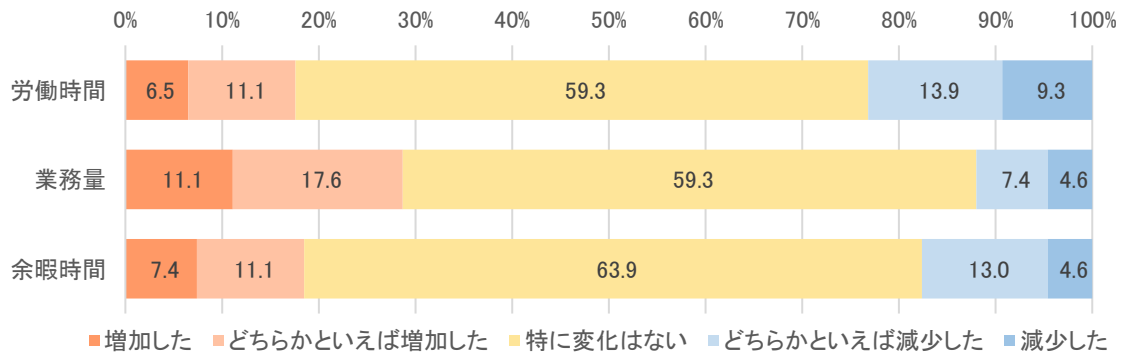
〔女性〕



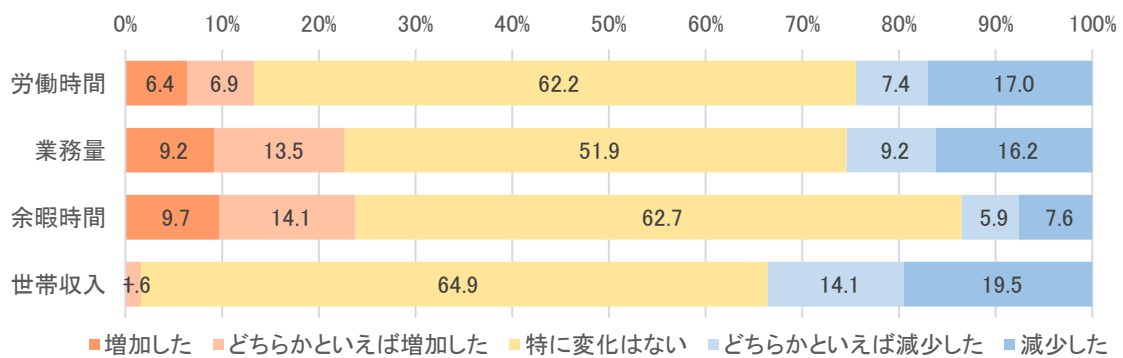
〔10代・20代〕



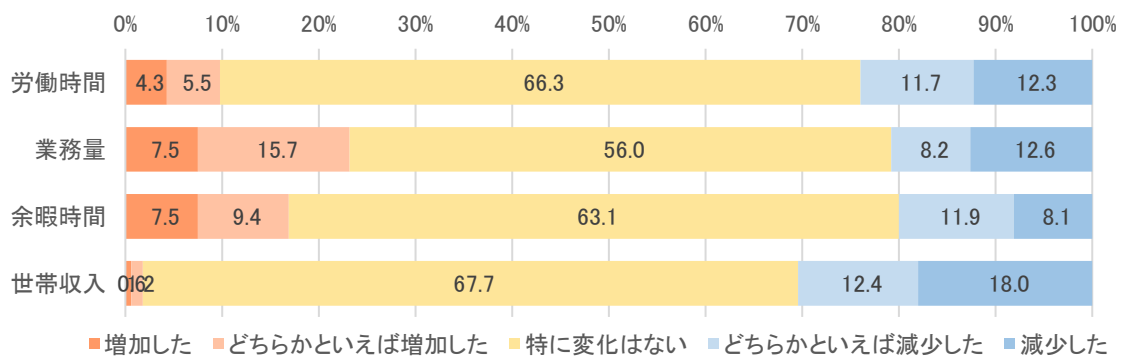
[30代]



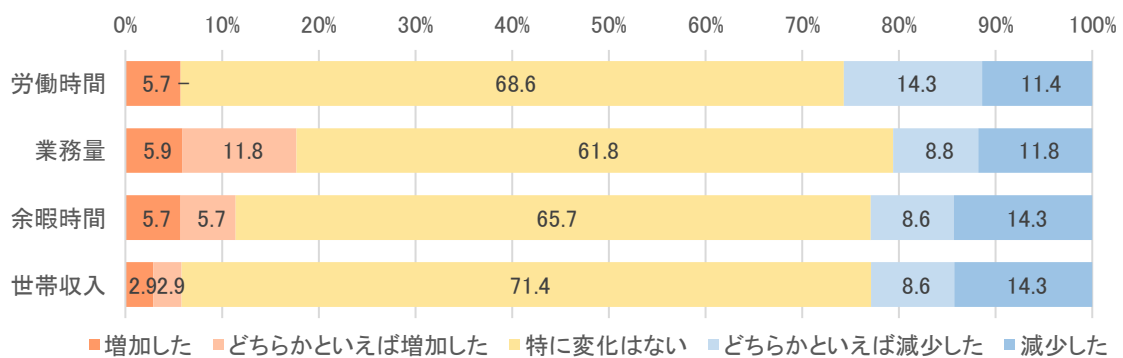
[40代]



[50代]



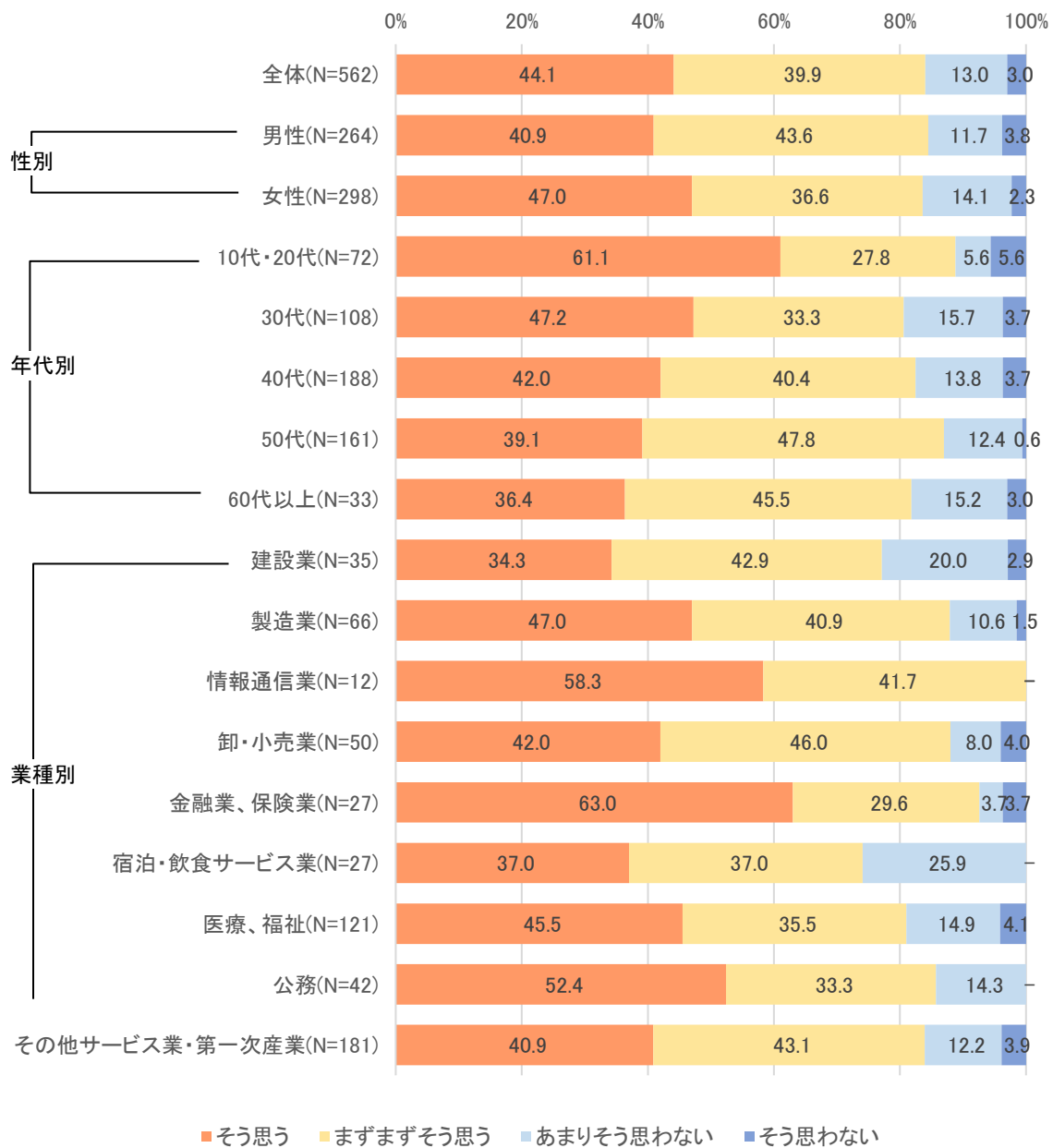
[60代以上]



問 11:新型コロナウイルス流行に際しての勤め先の健康への配慮

8 割以上が健康への配慮を実感

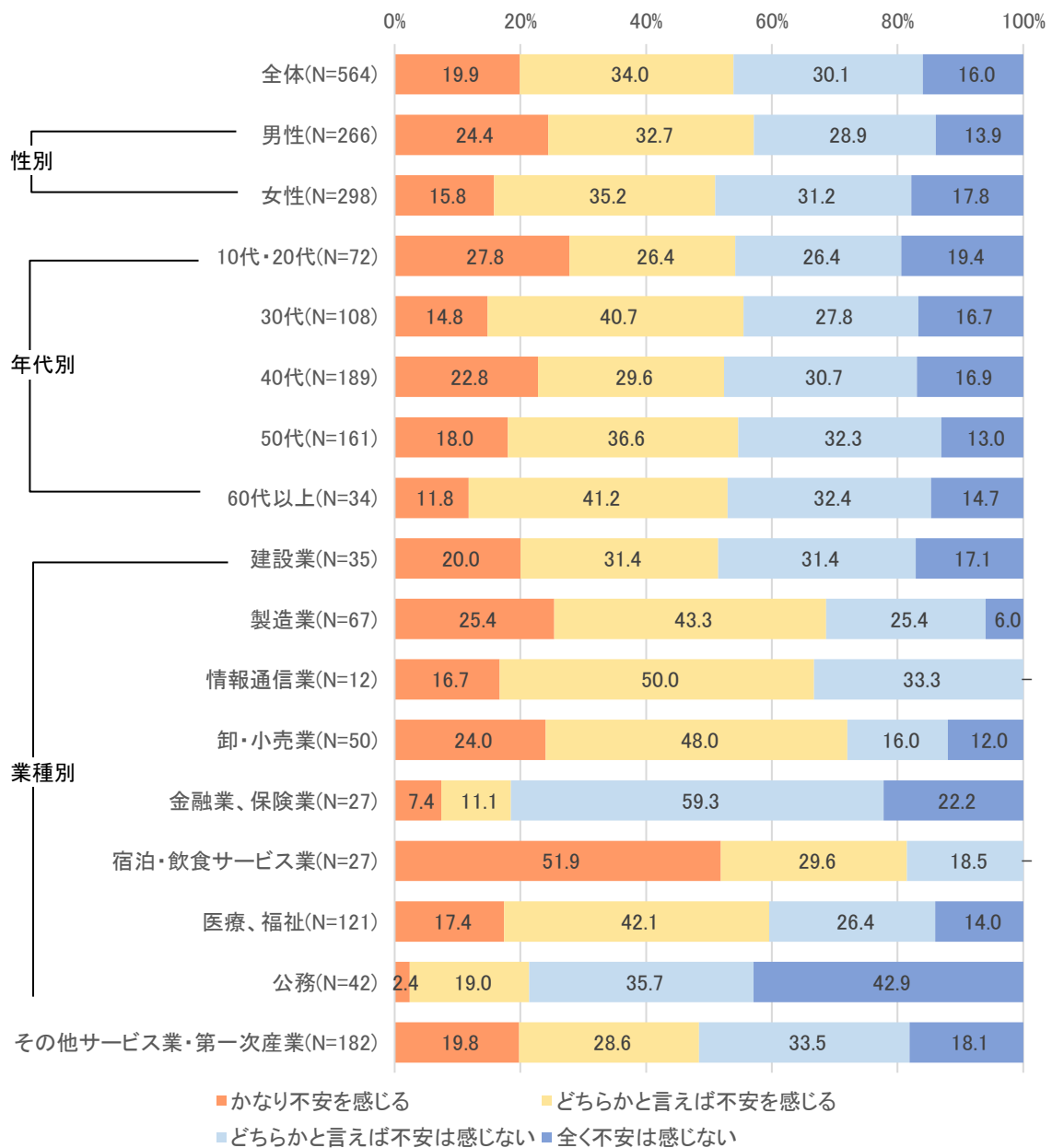
- 勤め先が健康に対し配慮しているか尋ねたところ、「そう思う」、「まずまずそう思う」の割合が 8 割を超えており、健康への配慮が窺える結果となった。年代別では若い世代ほど配慮を感じる傾向が窺える。
- 業種別では特に、金融・保険業や情報通信業、公務で「そう思う」が 50%を超えるなど高い配慮が窺える。



問 12:新型コロナウイルスの影響による勤め先の業績に関する不安

宿泊・飲食サービス業などで業績不安が広がる

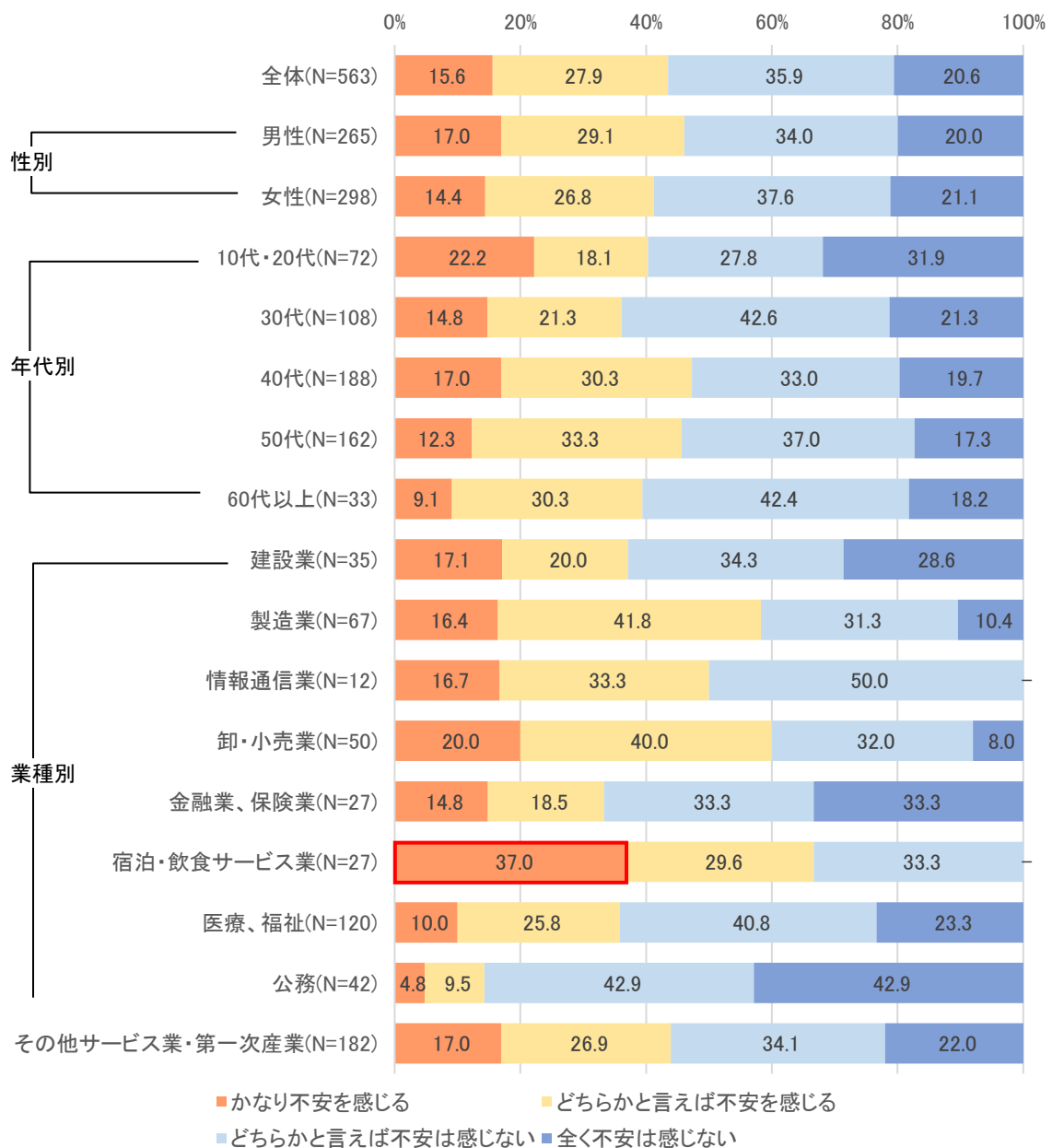
- ・ 新型コロナの拡大により勤め先の業績の不安を感じるかどうか尋ねたところ、「かなり不安を感じる」、「どちらかといえば不安を感じる」が「全く不安を感じない」、「どちらかといえば不安を感じない」を僅かに上回った。
- ・ 業種別では宿泊・飲食サービス業で「かなり不安を感じる」が 51.9%と半数を超え、「どちらかといえば不安を感じる」を含めると 8 割以上が不安を感じるなど厳しい状況が窺える。



問 13:新型コロナウイルスの影響による自身の雇用に対する不安

製造、卸・小売り、宿泊・飲食サービスで半数以上が不安を感じる

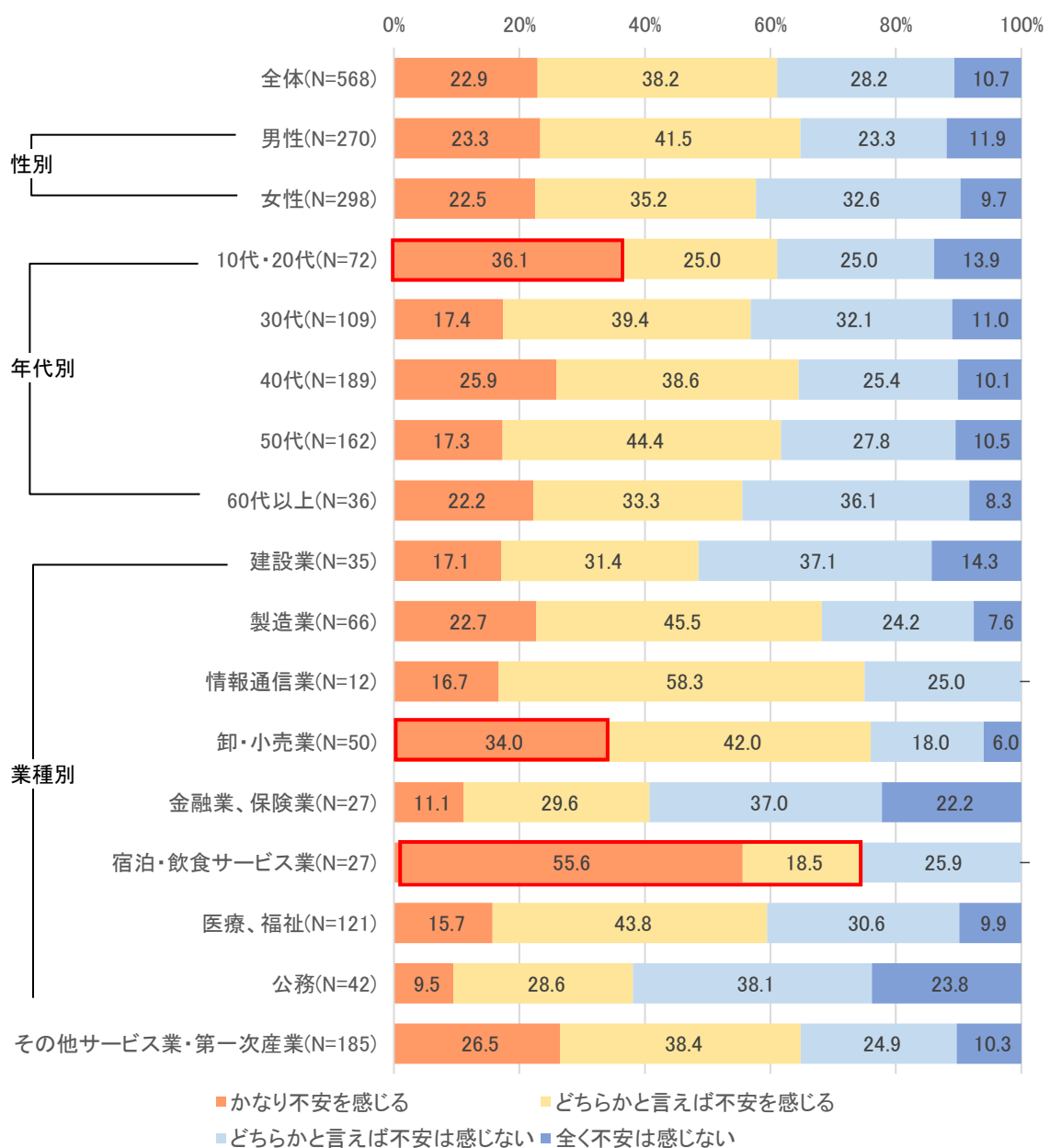
- ・ 新型コロナ拡大により自身の雇用不安を感じるかどうか尋ねたところ、「全く不安を感じない」、「どちらかといえば不安を感じない」の合計が 56.5%と「かなり不安を感じる」、「どちらかといえば不安を感じる」を上回った。
- ・ 業種別では、宿泊・飲食サービス業で「かなり不安を感じる」が 37.0%と最も高く、「どちらかといえば不安を感じる」を含めると 66.6%が不安を感じている。また、製造業、情報通信業、卸・小売業でも半数以上が不安を感じている。



問 14:新型コロナウイルスの影響による自身の収入に対する不安

収入に対する不安は 6 割を超える

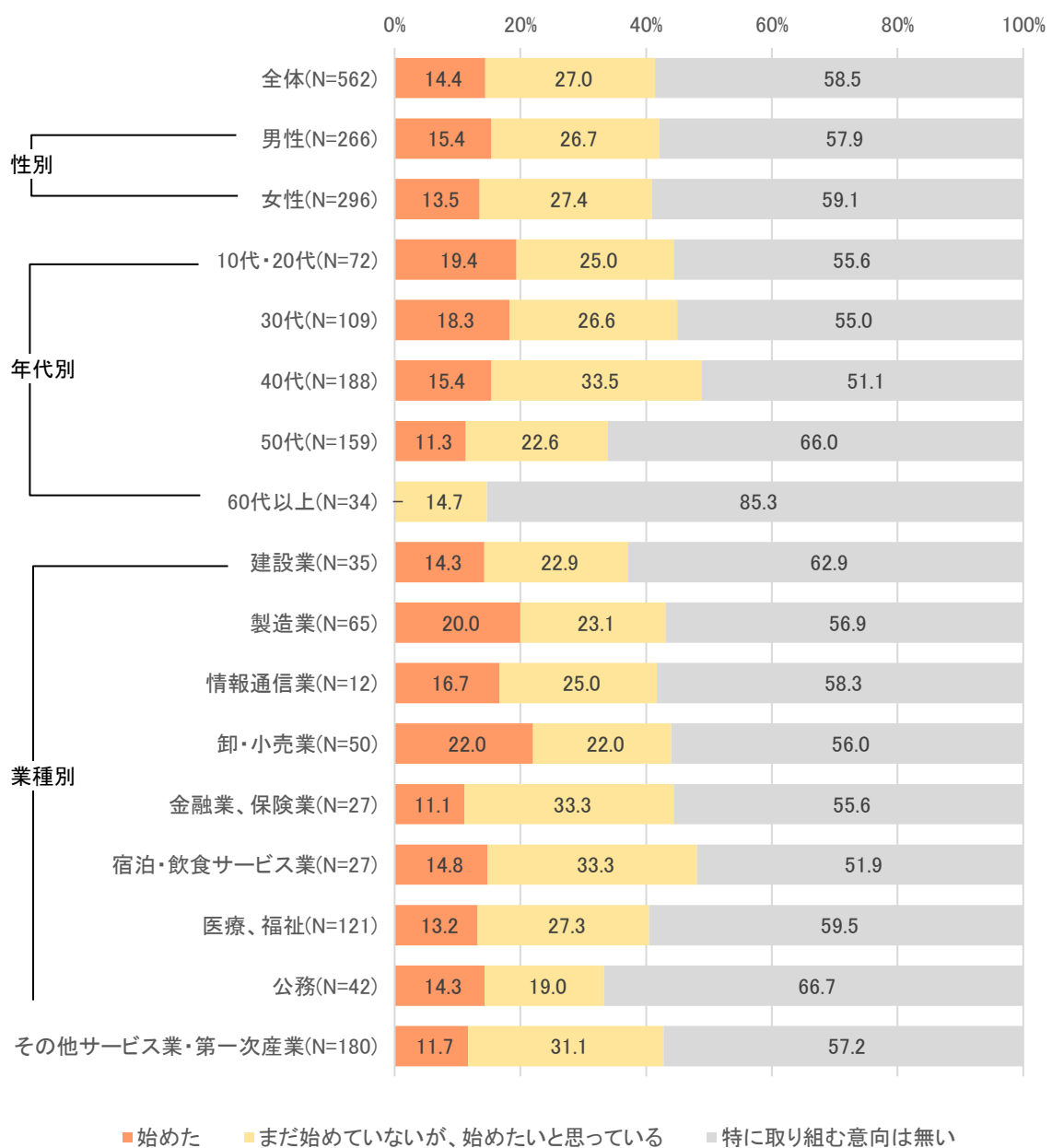
- ・ 新型コロナ拡大により自身の収入の不安を感じるかどうか尋ねたところ、「かなり不安」、「どちらかといえば不安」の合計が 61.1%と半数を超えた。
- ・ 年代別では 10 代・20 代で「かなり不安」が 36.1%と他の年代に比べ不安が大きいことが窺える。
- ・ 業種別では宿泊・飲食サービス業で「かなり不安」が 55.6%と半数を超えており、他の業種に比べ不安が大きいことが窺える。また、卸・小売業でも「かなり不安」が 34%に上っている。



問 16:新型コロナウイルス流行以降、能力やスキルを高めるための取り組み

能力やスキル向上に取り組む・取り組みたい人は 4 割に

- ・ 新型コロナ拡大後、自らの能力やスキルを高める取り組みを行っているか尋ねたところ、「始めた」、「始めたいと思っている」は 41.4%であった。
- ・ 年代別では 10 代から 40 代にかけて取り組み意欲が高く、50 代以上は意欲が低下する傾向が窺える。
- ・ 業種別では、業績や収入不安が大きかった宿泊・飲食サービス業で「始めた」、「始めたいと思っている」の合計割合が最も高くなっている。



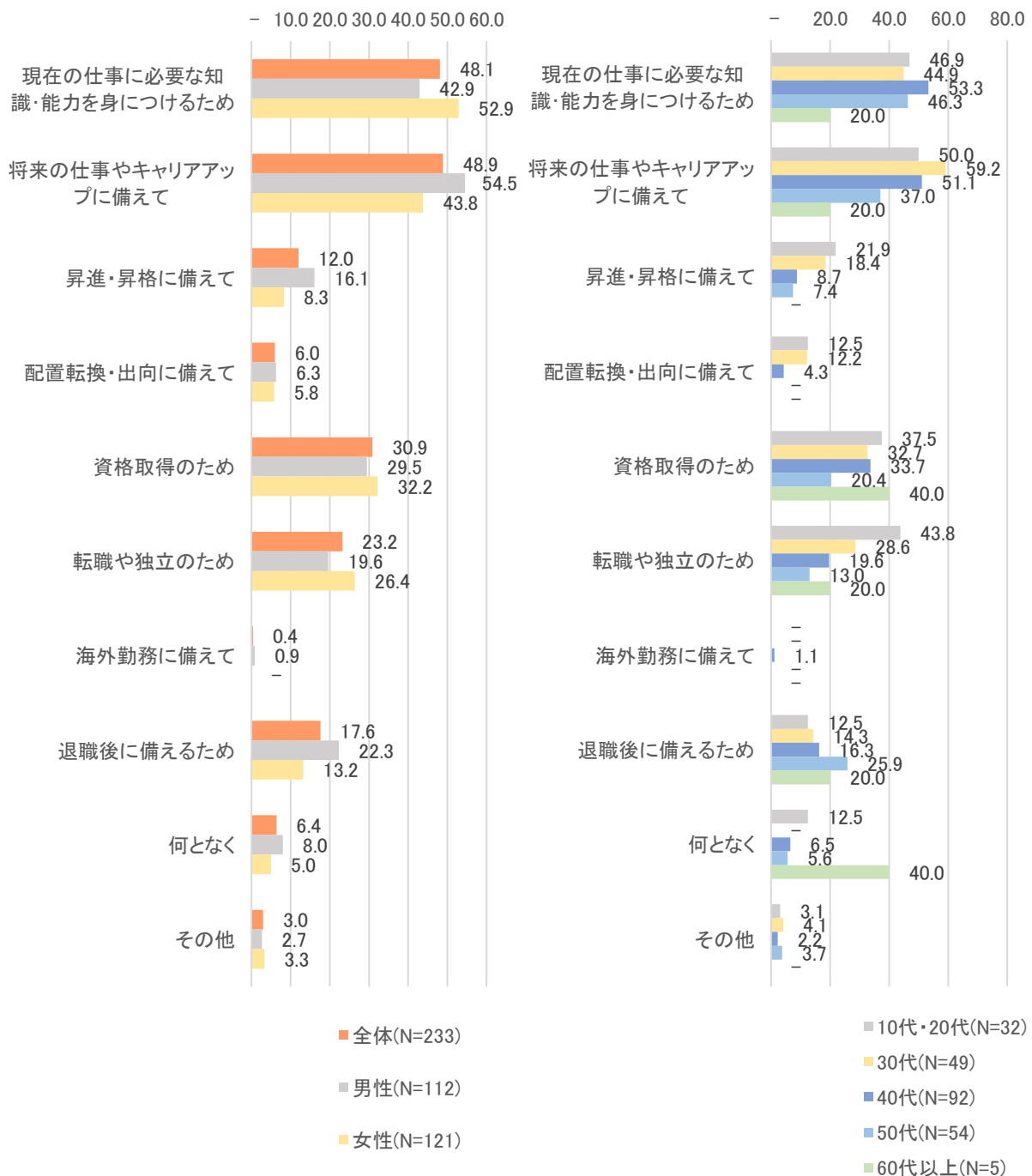
問 17:(前問で「始めた・始めたい」と回答した人) 取り組みの目的

現在の仕事への活用やキャリアアップを目的とした取り組みが多い

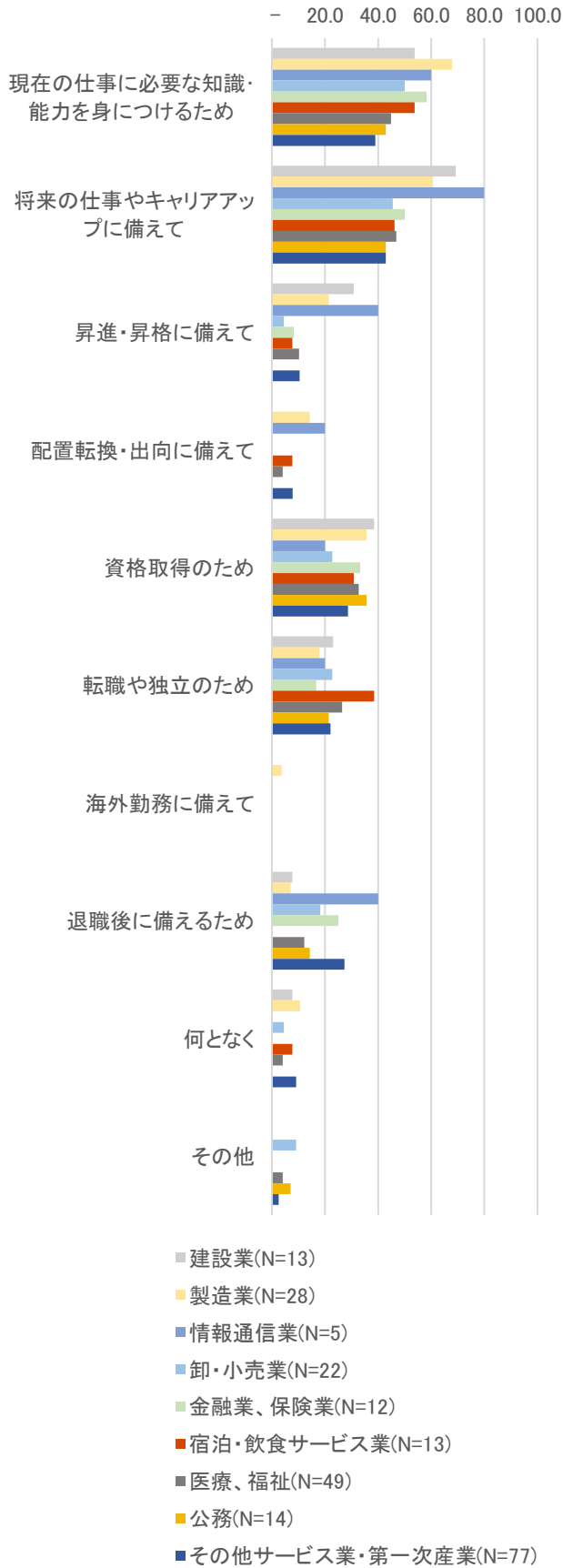
- ・ 具体的な取り組みとしては「将来の仕事やキャリアアップに備えて」が 48.9%で最も多く、「現在の仕事に必要な知識・能力を身につけるため」が 48.1%で続いている。
- ・ 年代別では 30 代の 59.2%が「将来の仕事やキャリアアップに備えて」と他の年代に比べ高い割合となっている。

(男女別)

(年代別)



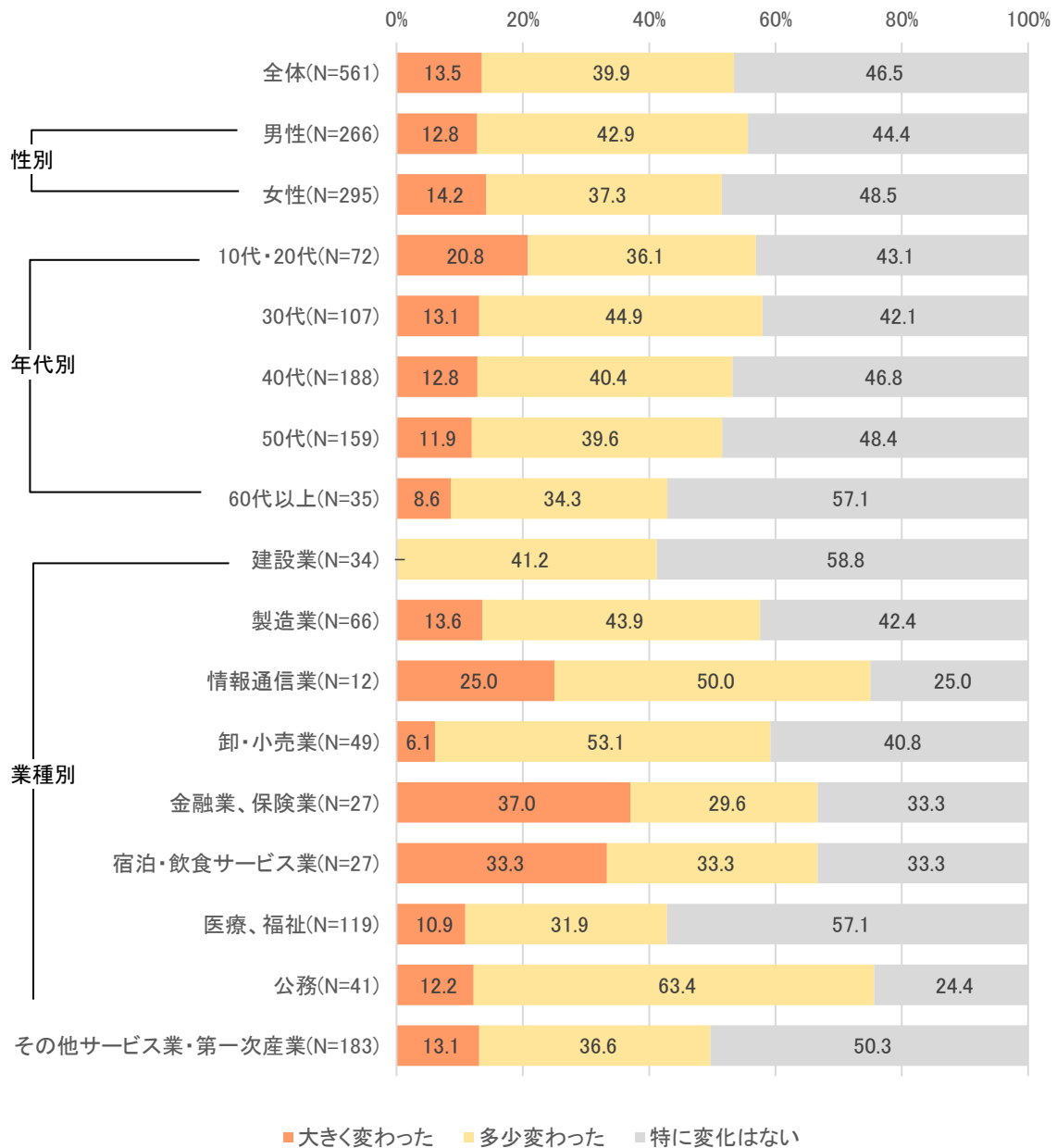
(業種別)



問 18:緊急事態宣言による働き方の変化

金融・保険業や宿泊・飲食サービスの 3 割以上が「大きく変わった」と回答

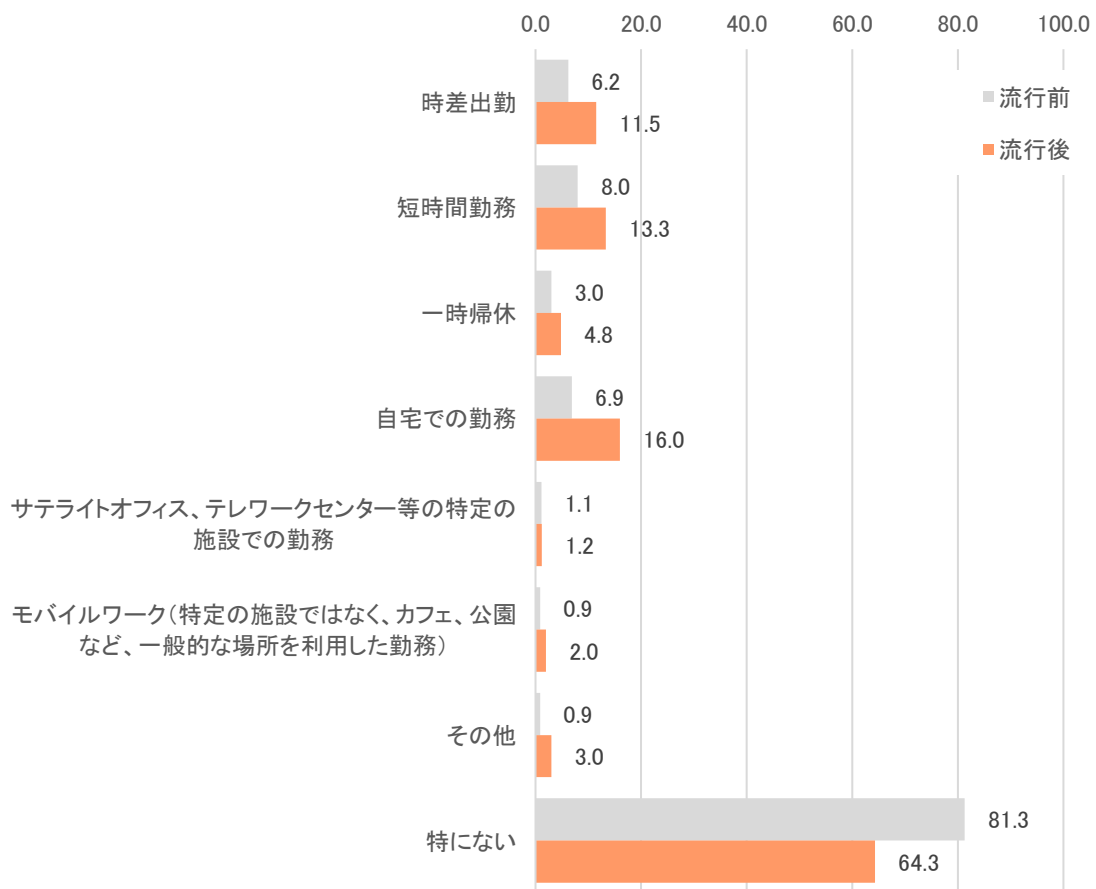
- ・ 緊急事態宣言による働き方の変化を尋ねたところ、「大きく変わった」、「多少変わった」の合計が 53.4%と半数を超えた。
- ・ 業種別では金融・保険業、宿泊・飲食サービス業で「大きく変わった」が 3 割を超え、情報通信業でも 2 割を超えるなど影響の大きさが窺える。



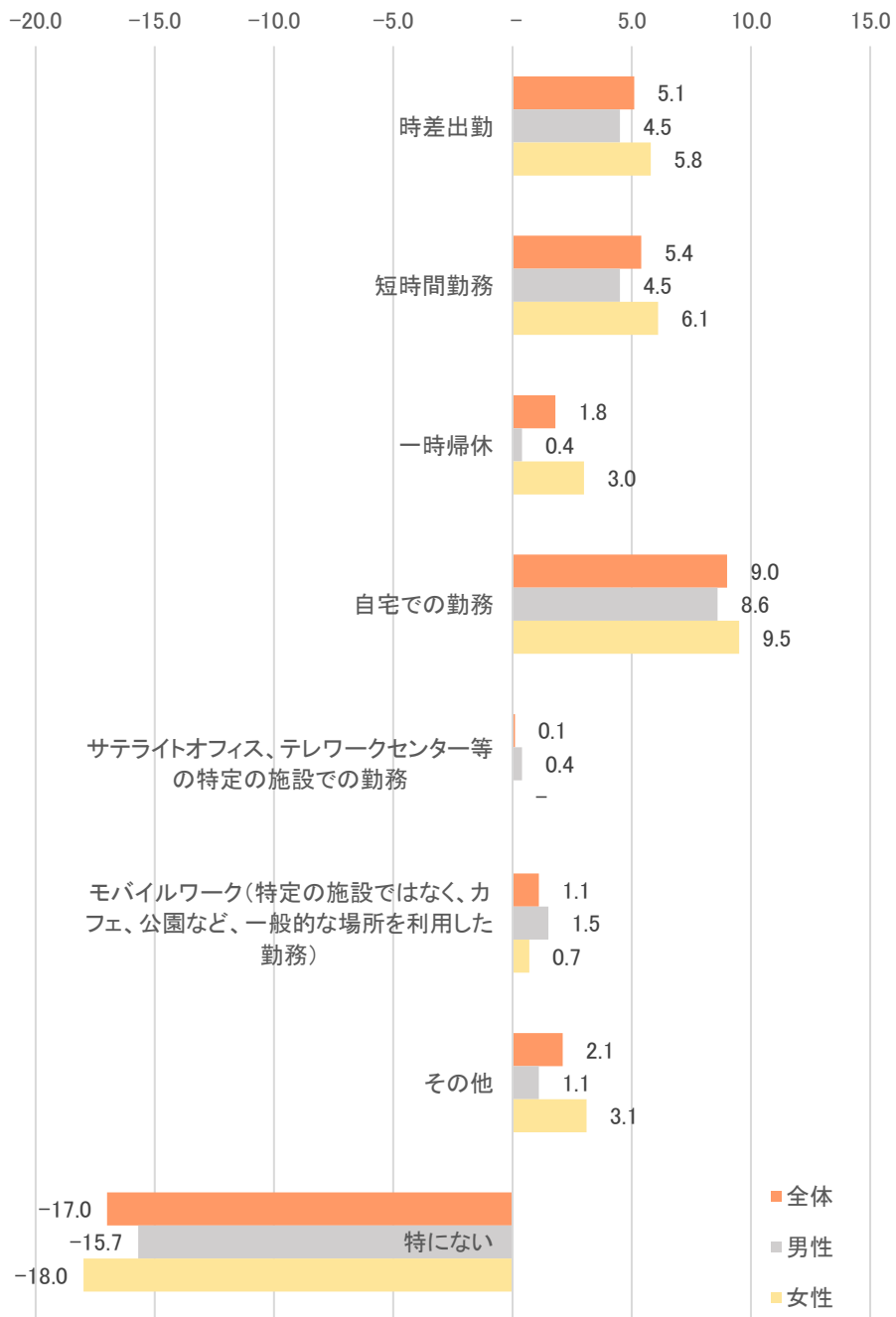
問 19・問 20:新型コロナウイルス流行以前・流行後の働き方の変化

コロナウイルス流行後は、時差出勤、短時間勤務、自宅勤務などが増加

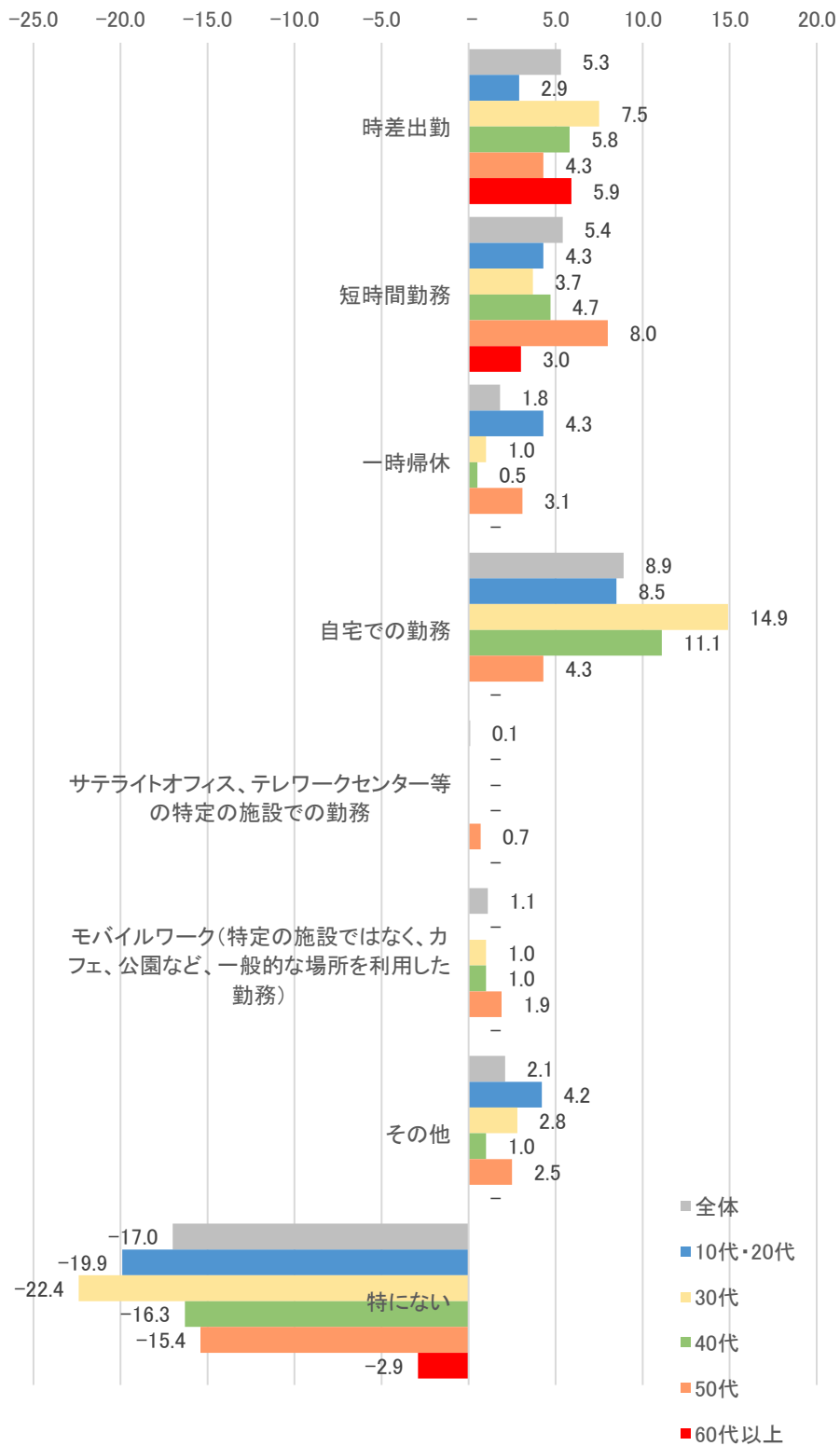
- ・ 新型コロナの流行前・流行後の働き方の変化を尋ねたところ、「特に変化はない」が最も多いが、「時差出勤」、「短時間勤務」、「自宅での勤務」などは増加傾向がみられた。
- ・ 特に「自宅での勤務」は10ポイント程度増加しており、年代別では30代、業種別では情報通信業で実施割合が高くなっている。



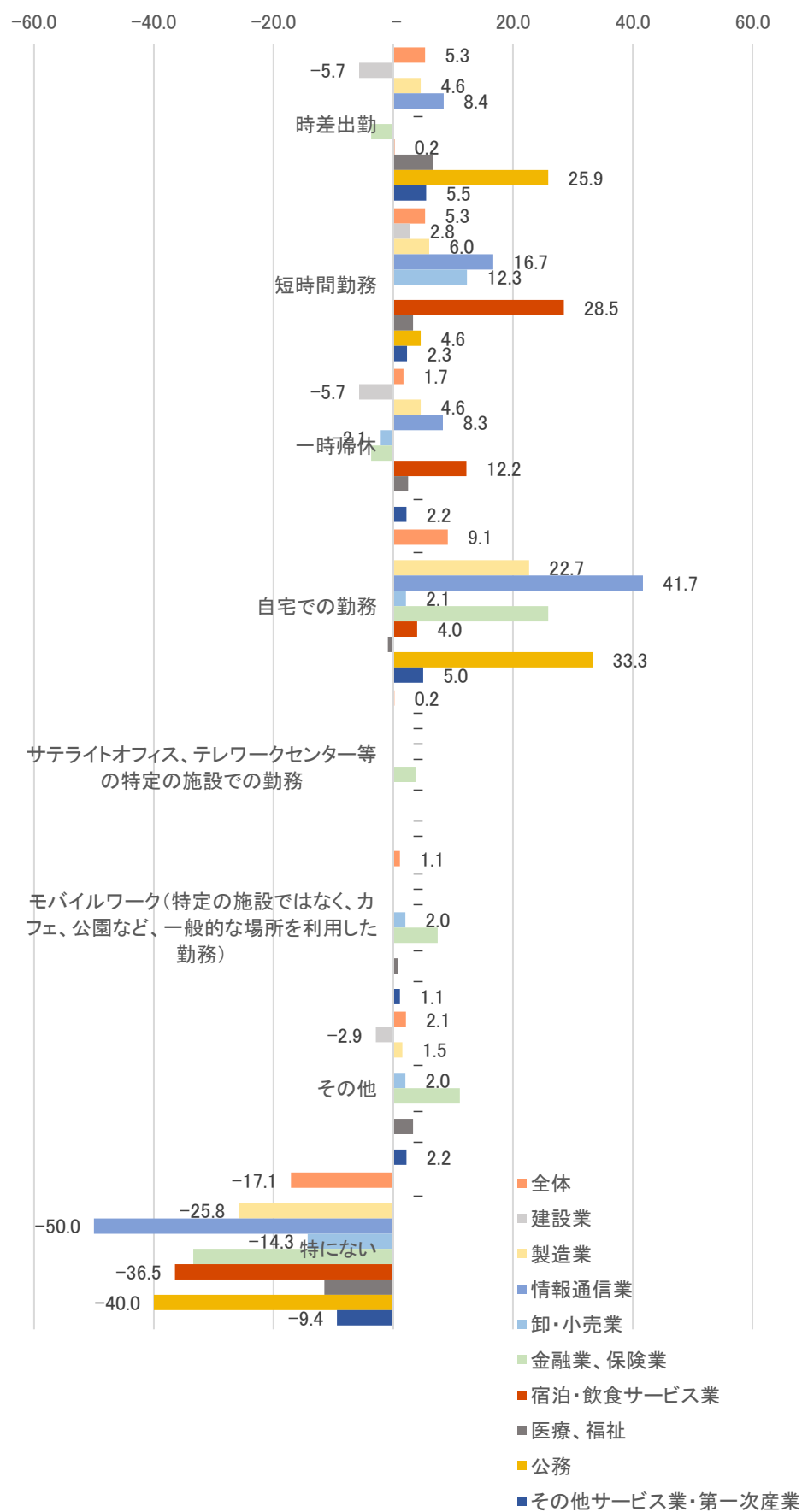
(男女別) ※変化量 (流行後割合—流行前割合)



(年代別) ※変化量 (流行後割合—流行前割合)



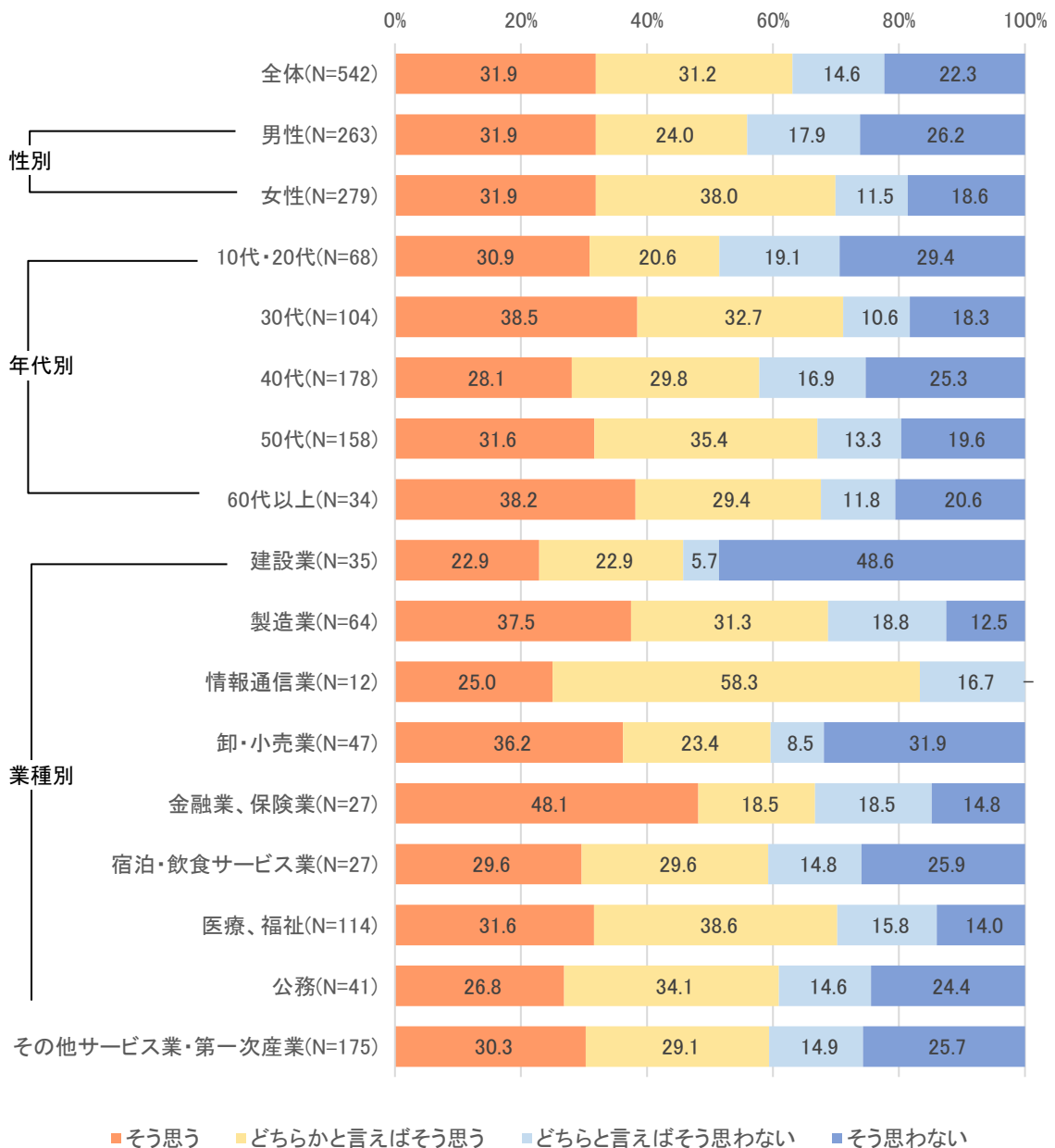
(業種別)



問 21:新型コロナウイルス収束後における現在の働き方の継続意向

6割以上がコロナウイルス収束後も現在の働き方を継続希望

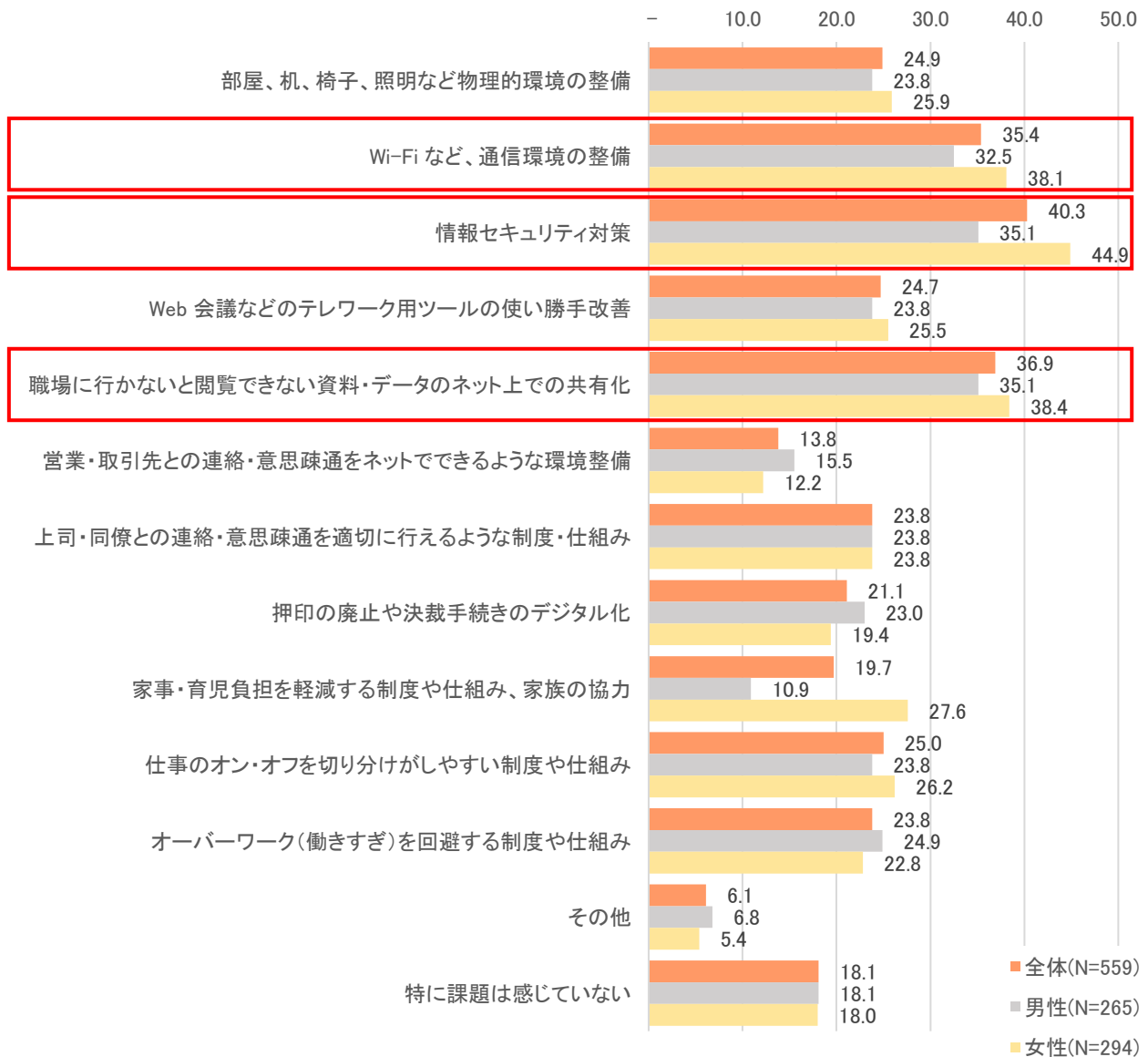
- ・ 新型コロナ拡大による働き方の変化を収束後も取り組むかどうか尋ねたところ、「そう思う」、「どちらかとそう思う」の合計が 63.1%と、「思わない」、「どちらかといえば思わない」の合計を上回った。
- ・ 年代別では、30代の継続意向が最も高く、業種別では金融・保険業、製造業で継続意向が強い結果となった。



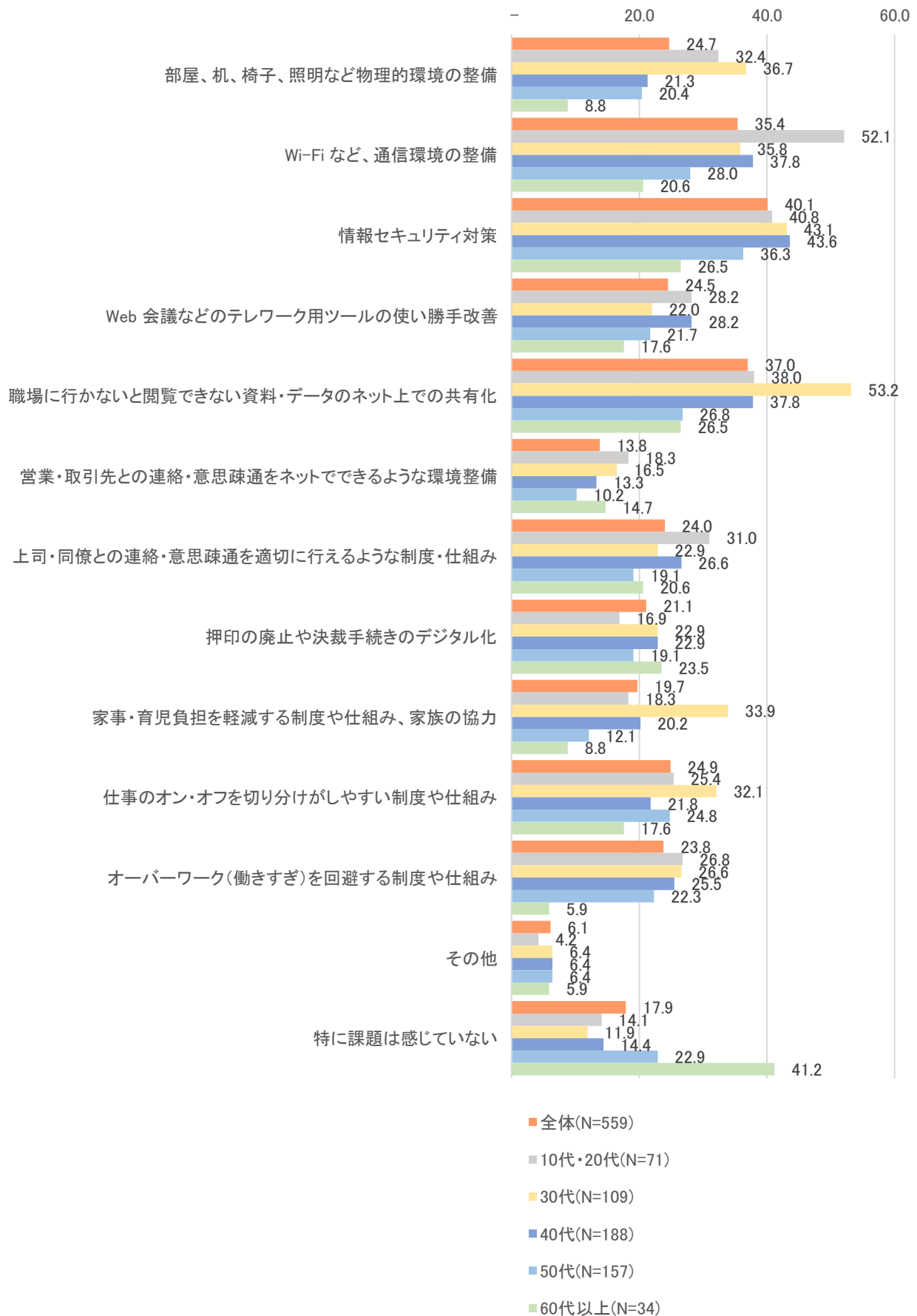
問 22:在宅ワークなど職場以外で働く場合の課題

情報セキュリティ対策、通信環境、データ管理環境などが課題に

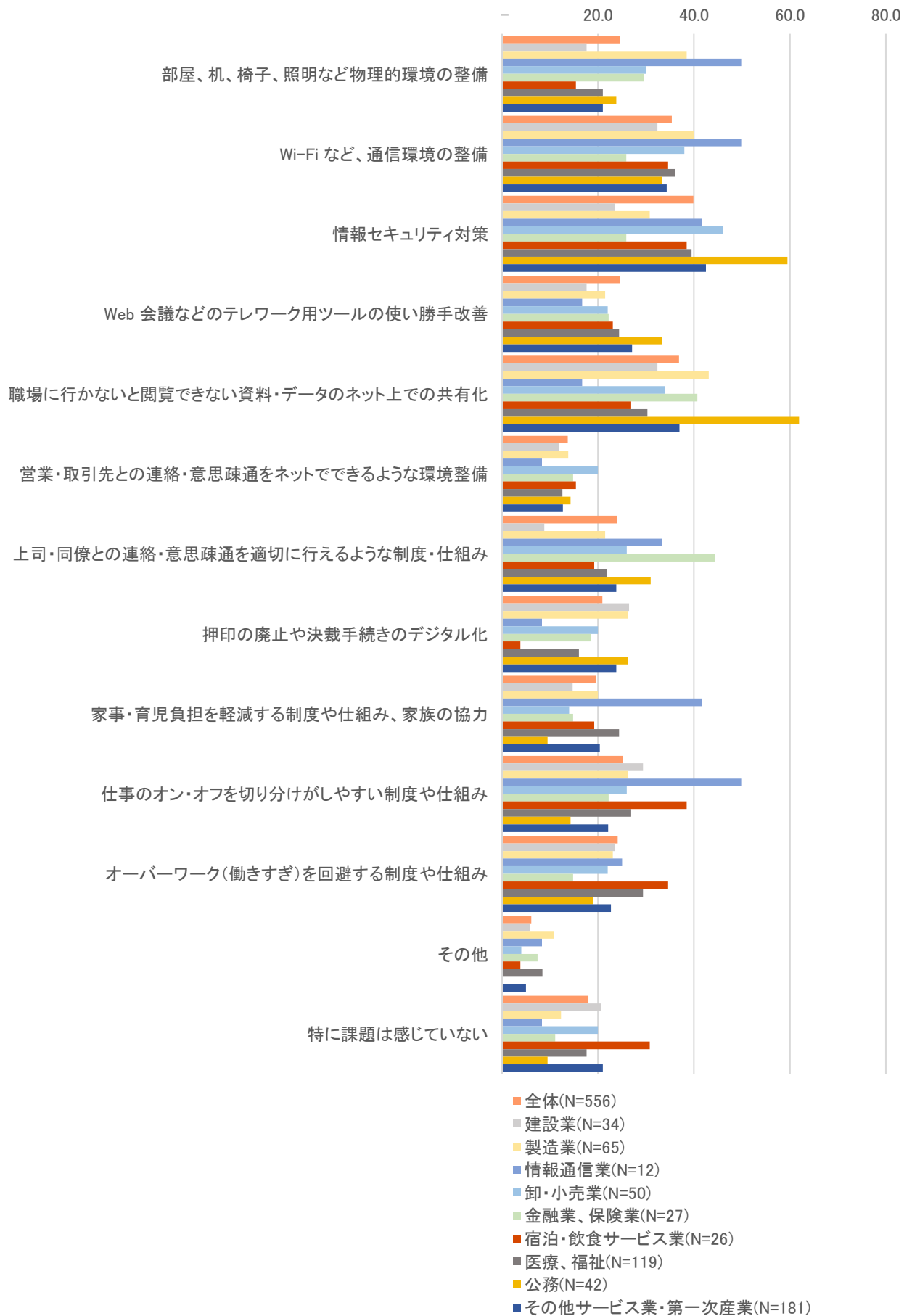
- 在宅ワーク等に取り組む場合の課題を尋ねたところ、「情報セキュリティ対策」が 40.3%で最も高く、「職場に行かないと閲覧できない資料・データのネット上の共有化」が 36.9%、「Wi-Fi など通信環境の整備」が 35.4%で続いている。



(年代別)



(業種別)

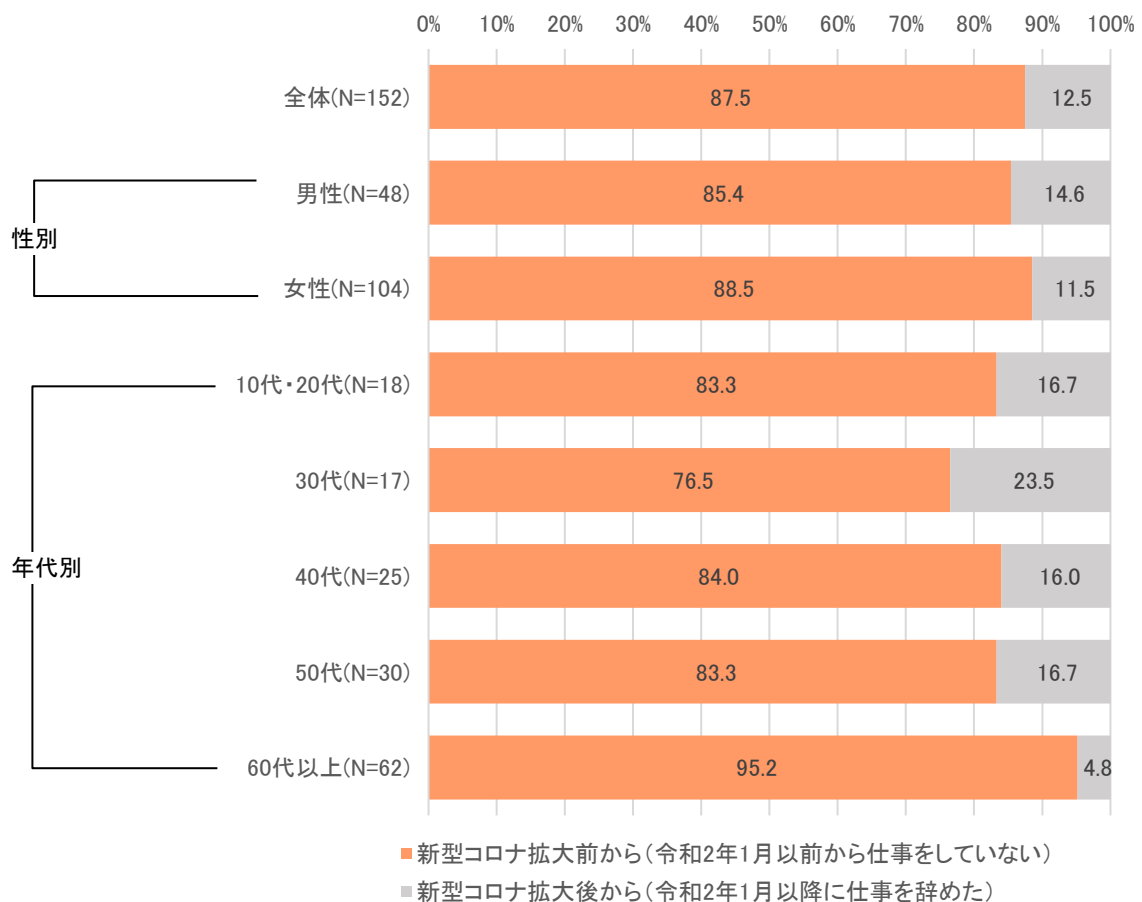


◎働いていない方にお聞きします。

問 23:現在の働いていない状態がいつからか

新型コロナ拡大後から無職は 12.5%

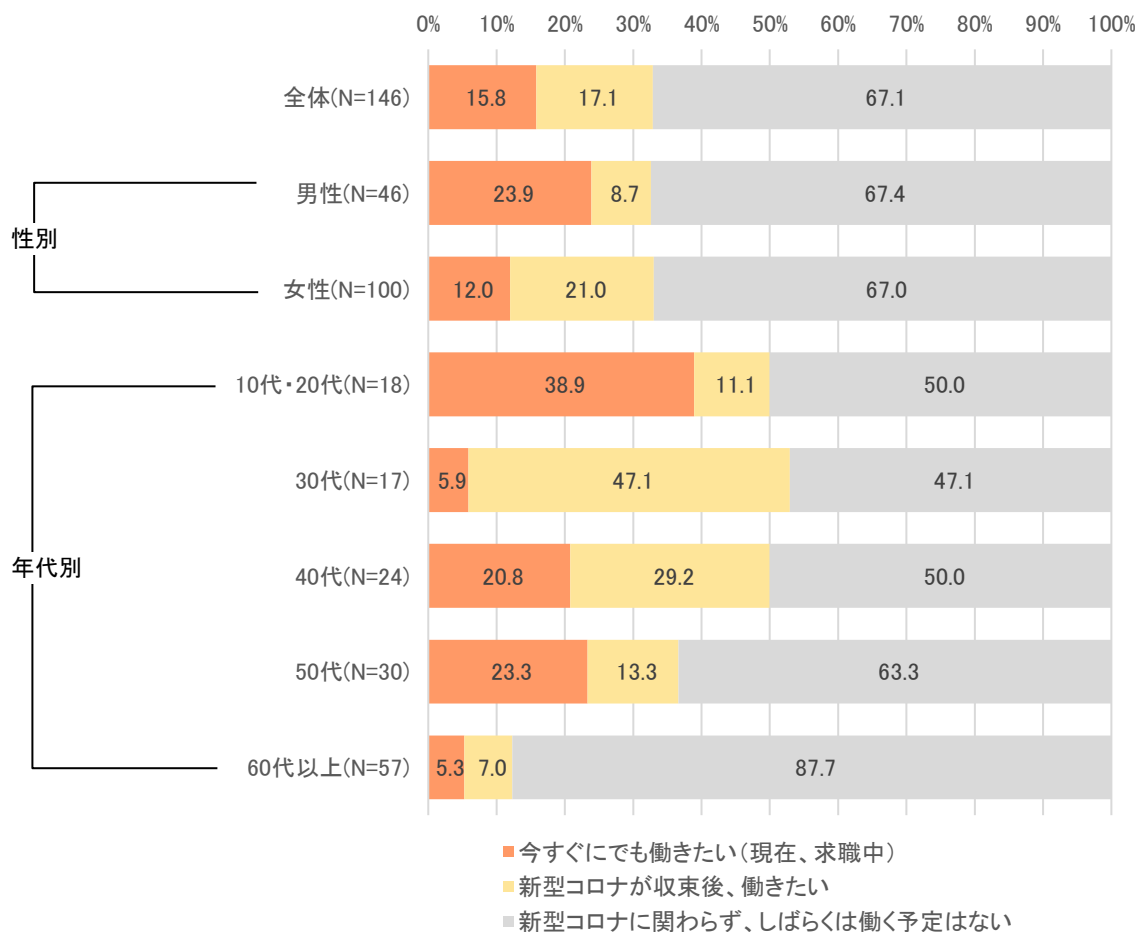
- 現在の働いていない状態が始まった時期を尋ねたところ、「新型コロナ拡大前から」が 87.5%と大部分を占めたが、全体では 12.5%、年代別では 30 代の 23.5%が「新型コロナ拡大後」から無職となっている。



問 24: 今後の労働意欲

3 割以上が「働きたい」と回答

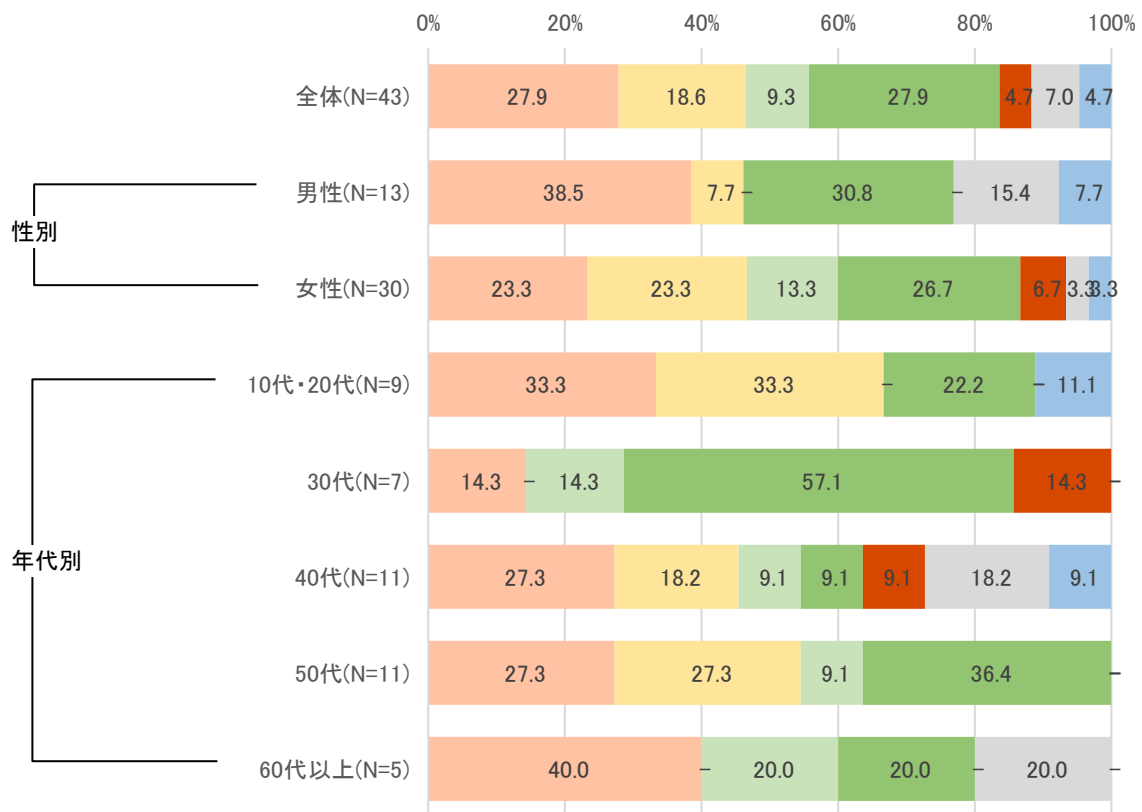
- ・ 今後の労働意欲を尋ねたところ、「今すぐにも働きたい」が 15.8%、「コロナ終息後に働きたい」が 17.1%と全体の 32.9%が労働意欲を持つ結果となった。
- ・ 年代別では 10 代・20 代の 38.9%が「今すぐにも働きたい」と回答するなど労働意欲が特に強いことが窺える。



問 25:(働きたい人)今後どのような職種で働きたいか

専門的・技術的な仕事、サービスの仕事が人気

- ・ 今後、働きく場合の希望の職種は「専門的・技術的な仕事」と「サービスの仕事」がともに27.9%で最も多い。
- ・ 男女別では、女性は「事務的な仕事」が男性に比べ15ポイント程度高い。
- ・ 年代別では30代において「サービスの仕事」が57.1%と特に高くなっている。

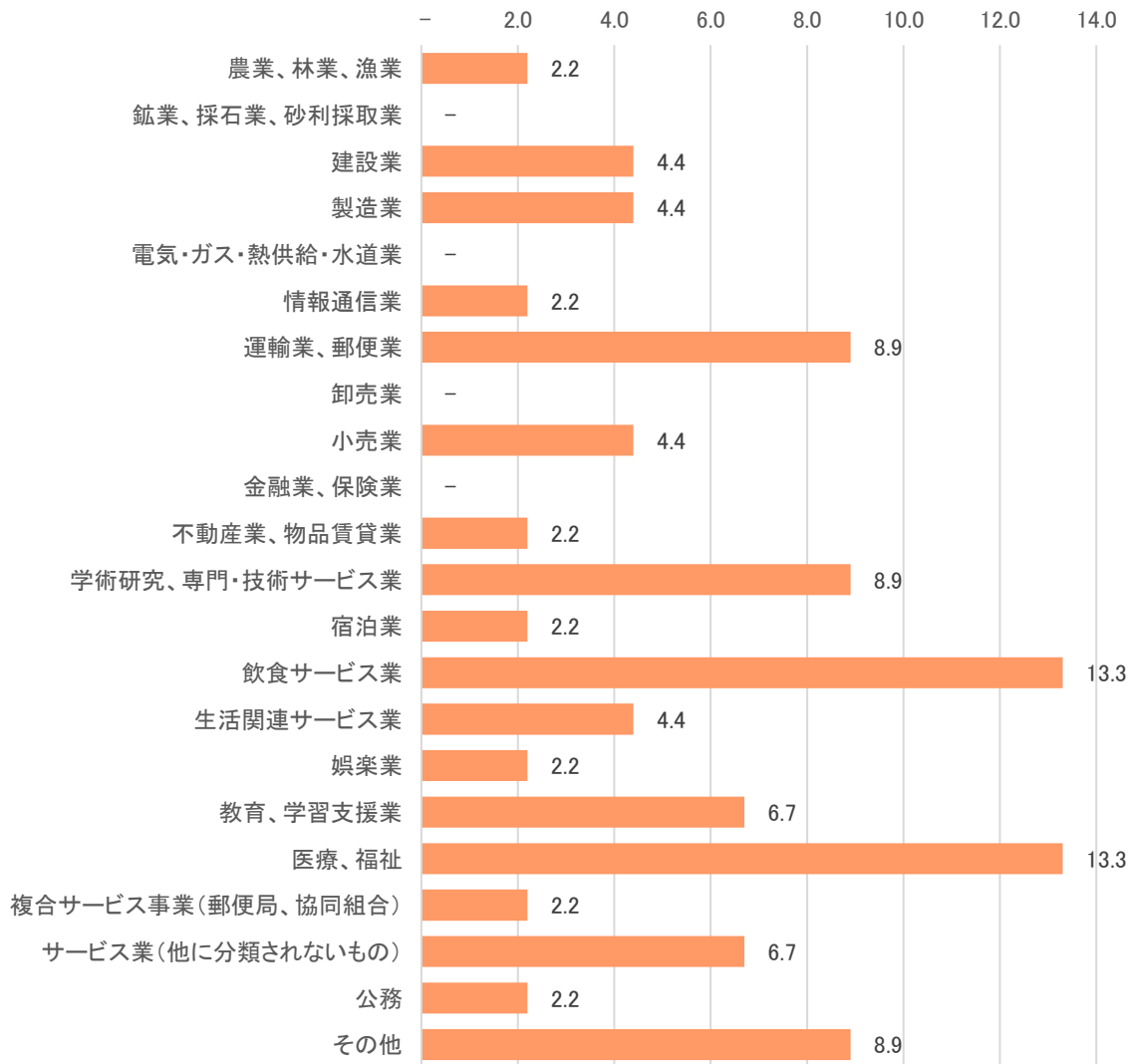


- 管理的な仕事
- 専門的・技術的な仕事
- 事務的な仕事
- 販売の仕事
- サービスの仕事
- 保安の仕事
- 生産工程の仕事
- 輸送・機械運転の仕事
- 建設・採掘の仕事
- 運搬・清掃・包装等の仕事
- その他の仕事

問 26:(働きたい人)今後どのような業種で働きたいか

医療・福祉、飲食サービス業などが人気

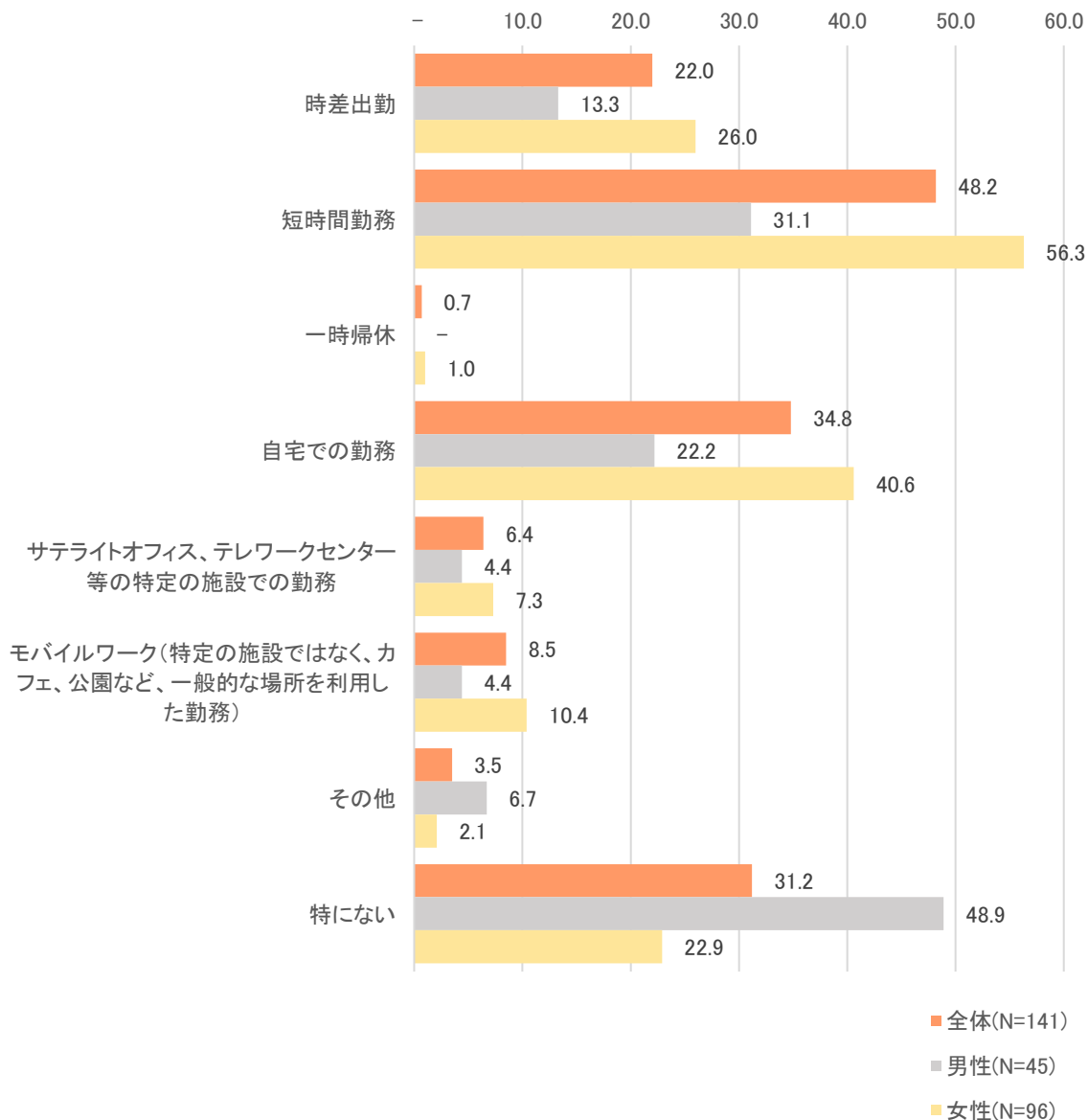
- ・ 今後、働く場合の希望の業種は「医療・福祉」と「飲食サービス業」が13.3%で最も多い。



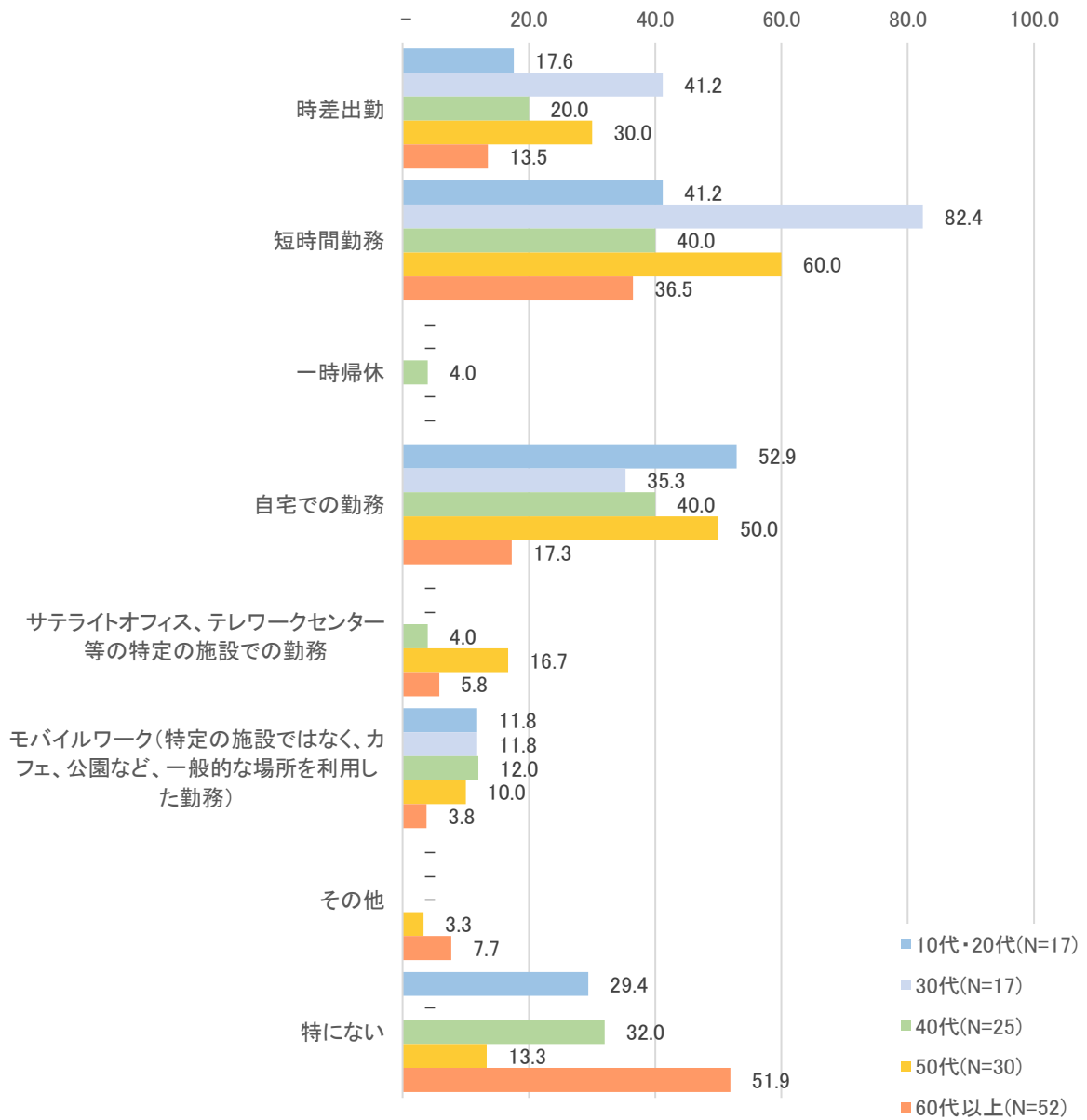
問 27: 今後働く場合の理想の働き方

短時間勤務、在宅勤務などの希望が多い

- ・ 今後働く場合の希望の働き方としては、「短時間勤務」が 48.2%で最も多く、「自宅での勤務」が 34.8%で続いている。
- ・ 男女別では男性に比べ女性の方が短時間勤務や在宅勤務の希望が多い。



(年代別)

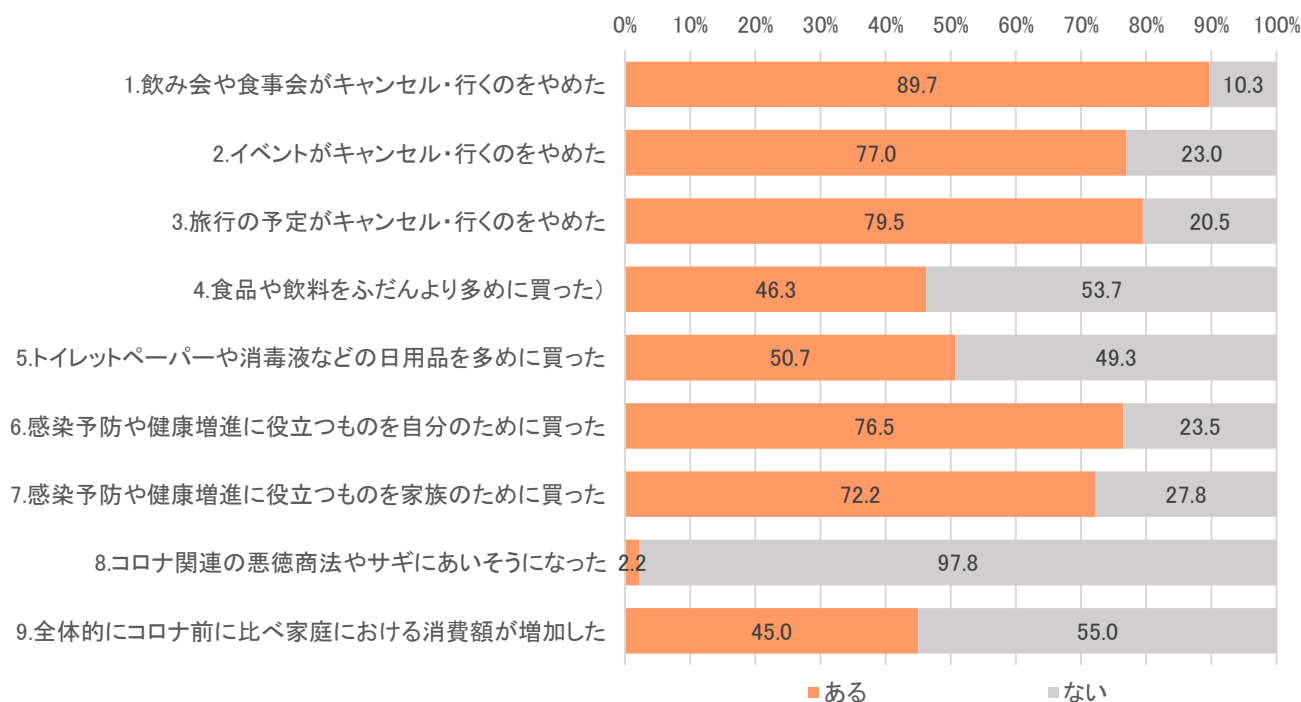


◎全ての方にお聞きします

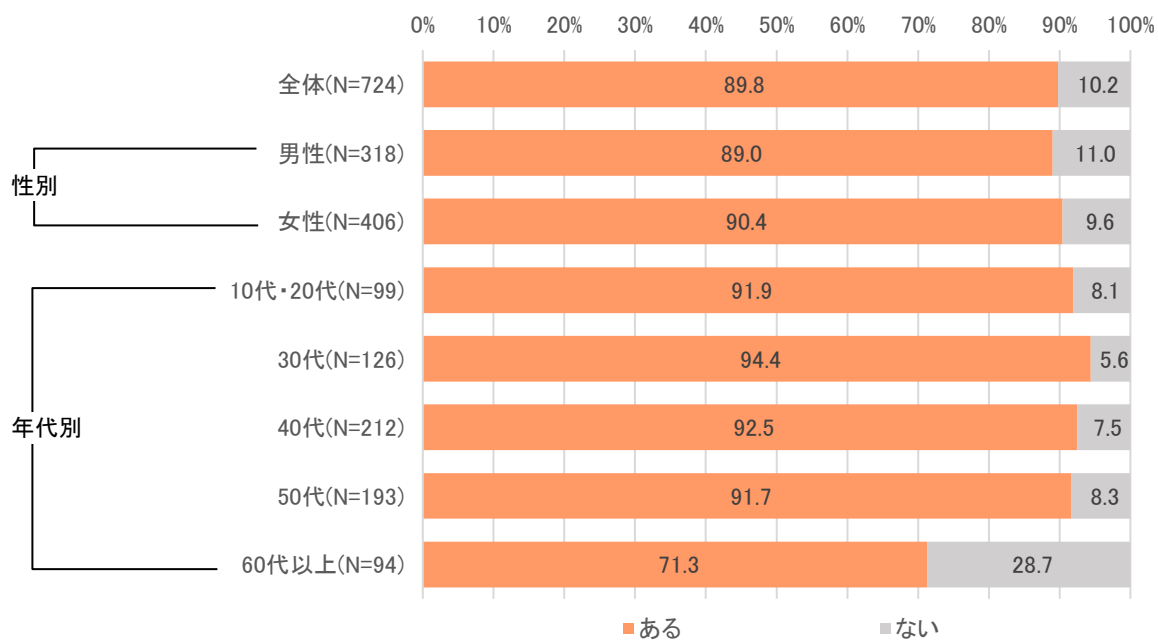
問 28: 感染拡大による消費行動の変化

飲み会やイベント、旅行のキャンセルなど消費行動が大きく変化

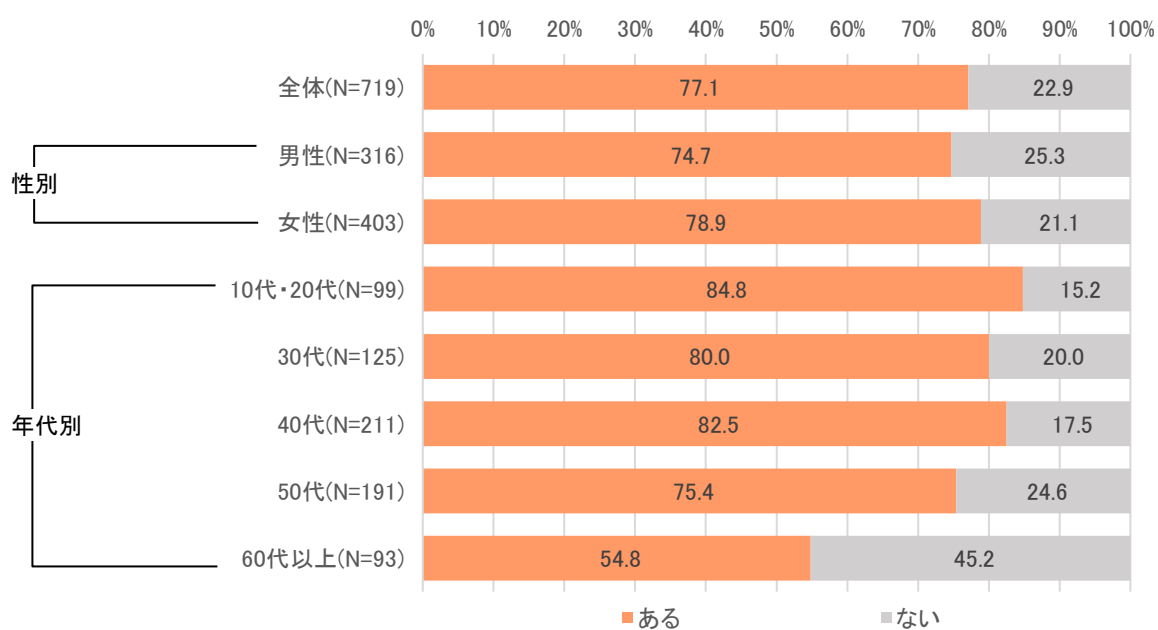
- ・ 感染拡大による消費行動の変化については、「飲み会や食事会のキャンセル」が 89.7%で最も多く、「イベントのキャンセル」、「旅行のキャンセル」、「感染予防や健康増進に役立つものの購入」が7割を超えた。



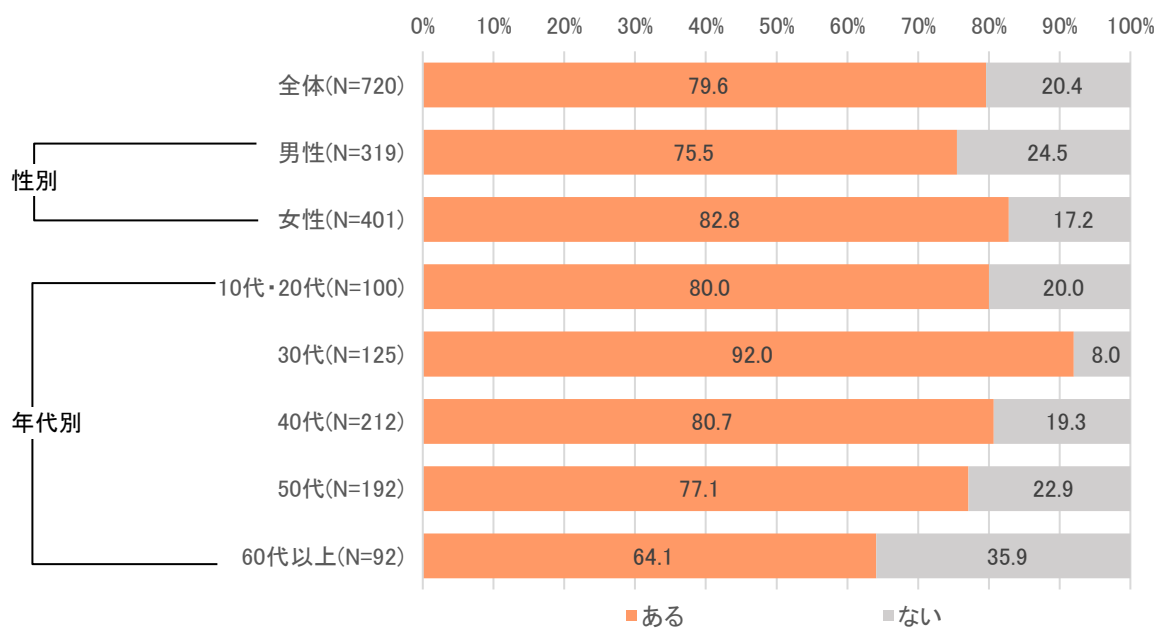
1. 飲み会や食事会がキャンセル・行くのをやめた



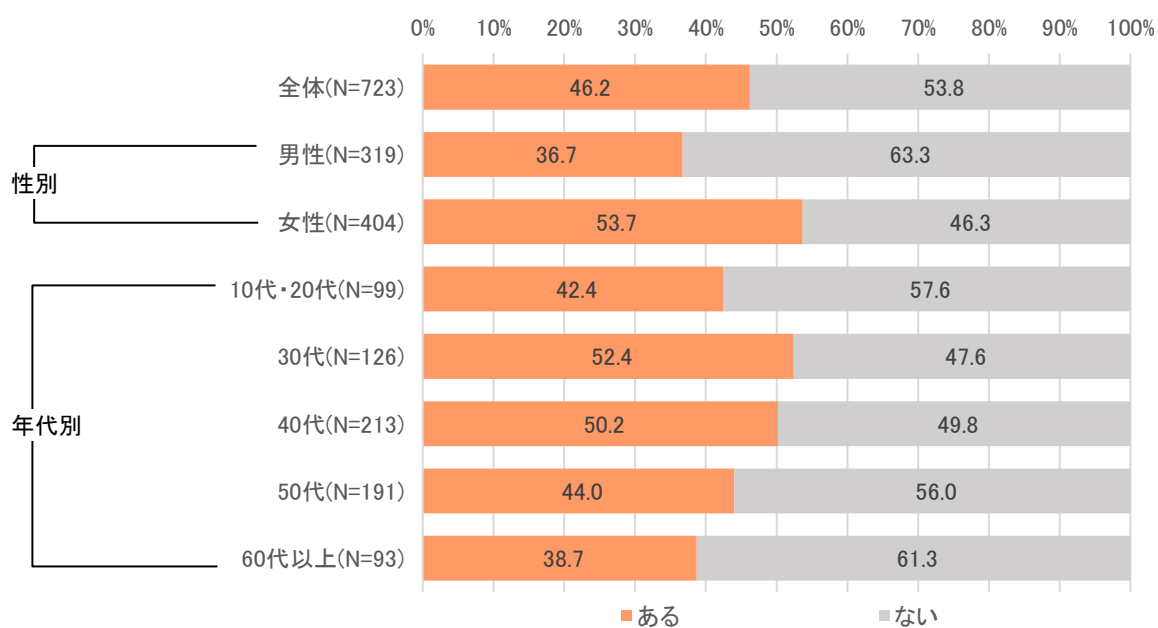
2. イベントがキャンセル・行くのをやめた



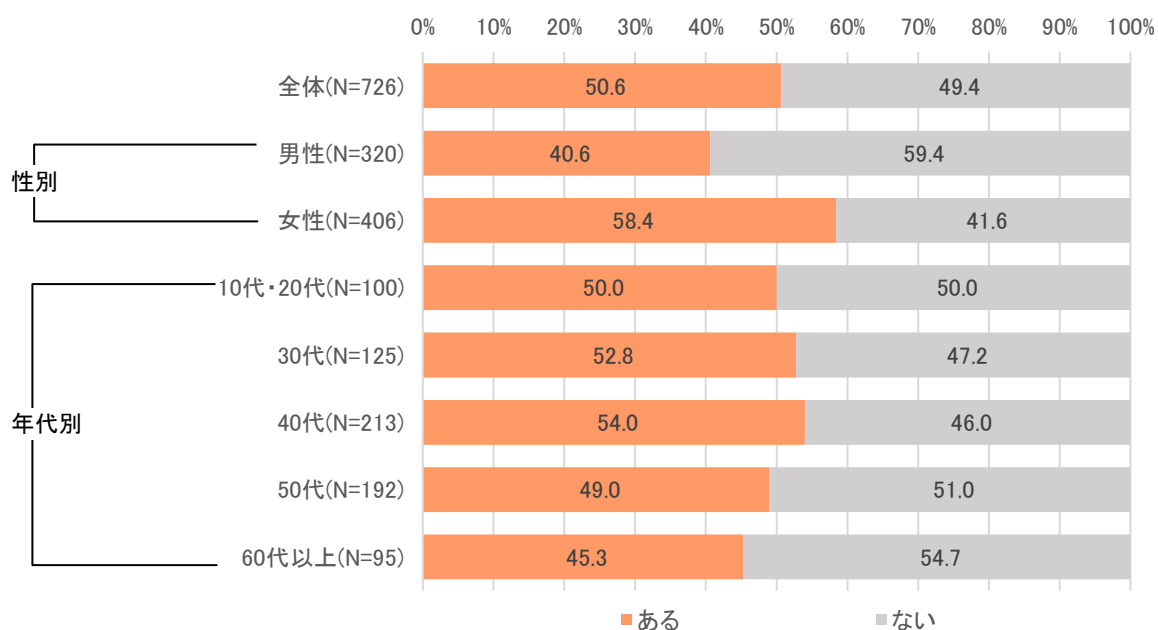
3. 旅行の予定がキャンセル・行くのをやめた



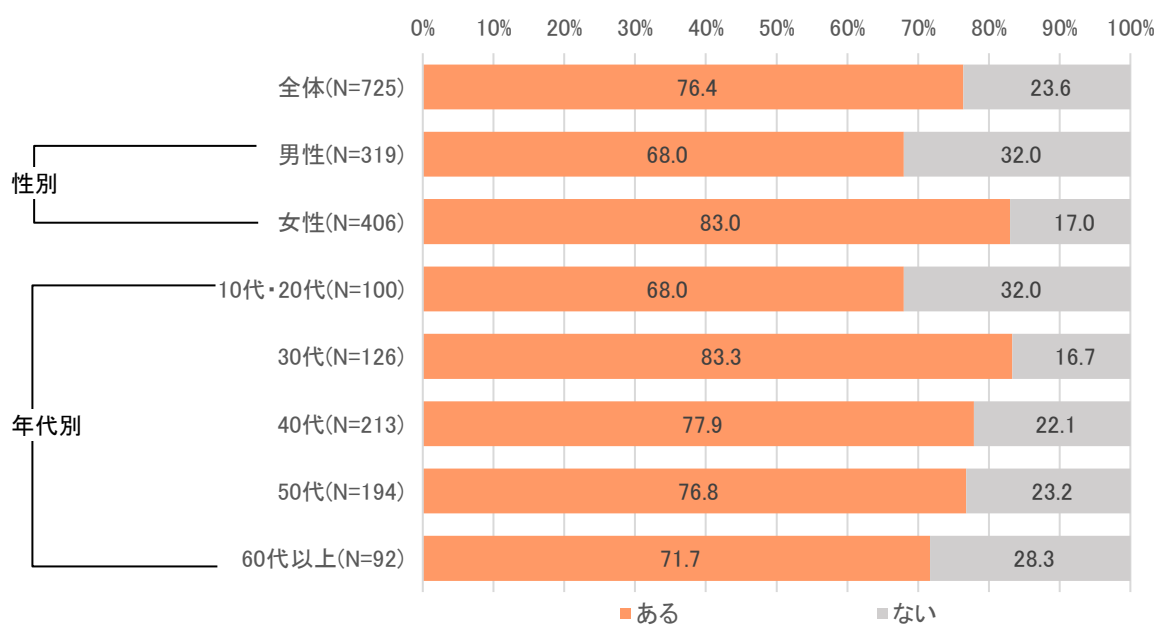
4. 食品や飲料をふだんより多めに買った



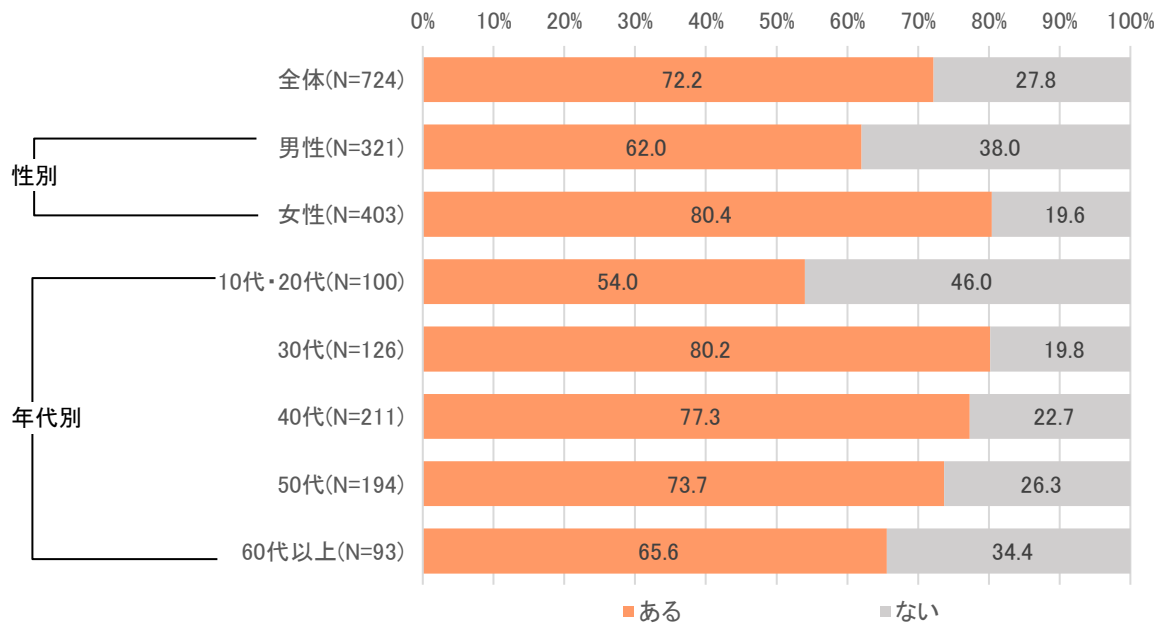
5. トイレトペーパーや消毒液などの日用品を多めに買った



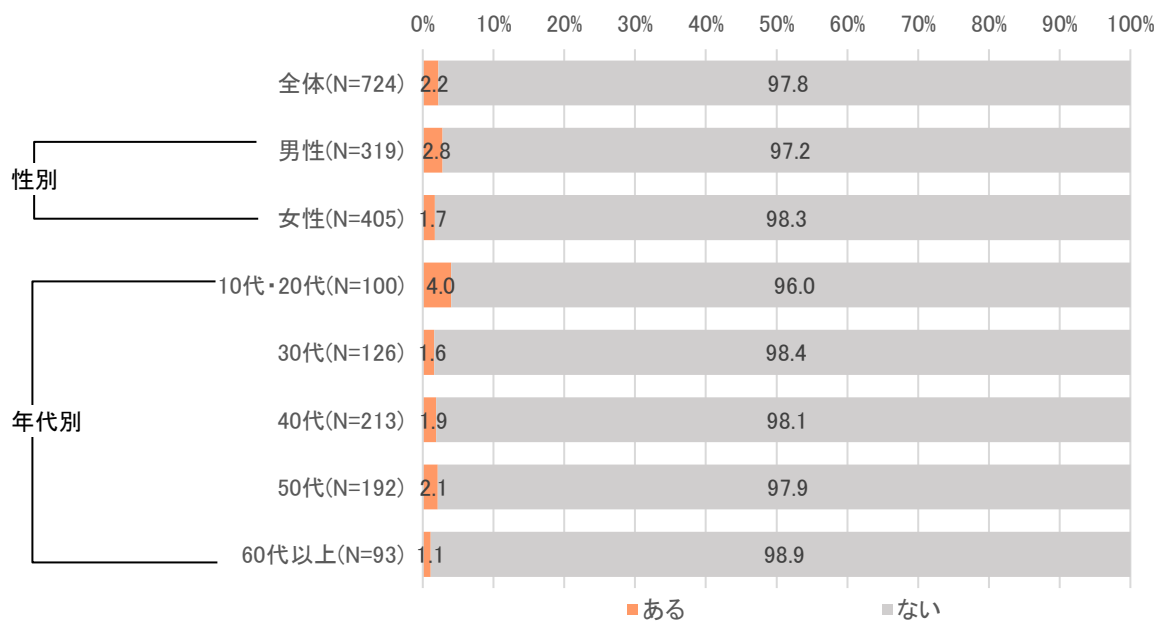
6. 感染予防や健康増進に役立つものを自分のために買った



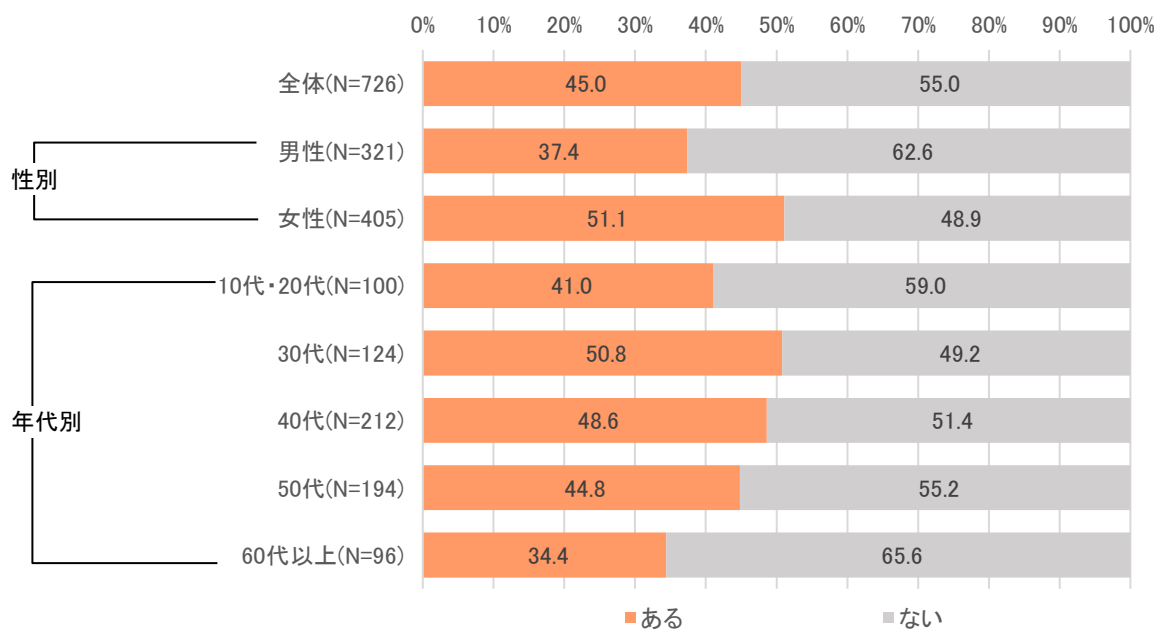
7. 感染予防や健康増進に役立つものを家族のために買った



8. コロナ関連の悪徳商法やサギにあいそうになった



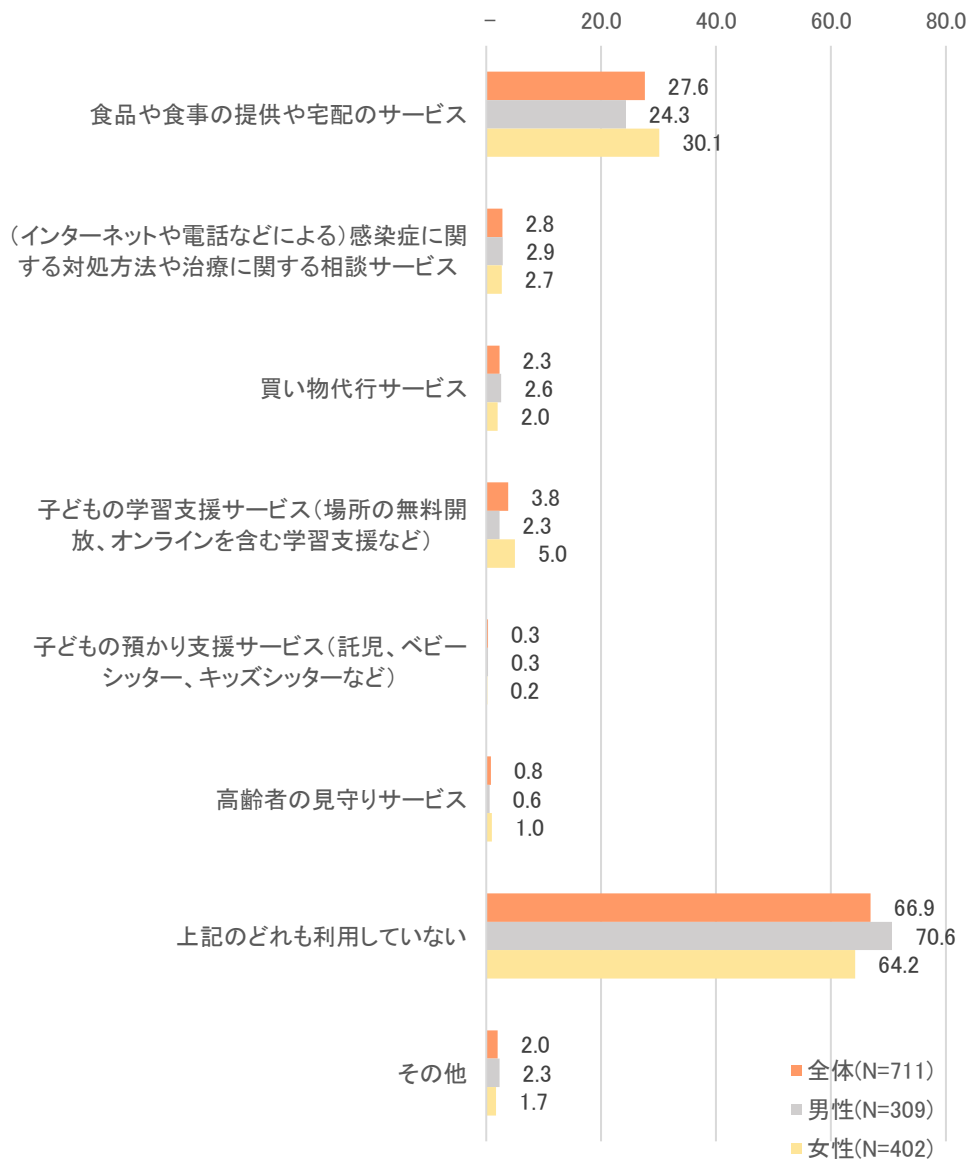
9. 全体的にコロナ前に比べ家庭における消費額が増加した

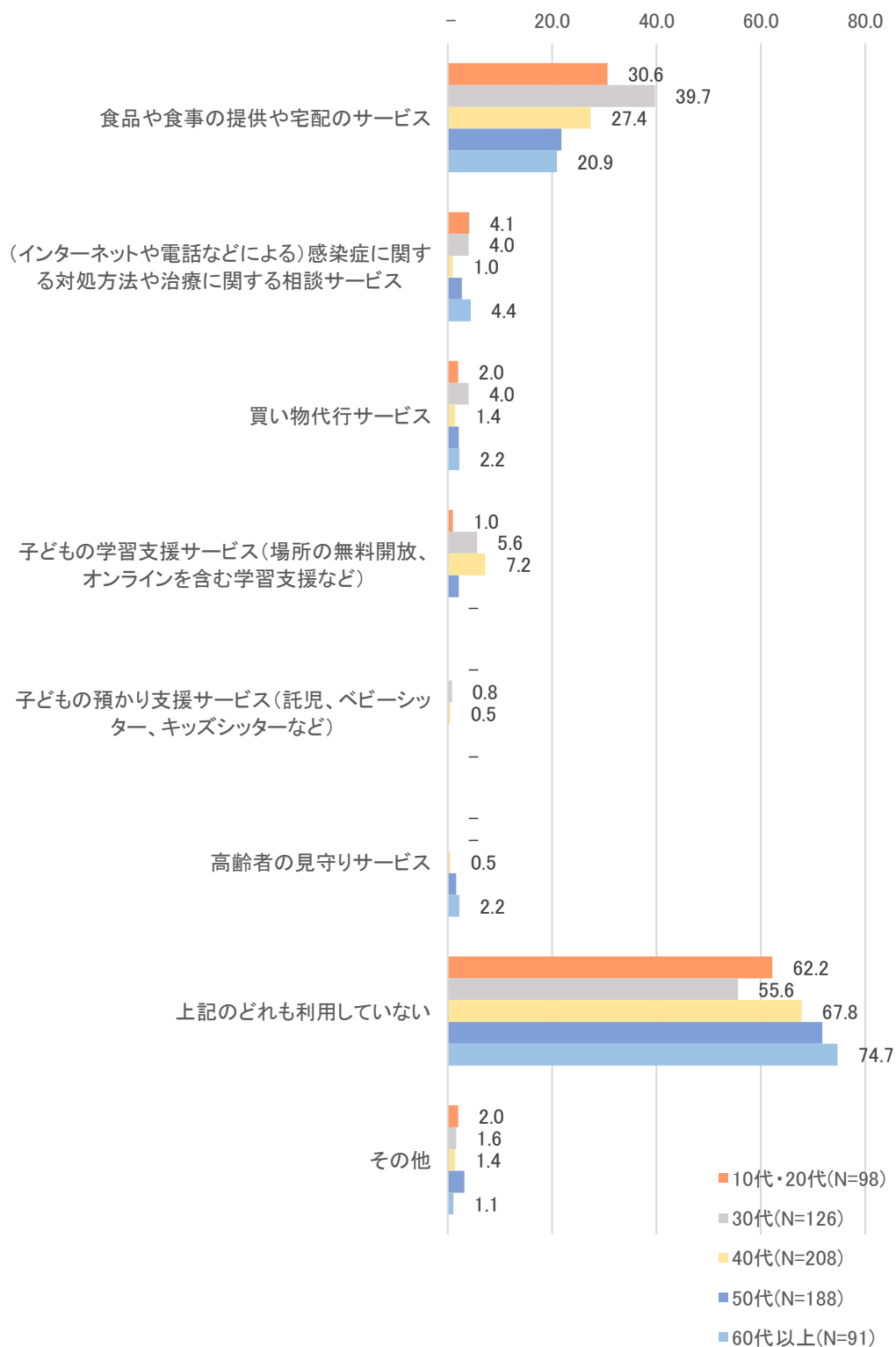


問 29:増加した外部サービス

3 割が「宅配サービスが増加」と回答

- 新型コロナウイルス感染拡大により増加したサービスとしては「どれも利用していない」が7割程度と大半を占めたが、利用したサービスの中では「宅配サービス」が27.6%で最も多くなった。

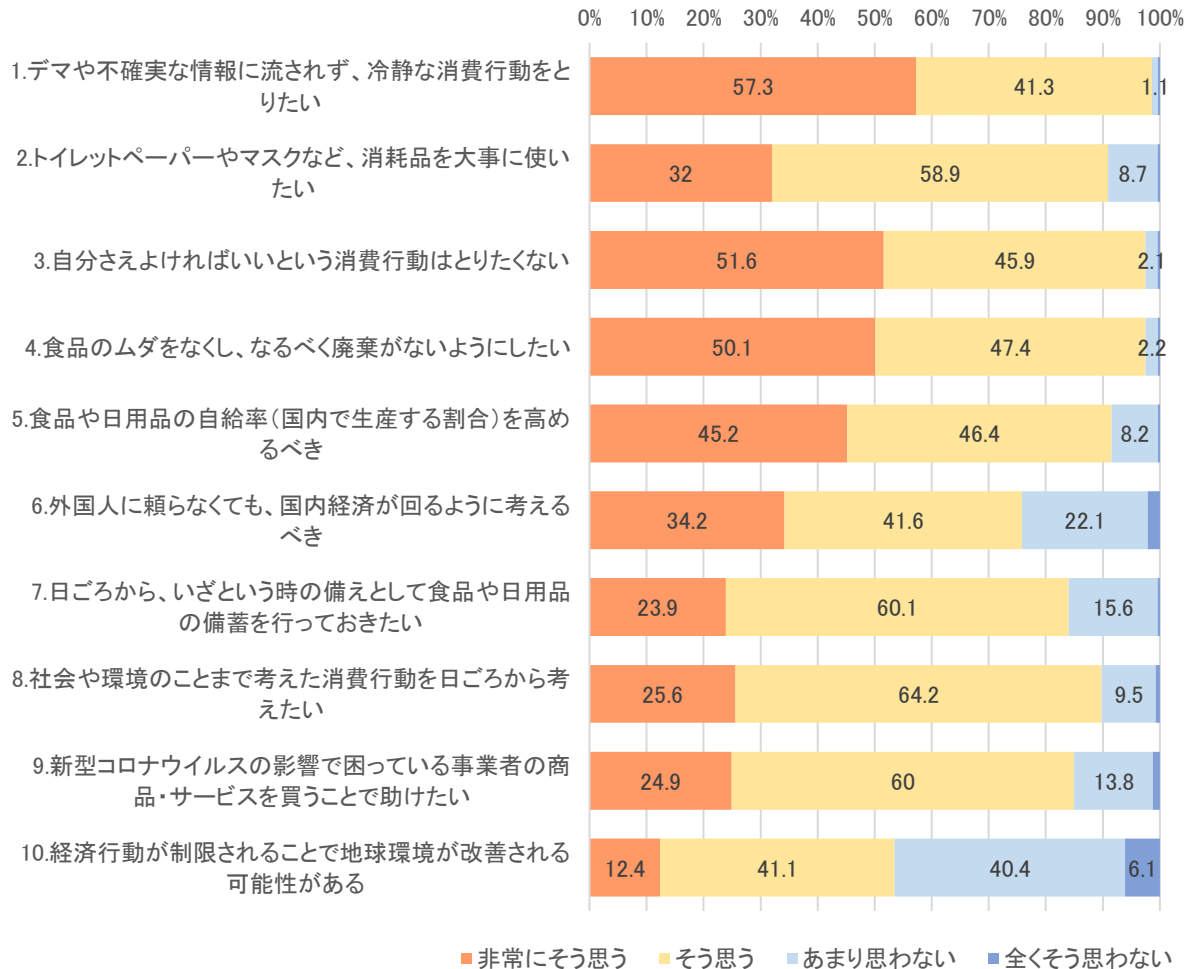




問 30: 感染拡大による消費面の意識変化

「冷静な消費行動」、「他人に配慮した消費行動」、「廃棄ロス」が5割以上

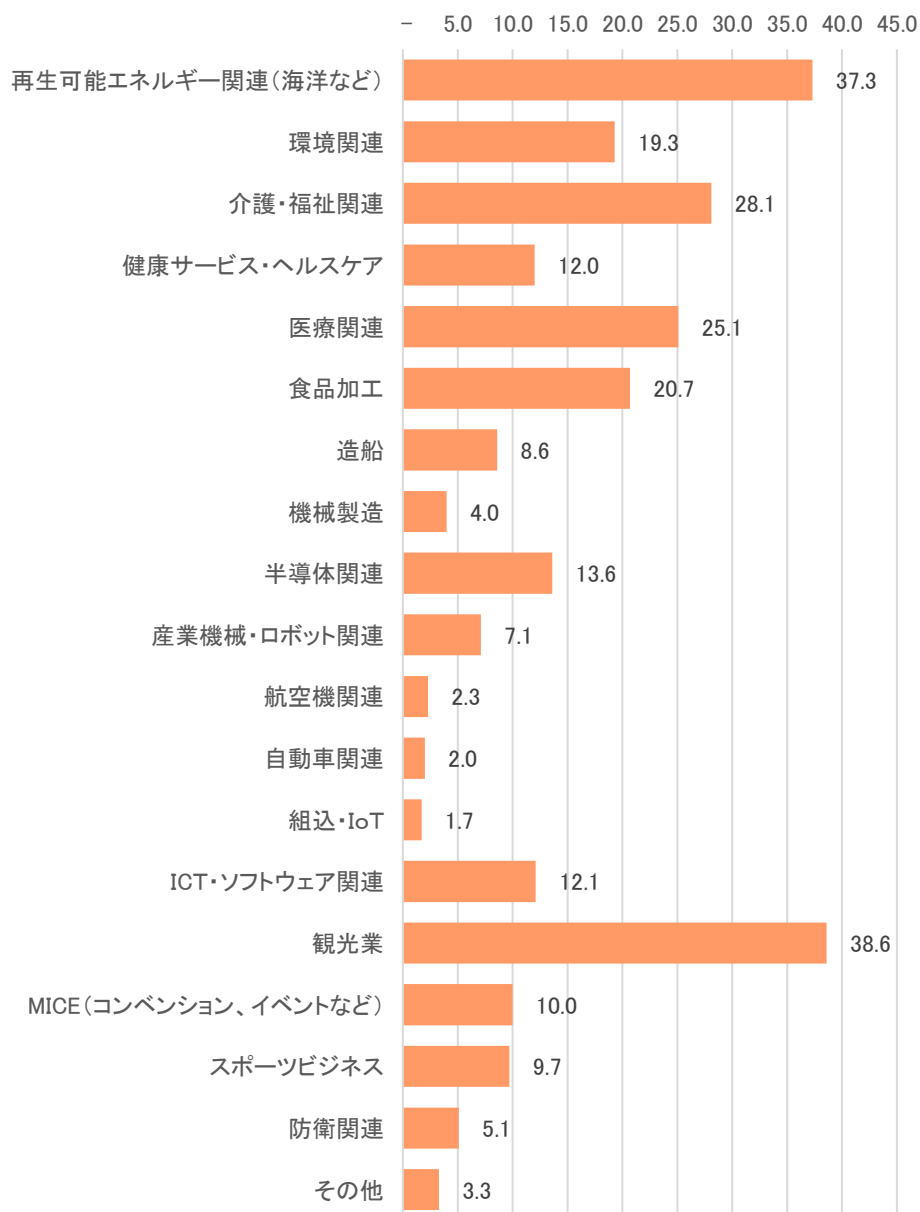
- 新型コロナウイルス感染拡大により変化した消費マインドとしては「冷静な消費行動を取りたい」、「自分さえよければという消費行動をとりたくない」、「食品のムダをなくし、なるべく廃棄がないようにしたい」について、“非常にそう思う”が5割を超えた。



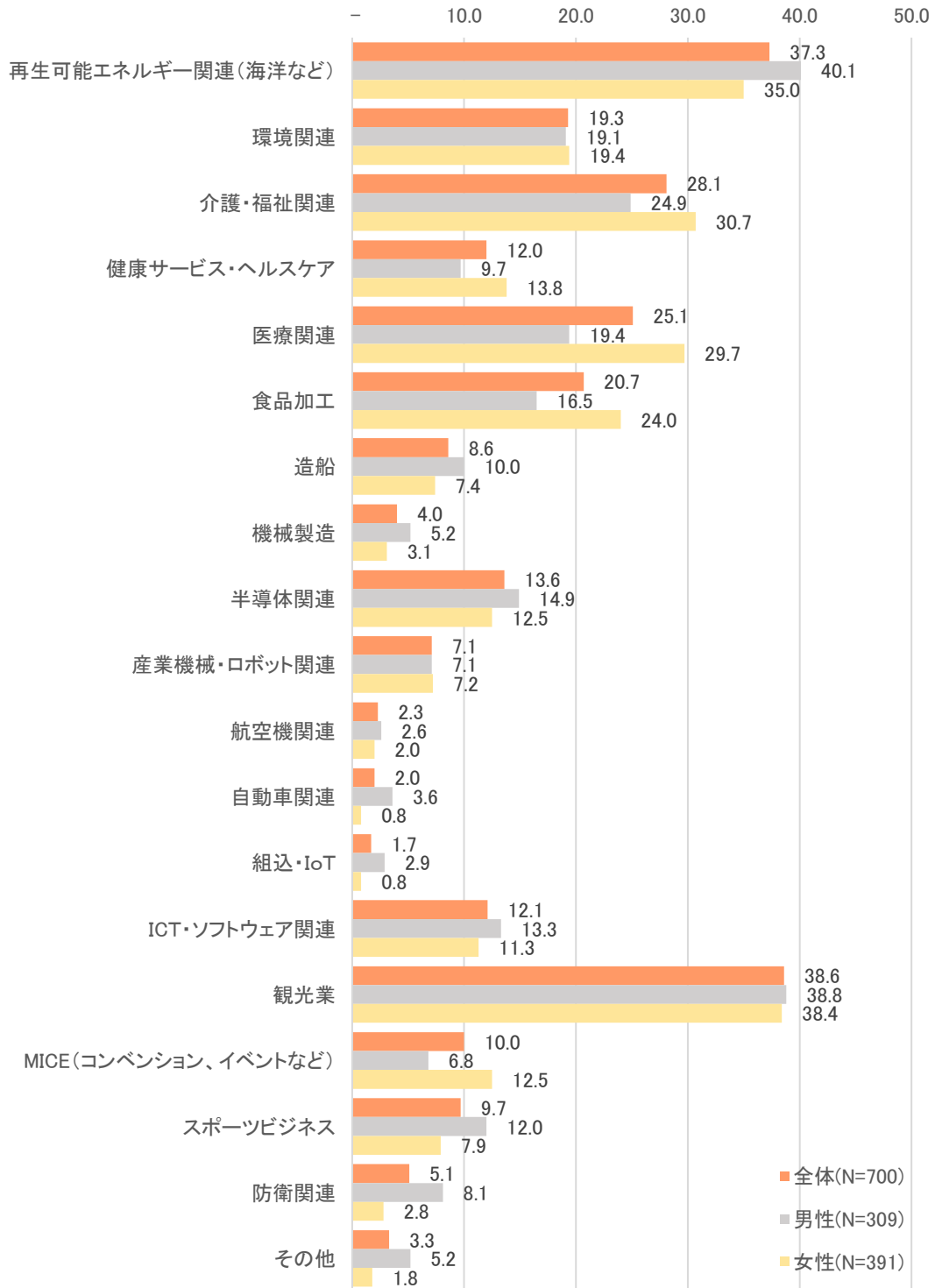
問 31:長崎市の成長分野

「観光業」、「再生可能エネルギー関連分野」に高い期待

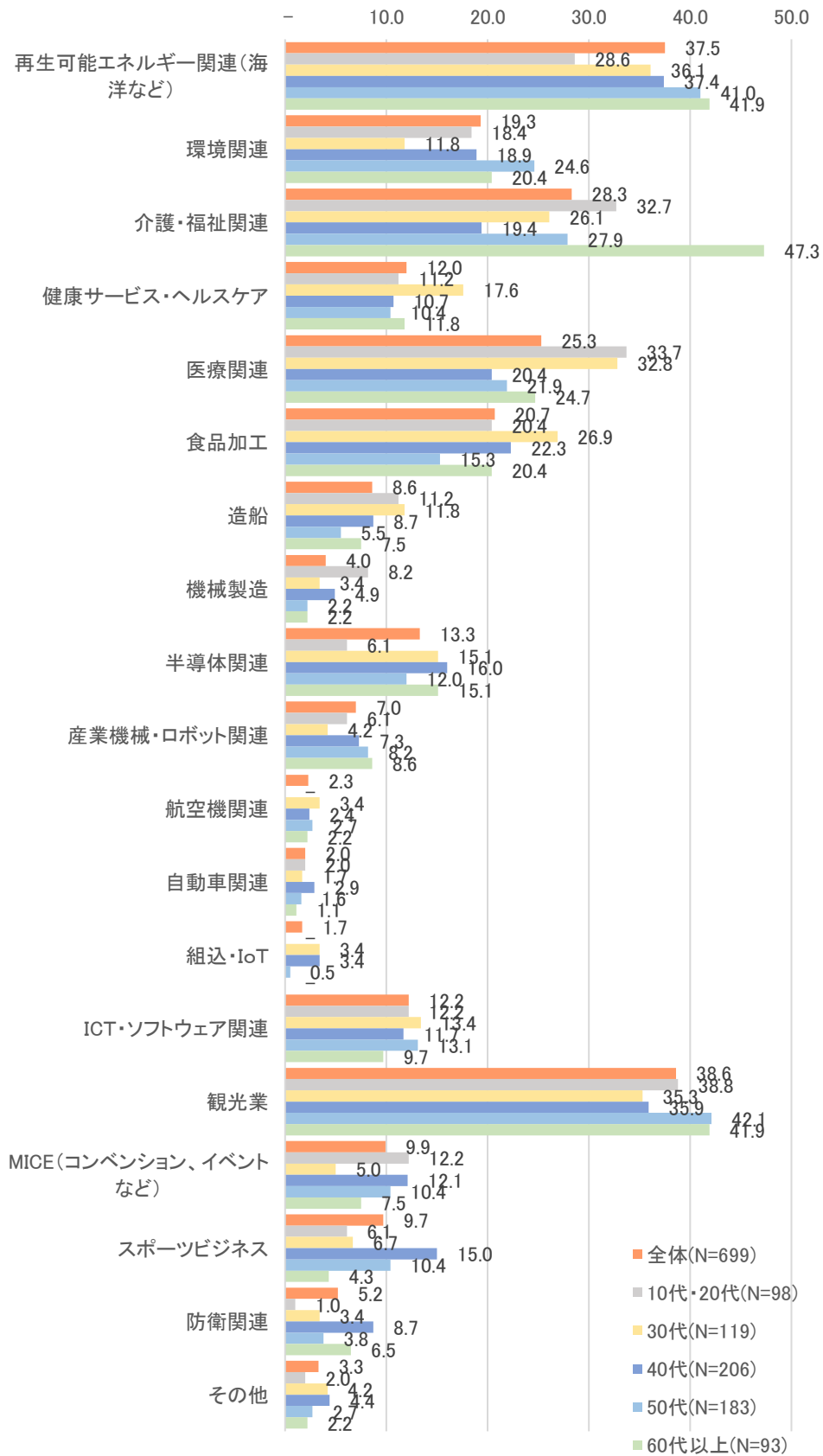
- ・ 長崎市の成長分野として期待する産業は「観光業」が 38.6%で最も多く、「再生可能エネルギー関連」が 37.3%で続いている。
- ・ 男女別では全体的な傾向の大差はないものの、「医療」、「食品」、「介護・福祉関連」などで女性の期待が高い傾向がみられた。
- ・ 年代別も全体的な傾向の大差はみられないが、60 代以上では「介護・福祉関連」の期待が多くなっている。



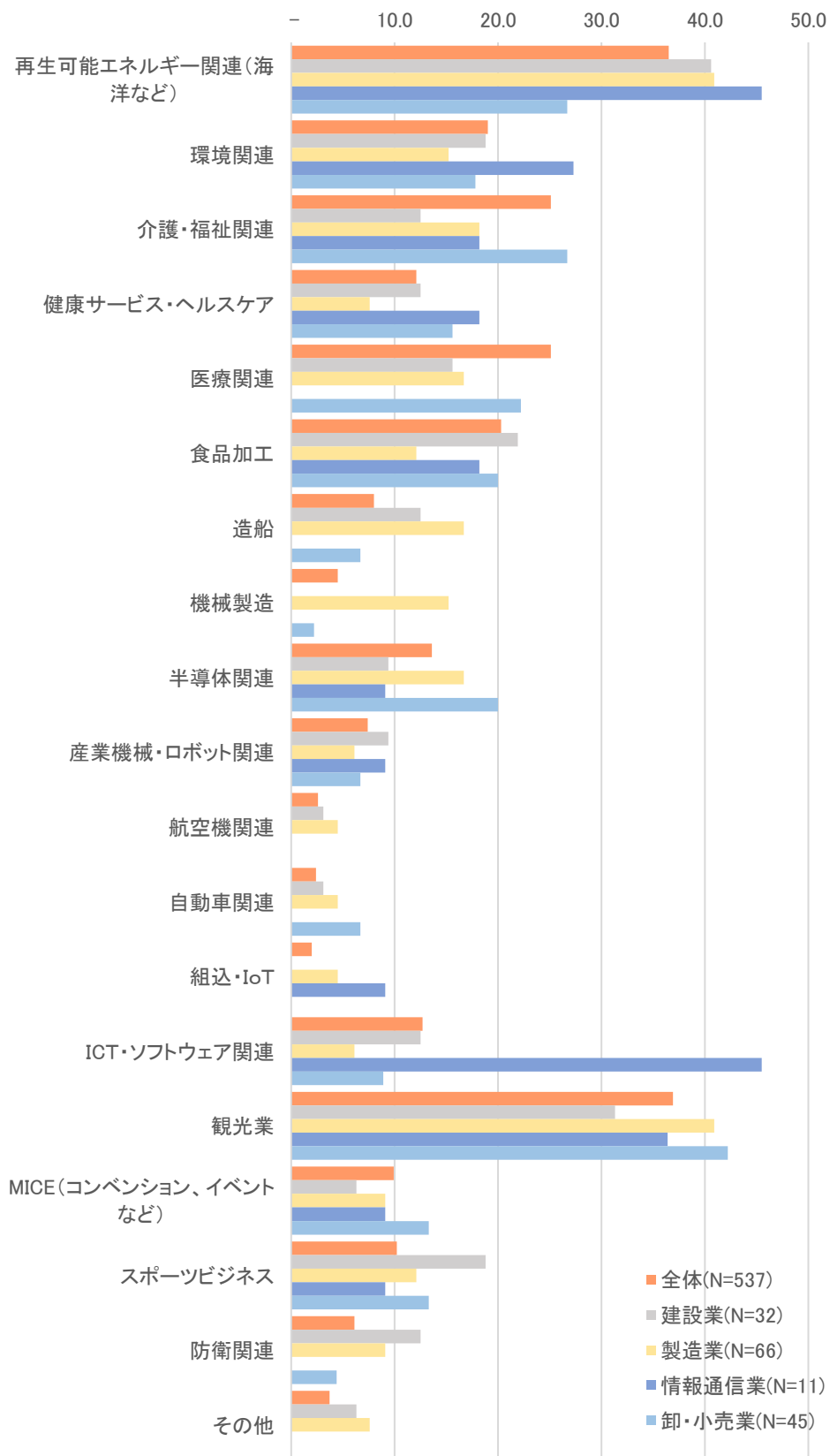
(男女別)



(年代別)



(業種別)



(業種別 ～続き～)

